

II.「ドコカレ」によろこそ

～プログラムの概要と選び方～

執筆者：岡村典子

ここでは、「ドコカレ」プログラムの概要、そして受講者の方からどのようにしてプログラムを選んでいただくかの二点についてお伝えします。

1. プログラムの概要

1) 目的

ドコカレのプログラムは、子育てなど様々な諸事情により第一線から離れている看護職の「学び直し」の場を提供し、再び臨床現場へと戻られるよう支援することを大きな柱としています。また、学び直しの観点から、最新医療や制度に関して学びたいニーズを持っておられる現役の看護職にも門戸を開いて支援していきます。

2) 特色

本プログラムの特色として、公開講座や公開授業で学ぶ従来の「オープン・カレッジ」に加え、受講者の方々の学びの場を限定せず、自宅での受講を可能とする遠隔授業や視聴覚教材による自己学習を可能とするコンテンツを徐々に充実していく予定です。インターネットを利用した遠隔授業を含む「バーチャル・カレッジ」では、受講者の方が見る・聞くだけといった「受け身」になる一方通行の形式ではなく、ネットコミュニケーションシステムを活用することによりプログラム担当者からのフィードバックを適宜受けながら双方向性を重視したインタラクティブな学びを促進するプログラムを目指します。また、インターネットを利用することで、ネット環境さえあれば自宅だけでなくどこでも繰り返し学ぶことができ、自己のペースで“やりたいときに”学習することができます。安心・安全な学びの場とするため、セキュリティはもちろん、受講者の方の登録・管理（アクセス記録やレポート管理など）を保存維持していく学習管理システムを導入いたします。

さらに、当大学を学びの場として活用していただくのはもちろんのこと、病院施設との提携により実践現場での技術習得も予定しています。

受講者のこれまでの経験や知識・技能など背景の違いを考慮し、多彩なニーズに対応できるように内容を徐々に揃えていく予定です。また、受講者が自分自身のニーズに合わせて自由にプログラムを計画できるよう準備を進めています。

3) 内容

内容については、検討を進めている最中ですので、ここでは大まかな点をお伝えしていきます。期間としては、平成20年8月から平成21年8月までの一年間を1期として予定しています。受講者は、看護師免許を有している方で、現在未就業で、近い将来看護職として再就業を考えている方、そのほか看護技術といった技能面、あるいは最新医療や医療制度といった知識面での不安を持っておられる方が対象です。

学習方法として、当大学あるいは病院施設等に赴いて学習する「オープン・カレッジ」と自宅で自由に学習できる「バーチャル・カレッジ」の2つを準備しています。まず「オープン・カレッジ」では、当大学看護研究交流センターとの共同開催による公開講座への出席、大学の授業聴講、大学図書館や情報処理室、実習室などの施設利用、病院施設での実習等を計画して

おります。「バーチャル・カレッジ」では、インターネットを利用した大学授業等の VTR 学習、および視聴覚教材による自己学習、そしてネットを介した質疑応答やレポート提出ができるよう準備を進めています。また、オープン・カレッジの中にはバーチャル・カレッジを活用しながら進めていく併用型やバーチャル・カレッジとして開講されるものもあります。

本プログラムの修了が認められた方には、認定証を発行いたします。修了後も受講者の方々とは、学習ニーズへのサポートはもちろんのこと、当大学看護研究交流センターの協働パートナーとして交流を継続していきたいと考えています。

2. プログラムの選択方法

1) 受講者のニーズ

受講者が、自身の不得意とする学習内容や興味・関心を持っている医療技術・情報等、個々のニーズに合わせて自由にプログラムから受講内容を選択し、学習計画を立てることが出来ます。

2) ガイドチューターの存在

受講者が、自分でプログラムを選択するのはもちろんですが、どう計画したらいいのだろうと迷った時に助言をするのがガイドチューターです。受講者の方の中には、自身の技術習得の程度や既存知識の内容といった学習レベルの状況、そして時間の確保が難しいなど個々に抱えている諸事情があると思います。そうした状況をお聞きしながら、ガイドチューターが受講者にあった目標設定と実現可能なプログラムの提案を行っていきます。

ガイドチューターは、本学の教員が担当し、プログラムの選択だけでなく、学習が始まってからも相談役として受講者の傍に寄り添い修了までをサポートしていきます。

3. ドコカレの学習プログラム解説

1) 学習方法

(ア) オープン・カレッジ施設に赴いて学習する

- ・公開講座に出席（看護研究交流センター「生涯学習・研修支援事業」と共同開催）
- ・大学の授業聴講
- ・病院実習
- ・大学図書館の利用

(イ) バーチャル・カレッジで自宅で自由に学習する

- ・インターネットを利用した VTR 学習（大学授業、公開講座の VTR）
- ・視聴覚教材による自己学習
- ・インターネットを介した質疑応答、レポート提出など

2) ドコカレ学習コース

ドコカレのプログラムには、

- ① 講義科目
- ② 演習科目
- ③ 実習科目

を用意しています。このうち、②および③の科目はオープン・カレッジのみでの提供になります。

ドコカレの学習コースを修了した方にはコース修了認定証を発行いたします。学習コースとは、コース修了要件に定める所定の科目の履修を修了し、修了試験で知識・技術の習得状況を確認し、認定するものです。

コース修了要件は、講義科目 15 科目中 7 科目以上、演習科目 4 科目中 2 科目以上を選択受講し、実習科目を 1 科目必修受講し（合計 10 科目以上履修する）、修了試験（詳細は後述）に合格することが必要となります。

3) コース修了認定証の発行：

受講者を Mate（メイト）と呼び、定められたコースの学習を終了し試験に合格したメイトには新潟県立看護大学「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」終了認定証を発行します。

4) コース受講人数の制限

演習や実習の受講を課すために、やむを得ず受講人数を制限します。ドコカレの学習コースを受講できるのは 10 名程度といたします。しかし、実習以外は単発での受講が可能ですので、科目単位での受講者も募集します。

学習コース受講者は原則として、現在就労していない方を対象とさせていただきます。科目単位の受講者は、現在就労している方でもどなたでも可能です。なお、ドコカレのメイト登録は原則看護師免許取得の方に限らせていただきます。ドコカレと共同開催する公開講座は一般の方の受講も可能ですので、ご了承ください。

ドコカレの学習コースを受講者をメイト A、科目単位の受講者をメイト B と呼びます。単発的に科目を受講するメイト B にはコース受講後の修了試験はありません。コース修了認定証としてではなく、学習した科目一覧を明記した認定証を期ごとに発行いたします。メイト B の人数制限はそれぞれの科目で異なりますので、ご確認ください。

参加申し込み

ホームページをご覧ください。電話にてお問い合わせください。

問合せ先

〒943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地

新潟県立看護大学

電話：025-526-2822（直通・FAX 兼）

電話：025-526-2811（代表）

Email：dokokare@niigata-cn.ac.jp

HP：http://dokokare.nirin.jp

Ⅲ. メイトさんの状況～アンケート結果より～

執筆者（順不同）：飯田智恵，水澤久恵

当初から私たちには「プログラムが開始したらメイトさんの学習の様子を知りたいですね」という思いがありました。そこで、その方策のひとつとして、メイトの皆様へ学び直しのニーズ、インターネット・パソコン環境を含めた学習環境、学習に関する要望などについてアンケートにご協力いただきました。お寄せいただいた情報やご意見をもとにより良い学習を行っていただくための支援や課題の検討を行い、次年度のプログラム運営に活用させていただきたいと考えています。

1. 調査の概要

調査目的

本プログラムに参加した者の看護職としての職歴、就業状況、学習環境、学び直しのニーズ等を明らかにすることで、看護師の学び直しの支援に資する基礎資料を得る。

調査対象

平成20年4月から平成21年2月までに本プログラムに登録した看護師有資格者（ドコカレメイト）23名

調査方法

ドコカレメイト個人への郵送による質問紙調査を実施した。看護職としての職歴や学習環境と学び直しのニーズとの対応を見るとともに、異なる職歴・就業状況にあるメイトに対する個別的な学習支援を今後検討していく必要があると考え、記名式回答を採用した。本調査の趣旨とプライバシーに関する説明を明記した依頼文、質問紙、切手が貼付された返信用封筒を同封したものをメイト個人へ郵送し、調査への協力を依頼した。

調査時期

平成20年9月～平成21年2月

調査内容

1) 属性

性別、年齢

2) 看護職としての職歴

(1) 看護職としての経験年数および離職年数：出産・育児、病気、介護等による休暇期間は就業していたものとして経験年数に含めて計算し、回答するよう求めた。

(2) 就業状況

①（現職者に対して）現在の雇用形態、勤務形態、職務内容

②（過去に看護職として働いた経験のある者に対し）最後に看護職として働いていた時の雇用形態、勤務形態、職務内容

③（看護を離職している者に対して）離職理由

3) 今後の就業に対する見通し、希望する雇用形態、勤務形態、職務内容

4) 学び直しのニーズ、看護職として就業する意思

(1) 看護職としての能力に対する自己評価、看護職として働く意思

① 看護職として必要な知識

- ② 看護職として必要な技術
- ③ (現職者, 出産・育児等よりの休暇中の者に対して) 看護職を今後も続けたいと思うか
- ④ (看護を離職している者に対して) 看護職として今後働きたいと思うか

①～④の各項目に対し, 自己評価や主観を 10cm の線の上に記入するビジュアルアナログスケール (以下, VAS と略す) を用いた. すなわち, 横軸の 10cm の目盛のない線の上に, ①と②に関しては「不足している」を 0cm, 「十分ある」を 10 cm とし, ③と④については「全く思わない」を 0cm, 「強く思う」を 10 cm とし項目毎に記入を求め, その位置を測定した.

(2) 看護職としての知識, 技術で不足していると思うこと (自由記載)

- 5) ドコカレをしたきっかけ, 受講しようと思った動機
- 6) パソコン, インターネット環境
- 7) ドコカレへの期待, 要望 (自由記載)
- 8) その他
 - ・公開講座などオープンカレッジを受講しやすい曜日, 時間帯
 - ・パソコンを利用したバーチャルカレッジを受講しやすい曜日, 時間帯

倫理的配慮

調査票は返信用封筒と研究の趣旨を記載した依頼文を添え, 自由意思によって回答できるように対象者個人への郵送を行った. 依頼文には, 本プログラム代表者の氏名・連絡先, データは全体として集計分析するため個人が特定されないこと, プライバシーの配慮, 回答者本人への学習支援および本プログラム運営の目的以外に使用することはないことなど, を明記した. 調査票の回収をもち, 調査協力の受諾とした.

2. 結果の概要

回収された 8 名 (回収率 34.8%) を分析対象とした.

1) 対象者の概要

性別は女性 8 名, 男性 0 名, 年齢は 33～59 歳 (平均±SD, 46.4±8.9 歳) であった. 全員が看護職として勤務した経験を有し, 3 名は離職することなく看護職として勤続していた.

看護職としての通算経験年数は 10～30.5 年 (平均±SD, 22.2±8.7 年) で, 10 年以上 15 年未満が 3 人, 25 年以上 30 年未満が 4 人, 30 年以上 35 年未満が 1 人であった. 通算離職期間は 0～12 年 (平均±SD, 3.2±4.8 年) で, 最長離職期間は 0～10 年 (平均±SD, 2.69±3.8 年) であった.

2) 看護職としての就業状況

現在の就業状況については, 7 名が看護職として働いており (以下, 現職者), 1 名は看護職以外の仕事をしていた (以下, 離職者). 現職者 7 名のうち 4 名は過去に離職したことがあった.

離職者 1 名が回答した“離職した当時の理由” (複数回答) として「妊娠・出産」「子育て」「結婚」「進学・研修等」「適正・能力への不安」「上司との関係」

が挙げられた。離職した1名が回答した“現在も看護職として就業していない理由”（複数回答）は「適正・能力への不安」であった。

現職者には現在の状況、離職者には最後に看護職として働いていた時の雇用状況について回答してもらったところ、雇用形態に関しては「常勤」7名、「非常勤」1名であった。勤務場所は「病院」3名、「診療所」2名、「介護施設」2名、「学校」1名であった。勤務形態は7名が「日勤のみ」、1名が「三交代勤務」であった。

現在従事する（離職者については、最後に看護職として働いていたときに従事していた）業務内容（複数回答）として、「病棟看護」「外来看護」「施設看護」「看護管理」などが挙げられた。

3) 今後の就業に関する見通し

現職者7名のうち、「近い将来、新しい職場を探したい」と「新しい職場を探している」を合わせて、4名が看護職として新しい職場を探したいと考えていた。この4名と離職者1名が希望する就業条件について、雇用形態としては「常勤」が4名、「非常勤」が1名で、勤務形態としては5名全員が「日勤のみ」という結果であった。また、希望する勤務場所（複数回答）は「病院」、「診療所（無床）」、「訪問看護ステーション」「介護施設」「居宅サービス事業所」「検診・労働衛生機関」が挙げられた。

4) 学び直しのニーズについて

(1) 看護の知識で不足していると思うもの

最新の知識（治療・予防、ケア、医療用語など）や自分が経験したことのない診療科についての知識不足が記載されていた。また、フィジカルアセスメント等自分で考えるための基礎知識、問題解決能力、研究的視点、経営・管理についても挙げられた。

(2) 看護の技術で不足していると思うもの

教育を受けた時点と現在で医療技術に大きな差があることから、最新の技術、より安楽で効果的なケア技術、心電図の読み方などについて知識が不足しているという記載が見られた。観察や医療処置的な基本的技術を挙げた者もいた。

5) ドコカレへの参加について

ドコカレを知ったきっかけについては、3名が「ドコカレのポスター等を見て」、2名が「大学の公開講座を調べていて」、1名が「知り合いに勧められて（上司）」、1名が「報道を見て（新聞）」であった。ドコカレを受講しようと思った動機は「受講したい公開講座があった」「eラーニングなど自宅学習ができる」「自宅から通いやすい」と答えた者が多かった。ドコカレに期待していること（複数回答）として、全員が「看護の知識・向上」と答え、その他にも「再就職・転職に対する不安軽減」「キャリアアップ」「仲間づくり・情報交換」「一般教養を高める（IT関連など）」も挙げられた。

6) パソコン、インターネット環境について

全員がパソコンを使ったことがあり、自由に使えるパソコンを持っていた。「ほぼ毎日」～「週に数回」をあわせたパソコンを定期的を使用している者が4名、「月に数回」が3名、「ほとんど使わない」が1名であった。パソコンを使用する目的として、「インターネット閲覧」「書類作成」が多かった。パソコンを使用する場所（複数回答）については「自宅」8名、「職場」5名で、全員が自宅にパソコンおよびインターネット環境を備えていた。

実施期間：平成20年9月～平成21年2月
配布数：23 回収数：8（回収率34.8%）

1. 属性

- <年齢> 33～59歳（平均±SD 46.4±8.9歳）
<性別> 女性8名，男性0名
<メイト登録種別> メイトA 0名，メイトB 8名

2. 看護職としての職歴

表 1-1 通算経験年数

（産休，育休，病気や介護等による休暇中は就業とみなす。また，看護職として働いた経験のない者は「0年0か月」と記入）

	度数
10年以上15年未満	3
15年以上20年未満	
20年以上25年未満	
25年以上30年未満	4
30年以上35年未満	1

表 1-2 通算離職期間

	度数
0年0か月	3
1ヵ月以上1年未満	1
1年以上5年未満	2
5年以上10年未満	2

表 1-3 最長の離職期間

	度数
0年0か月	3
1ヵ月以上1年未満	1
1年以上5年未満	2
5年以上10年未満	1
10年以上15年未満	1

3. 現在の状況と看護職からの離職理由

表 2 現在の就業状況

	度数
看護職として働いている	7
長期休暇中	
看護職以外の仕事をしている ※	1
収入を得る仕事をしていない ※	

表 3-1 今後も看護職として働きたいと思うか

(表 2 の問いで※のついた項目に回答した者のみ回答)

	度数
働きたい	
働く気はない	
わからない	
無回答	1

表 3-2 看護師からの離職理由;離職当時の理由 (複数回答)

(表 2 の問いで※のついた項目に回答した者のみ回答)

自身の状況に関すること	度数	環境に関すること	度数
結婚		雇用側の都合(閉鎖, 統廃合等)	
妊娠・出産	1	雇用形態に不満(非常勤など)	
子育て	1	昇進・昇給・給与に不満	
親族の健康・介護		教育・研修体制に不満	
自分の健康		勤務時間長い・超過勤務が多い	
転居		夜勤の負担が大きい	
リフレッシュ		休暇がとれない	
進学・研修・留学		(看護管理者等)上司との関係	1
家事と両立しない		同僚との関係	
自分の適性・能力への不安	1	医師との関係	
他の職場(看護職)への興味	1	患者・ケア対象者との関係	
看護職以外の職業への興味		看護の理念・方針に不満	
興味, やりがいが無い		職場において看護の自律性, 専門性が認められない	
		責任の重さ・医療事故への不安	
		医療のIT化に適応できない	

表 3-3 現在看護職として就業していない理由 (複数回答)

(表 2 の問いで※のついた項目に回答した者のみ回答)

自身の状況に関すること	度数	環境に関すること	度数
結婚		雇用側の都合(閉鎖, 統廃合等)	
妊娠・出産		雇用形態に不満(非常勤など)	
子育て		昇進・昇給・給与に不満	
親族の健康・介護		教育・研修体制に不満	
自分の健康		勤務時間長い・超過勤務が多い	
転居		夜勤の負担が大きい	
リフレッシュ		休暇がとれない	
進学・研修・留学		(看護管理者等)上司との関係	
家事と両立しない		同僚との関係	
自分の適性・能力への不安	1	医師との関係	
他の職場(看護職)への興味		患者・ケア対象者との関係	
看護職以外の職業への興味		看護の理念・方針に不満	
興味, やりがいが無い		職場において看護の自律性, 専門性が認められない	
		責任の重さ・医療事故への不安	
		医療のIT化に適応できない	

4. 看護職としての雇用、勤務形態

「現職者」は現在の状況について、「長期休暇中（育休等）の者」は休暇に入る直前の状況について、「看護職以外の仕事をしている者または無色の者」は最後に看護職として働いた時の状況について回答

表 4-1 雇用形態

	度数
常勤(正職員)	7
非常勤(パート等)	1
1か月未満の臨時雇用	7
派遣職員	

表 4-2 勤務場所

	度数
病院(急性期中心)	1
病院(療養中心)	
病院(精神科)	1
病院(産婦人科)	
病院(その他:脳外科)	1
診療所	2
訪問看護ステーション	
介護施設	2
ケアハウス・有料老人ホーム	
グループホーム	
その他の居宅サービス事業所	
その他の社会福祉施設	
助産所	
保健所	
市町村(保健センター等)	
省庁・都道府県庁・市町村(社協)	
検診(健診)・労働衛生機関	
企業・事業所等の健康管理部門	
地域包括支援センター	
看護系教育研究機関	
その他(学校)	1

表 4-3 勤務形態

	度数
三交代(日勤・準夜・深夜)	1
二交代(日勤・夜勤)	
日勤のみ	7
夜勤のみ	

表 4-4-1 従事する(していた)主な業務内容(複数回答)

	度数
病棟看護	3
外来看護	2
手術室看護	
救命救急・ICU	
透析室	
ホスピス	
施設看護(社会福祉施設等)	2
地域保健(一般行政)	
看護管理	1
検診	
介護予防事業	
生活習慣病予防事業	1
訪問看護	
健康管理(健康管理室)	1
ケアマネジメント	1
研究・開発	
教育	

表 4-4-2 最も重点を置く(置いていた)業務内容(複数回答)

	度数
病棟看護	1
外来看護	2
手術室看護	
救命救急・ICU	
透析室	
ホスピス	
施設看護(社会福祉施設等)	1
地域保健(一般行政)	
看護管理	1
検診	
介護予防事業	
生活習慣病予防事業	1
訪問看護	
健康管理(健康管理室)	1
ケアマネジメント	
研究・開発	
教育	
無回答	1

5. 就業に関する希望

1) 就業に関する現時点での見通し

表 5-1-1 現在、看護職として働いている者の見通し

	度数
現在の職場で看護職を続ける	2
新しい勤務先(看護)を探したい ※	4
新しい職場(看護)を探している ※	
転職(看護職以外)を考えている	
わからない	1

表 5-1-2 育児休暇等の長期休暇中の者の見通し(該当者なし)

	度数
休暇前と同じ部署に戻る予定	
休暇明けに新しい部署へ異動予定	
退職を考えている	
わからない	

2) 就業に関する希望

現職者のうち新しい職場を探そうと考えている者;表 5-1-1 で※のついている回答をした者, または看護職以外の仕事をしている者, または無職の者が回答

表 5-2-1 希望する雇用形態

	度数
常勤(正職員)	4
非常勤(パート等)	1
1か月未満の臨時雇用	
派遣職員	
看護職として働く気はない	

表 5-2-2 希望する勤務場所(複数回答)

	度数
病院(急性期中心)	1
病院(療養中心)	
病院(精神科)	
病院(産婦人科)	
病院(その他)	
診療所(有床)	
診療所(無床)	1
訪問看護ステーション	1
介護施設(老人保健施設)	2
介護施設(特別養護老人ホーム)	
ケアハウス・有料老人ホーム	
グループホーム	
その他の居宅サービス事業所	2
その他の社会福祉施設	
助産所	
保健所	
市町村(保健センター等)	
省庁・都道府県庁・市町村(社協)	
検診(健診)・労働衛生機関	2
企業・事業所等の健康管理部門	
地域包括支援センター	
看護系教育研究機関	

表 5-2-3 希望する勤務形態

	度数
三交代(日勤・準夜・深夜)	
二交代(日勤・夜勤)	
日勤のみ	5
夜勤のみ	

表 5-2-4 希望する業務内容(複数回答)

	度数
病棟看護	1
外来看護	1
手術室看護	
救命救急・ICU	
透析室	
ホスピス	
施設看護(社会福祉施設等)	2
地域保健(一般行政)	
看護管理	1
検診	
介護予防事業	1
生活習慣病予防事業	1
訪問看護	1
健康管理(学校・企業等の健康管理室)	
ケアマネジメント	3
研究・開発	
教育	

6. 看護職としての知識と技術

1) 知識・技術に対する自己評価

表 6-1 看護職としての知識・技術に対する自己評価

	mm
①看護職として必要な知識 (値が小さいほど不足していると思っている)	3~64
②看護職として必要な技術 (値が小さいほど不足していると思っている)	3~56
③看護職を今後も続けたい (現職者:値が小さいほどあてはまらない)	48~91
④看護職として今後働きたい (離職者:値が小さいほどあてはまらない)	49

2) 看護職としての能力で不足していると思うこと

表 6-2 知識で不足していると思うこと

- ・最新の知識(病院勤務をしていない, 人員不足で出張へ行けないため)
- ・整形, 精神科の経験のみで, 他の科の知識がない(勉強はしたが実際には見たことがない)
- ・記録の書き方
- ・経営管理
- ・研究的視点
- ・問題解決能力
- ・養護教諭として健康管理・教育が中心のため, 新しい治療・予防等についての知識が不足
- ・フィジカルアセスメント等自分で「考える」ための基礎的知識
- ・現在の医療用語, 総合病院での最新の治療の様子
- ・新しい医療, ケアの知識と生かし方
- ・エビデンス

表 6-3 技術で不足していると思うこと

- ・最新の技術(病院勤務を長年しておらず, 昔の技術・道具しかわからない)
- ・観察
- ・基本的な看護知識, 忘れていていることがある, 言われて気づく
- ・心電図の読み方
- ・自分が教育を受けた時とは技術的に大きな差があり, 基本的な技術にも不安(医療処置)
- ・現在の技術の基本を大切に行う努力をしている, 傷の包帯を巻くこと一つにしても, パッドの方が良いか, 強さ等, 患者様との会話の中で反省することはいろいろある
- ・新しくなっているかもしれない部分
- ・自分が習った頃とどこがどんなに変化しているのかいないのか
- ・知っているもの以上に安楽で効果的な方法があるのではないか

7. ドコカレの受講について

表 7-1 ドコカレを知ったきっかけ(複数回答)

	度数
大学の公開講座を調べていて偶然	2
ドコカレのポスター等を見て	5
ハローワークで	
看護協会で	
病院で	(3)
福祉施設で	(1)
その他	(1)
知り合いに勧められて	1
職場の上司に	(1)
同僚	
友人	
報道等を見て	1
新聞	(1)
大学広報紙	
テレビ	
ラジオ	

表 7-2 ドコカレの受講動機(複数回答)

	度数
受講したい公開講座があった ※	4
受講したい専用講座があった	1
自宅から通いやすい	3
eラーニングなど自宅学習できる	4
双方向通信, 大学との情報交換	1

※の具体内容 : 医療事故について (1)

表 7-3 ドコカレに期待していること(複数回答)

	度数
再就職や転職の際の自己アピール(修了証, 科目受講証明書の活用)	1
再就職や転職に対する不安軽減	3
キャリアアップ	1
昇進・昇給	
希望業務につくため	
転職のため	(1)
常勤に登用されるため	
看護の知識・技術の向上	8
一般教養を高める(IT 関連等)	1
仲間作り, 情報交換	2
その他	1

その他の内訳 : 看護職や医師等と良いチームでケアを行うため

8. パソコン, インターネット環境について

表 8-1 パソコンを使用したことがあるか

	度数
はい	8
いいえ	

表 8-2 パソコン歴

	度数
1年以上5年未満	2
5年以上10年未満	1
10年以上	4
無回答	1

表 8-3 パソコンの使用頻度

	度数
ほぼ毎日	3
週に数回	1
月に数回	3
ほとんど使わない	1

表 8-4 自由に使えるパソコンを持っているか

	度数
はい	8
いいえ	

表 8-5 パソコンを使用する場所(複数回答)

	度数
自宅	8
勤務先	5

表 8-6 パソコンを使用する目的(複数回答)

	度数
書類作成	7
電子メール	3
インターネット閲覧	8

表 9 インターネット環境

	自宅	職場
インターネット接続なし		3
ISDN	3	
ADSL	3	4
光ファイバー	2	1

9. ドコカレへの要望（自由記載）

- オープンカレッジにての講義がどれもインターネットで見れたら良い
- eラーニングで自宅学習できると思ったが、まだこれからというので残念。新潟から通っているうちに続けていきたい。
- 老健施設を中心にこれから転職を考えている。60歳を迎えまだまだ働くために新しい知識を貯めていきたい。
- 近くに看護を学び直せる場があり、とても喜んでいる
- 資格を得るためというよりは、自身の仕事をよりプロフェッショナルにこなせるよう多くの講座を受講したい
- 現在、特養に勤務しているが、最後をどう送るか意思表示できない方が多く、これでよいのか迷うことが多い。
- 経管栄養、吸痰、フォーレ留置 やってやれないことはないが、医師不在の病院となりかねない中、家族も何もしないでいては見殺しにしているような後味の悪さを残したくなく、特養でできるだけのことを望まれることが多い。特養として医療介入は最小限としたいが、切り捨て難い。介護士は家族でもなく技術的制限もある。特養のケアの良し悪しは生きた時間で計られやすい。自分ならされたくないが、仕事だからと逃げることが多い。
- 人が生きる事、尊厳、看取り方、法的面、在宅ケア、看護、訪問看護、医療等の情報、研修に興味がある

ドコカレ メイトの皆様へ ドコカレに関する調査のお願い

このアンケートは、メイトさんおひとりおひとりの学習環境や要望、就業状況について把握し、よりよい学習支援を行っていくための課題について検討することを目的としています。

ご記入いただいた調査用紙は、同封いたしました返信用封筒に入れ、ご返送下さい。

調査にご協力いただいた方の個人情報は、ご本人への学習支援ならびにドコカレ運営の目的以外に使用することはありません。また、前述した調査の目的を果たすために記名式のアンケートとなっておりますが、ドコカレの成果報告に使用させていただく場合には統計処理を行いますので、個人が特定できるような形で公表することは一切ありません。調査の趣旨をご理解いただき、調査に是非ご協力いただけますようお願い申し上げます。

ご不明な点などありましたら、下記までご連絡ください。

平成 20 年 9 月

新潟県立看護大学 看護研究交流センター
センター長 吉山 直樹
文部科学省「社会人学びなおしニーズ対応教育推進プログラム」
どこでもカレッジプロジェクト事務局
事務 木村・岡沢
電話&FAX 025-526-2822
Mail address dokokare@niigata-cn.ac.jp

- ② A. 看護から離職した当時の理由, B. 現在看護職として就業していない理由 は何ですか. 主な理由を, A・Bの別を選んで, 番号に○をつけてください.
(項目全体をざっと見てから, あてはまるものすべてに○をつけて下さい)

	項目	A. 離職当時の理由	B. 現在就業していない理由
あなたご自身の状況に関する事	結婚	1	1
	妊娠・出産	2	2
	子育て	3	3
	親族の健康・介護	4	4
	自分の健康	5	5
	転居	6	6
	リフレッシュ	7	7
	進学・研修・留学	8	8
	家事と両立しない	9	9
	自分の適性・能力への不安	10	10
	他の職場（看護職）への興味	11	11
	看護職以外の職業への興味	12	12
	興味がもてない, やりがいが無い	13	13
職場環境に関する事	雇用者側の都合（施設の閉鎖, 統廃合等）	14	14
	雇用形態に不満（非常勤など）	15	15
	昇進・昇給・給与に不満	16	16
	教育・研修体制に不満	17	17
	勤務時間が長い・超過勤務が多い	18	18
	夜勤の負担が大きい	19	19
	休暇がとれない	20	20
	（看護管理者等）上司との関係	21	21
	同僚との関係	22	22
	医師との関係	23	23
	患者・ケア対象者との関係	24	24
	看護の理念・方針に不満	25	25
	職場において看護の自律性, 専門性が認められない	26	26
	責任の重さ・医療事故への不安	27	27
	医療のIT化（電子カルテ等）に適應できない	28	28
その他（具体的に）	29	29	

2-3) 看護職として働いている方、又は看護職として働いた経験のある方にお聞きします。

(看護職として働いた経験のない方は、質問3に進んでください)

あなたの現在の状況(以下のA~Cのどれか)に応じて、次の①~④の質問にお答えください。

- A. 現在、看護職として働いている方は、現在の状況について
- B. 現在、長期休暇中の方(育休等)は、休暇に入る直前の状況について
- C. 現在、看護職以外の仕事をしている方・収入を得る仕事をしていない方は、最後に看護職として働いた職場の状況について

① 雇用形態は、次のどれにあたりますか：(いずれかひとつ)

a. 常勤(正職員)
b. 非常勤(嘱託・パート・アルバイト等)
c. 期間1か月未満の臨時雇用
d. 派遣職員
e. その他()

② 勤務場所の種別は、次のどれにあたりますか：

(a~q いずれかひとつ、さらに()内選択肢にチェック)

a. 病院(急性期中心・療養中心・精神科・産婦人科・その他())	
b. 診療所(有床・無床)	c. 訪問看護ステーション
d. 介護施設(老健・特養)	e. ケアハウス・有料老人ホーム
f. グループホーム	g. その他の居宅サービス事業所
h. その他の社会福祉施設(障害者施設等)	i. 助産所
j. 保健所(都道府県・政令指定都市)	k. 市町村(保健センター等)
l. 省庁・都道府県庁・市町村(社協含む)	m. 検診(健診)・労働衛生機関
n. 企業・事業所などの健康管理部門	o. 地域包括支援センター
p. 看護系教育研究機関	q. その他()

現在、働いている方で、差し支えなければ、勤務先の名称をご記入ください。

③ 勤務形態は、次のどれにあたりますか：(いずれかひとつ)

a. 三交代(日勤・準夜・深夜)
b. 二交代(日勤・夜勤)
c. 日勤のみ
d. 夜勤のみ
e. その他()

- ④ あなたが従事する（していた）主な業務内容は、次のどれですか：
 （あてはまるものすべてに○、特に重点を置いてしていた業務には◎をつけてください）

a. 病棟看護	b. 外来看護
c. 手術室看護	d. 救命救急・ICU
e. 透析室	f. ホスピス
g. 施設看護（社会福祉施設等）	h. 地域保健（一般行政）
i. 看護管理	j. 検診
k. 介護予防事業	l. 生活習慣病予防事業
m. 訪問看護	n. 健康管理（学校・企業等の健康管理室）
o. ケアマネジメント	p. 研究・開発
q. 教育	r. その他（ ）

質問 3. 就業・転職・復職・再就職について、現時点での見通しを教えてください

- A. 看護職として働いている方・・・質問 3-1) に進んでください
 B. 育休等の長期休暇中の方・・・質問 3-2) に進んでください
 C. 看護職以外の仕事をしている方または無職の方・・・質問 3-3) に進んでください

3-1) 現在、看護職として働いている方にお聞きします：（いずれかひとつ）

a. 現在の勤務先で仕事（看護職）を続ける予定	b. 近い将来、新しい勤務先（看護職）を探したい
c. 新しい勤務先（看護職）を探している	d. 転職（看護職以外）を考えている
e. わからない	f. その他（ ）

⇒b または c と回答した方は、質問 3-3) へ進んでください。
 ⇒a.d.e.f のどれかに回答した方は、質問 4 へ進んでください。

3-2) 現在、育休等の長期休暇中の方にお聞きします：（いずれかひとつ）

a. 休暇に入る前と同じ部署に戻る予定
b. 休暇明けに、新しい部署に異動する予定
c. 退職を考えている、または退職の方向で職場と話し合っている
d. 今の時点では、わからない
e. その他（ ）

⇒a または b と回答した方は、質問 3-3) へ進んでください。
 ⇒c ~e のどれかに回答した方は、質問 4 へ進んでください。

3-3) 前のページで、質問3-3)に進んでくださいと指示された方にお聞きします：
現在、あなたが希望する就業条件について教えてください。

① 希望する雇用形態は、次のどれにあたりますか：(いずれかひとつ)

a. 常勤（正職員）
b. 非常勤（嘱託・パート・アルバイト等）
c. 期間1か月未満の臨時雇用
d. 派遣職員
e. 看護職として働く気はない
f. その他（ ）

② 希望する勤務場所は、次のどれにあたりますか：

(あてはまるものすべて、()内選択肢にもチェック)

a. 病院（急性期中心・療養中心・精神科・産婦人科・その他（ ））	
b. 診療所（有床・無床）	c. 診療所（有床・無床）
d. 介護施設（老健・特養）	e. 介護施設（老健・特養）
f. グループホーム	g. グループホーム
h. その他の社会福祉施設（障害者施設等）	i. その他の社会福祉施設（障害者施設等）
j. 保健所（都道府県・政令指定都市）	k. 保健所（都道府県・政令指定都市）
l. 省庁・都道府県庁・市町村（社協含む）	m. 省庁・都道府県庁・市町村（社協含む）
n. 企業・事業所などの健康管理部門	o. 企業・事業所などの健康管理部門
p. 看護系教育研究機関	q. 看護系教育研究機関

③ 希望する勤務形態は、次のどれにあたりますか：(いずれかひとつ)

a. 三交代（日勤・準夜・深夜）
b. 二交代（日勤・夜勤）
c. 日勤のみ
d. 夜勤のみ
e. その他（ ）

④ 希望する業務内容は、次のどれにあたりますか：(あてはまるものすべて)

a. 病棟看護	b. 外来看護
c. 手術室看護	d. 救命救急・ICU
e. 透析室	f. ホスピス
g. 施設看護（社会福祉施設等）	h. 地域保健（一般行政）
i. 看護管理	j. 検診
k. 介護予防事業	l. 生活習慣病予防事業
m. 訪問看護	n. 健康管理（学校・企業等の健康管理室）
o. ケアマネジメント	p. 研究・開発
q. 教育	r. その他（ ）

質問 4. あなたの看護職としての知識や技術に対する自己評価について教えてください

4-1) 線上の当てはまるところに印（縦線）をつけてください

(例) 今あなたは空腹ですか. 全く思わない _____ _____ 強く思う
① 看護職として必要な知識が 不足している _____ 十分ある
② 看護職として必要な技術が 不足している _____ 十分ある
③ (現在看護職として働いている方, 長期休暇中の方) 看護職を今後も続けていきたい. 全く思わない _____ 強く思う
④ (現在看護職の仕事をしていない方) 看護職として今後働きたい. 全く思わない _____ 強く思う

4-2) 今, あなたの看護職としての知識で不足していると思うことはどんなことですか? (自由記載)

4-3) 今, あなたの看護職としての技術で不足していると思うことはどんなことですか? (自由記載)

質問 5. ドコカレの受講について

5-1) あなたがドコカレについて知ったきっかけはどれですか：

(あてはまるものすべて)

a. 大学の公開講座を調べていて偶然見つけた
b. ドコカレのポスターやリーフレットを見て (具体的にどこで ア. ハローワーク イ. 看護協会 ウ. 病院 エ. 福祉施設 オ. その他：)
c. 知り合いに勧められて (具体的に ア. 職場の上司 イ. 同僚 ウ. 知人 エ. 友人 オ. その他：)
d. 報道を見て (具体的に ア. 新聞 イ. 大学広報紙 ウ. テレビ エ. ラジオ オ. その他：)
e. その他 ()

5-2) ドコカレを受講しようと思った動機は、次のどれですか：(あてはまるものすべて)

a. 受講したい公開講座があった (具体的に)
b. 受講したいドコカレ専用講座があった (具体的に)
c. 自宅から通いやすい
d. Eラーニングなどで自宅学習ができる
e. Eラーニングの環境で双方向通信ができ、大学との情報交換ができる
f. その他 ()

5-3) ドコカレに期待していることは、次のどれですか：(あてはまるものすべて)

a. 再就職または転職の際の自己アピール(修了証, 科目受講証明書の活用等)
b. 再就職または転職に対する不安の軽減
c. キャリアアップ (具体的に ア. 昇進・昇給 イ. 希望する業務内容につくため ウ. 転職のため エ. 非常勤から常勤へ登用されるため オ. その他 ()
d. 看護の知識・技術の向上
e. 一般教養を高める (IT関連の知識など)
f. 学習の仲間作り, 情報交換, ネットワーク作り
g. その他 ()

質問 6. あなたのパソコン、インターネット環境について教えてください

6-1) パソコンを使ったことがありますか：(いずれかひとつ)

a. はい (パソコン歴 約 [] 年 または [] か月)
b. いいえ

→ 質問 7に進んでください

6-2) パソコンの使用頻度は、次のどれにあたりますか：(いずれかひとつ)

a. ほぼ毎日	b. 週に数回
c. 月に数回	d. 2~3 か月に一回
e. ほとんど使わない	f. その他 ()

6-3) 現在、あなたが自由に使えるパソコンを持っていますか：(いずれかひとつ)

a. はい →主に使用するパソコンの OS ア. Windows イ. Mac ウ. その他 ()
b. いいえ

6-4) あなたがパソコンを使用する場所は、次のどこですか：

(所有者が誰かにかかわらず、あてはまるものすべて)

a. 自宅	b. 勤務先	c. その他 ()
-------	--------	------------

6-5) あなたがパソコンを使用する目的は、次のどれですか：

(使用したことがある機能にあてはまるものすべて)

a. 書類作成	b. 電子メール	c. インターネット閲覧
d. チャット	e. 掲示板・ブログ	f. その他 ()

6-6) あなたのインターネット環境について教えてください。

① 自宅：(いずれかひとつ)

a. インターネット接続なし	b. ISDN	c. ADSL
d. 光ファイバー	e. わからない	f. その他 ()

② 職場：(いずれかひとつ)

a. ネット環境なし
b. イン트라ネット (職場内のみのネットワーク)
c. インターネット閲覧, メール送受信が可能
d. わからない
e. その他 ()

質問 7. ドコカレへの期待, 要望などお聞かせ下さい

(自由記載)

最後に・・・

- 公開講座などを受講 (大学に来航しやすい曜日・時間帯を教えてください。
- E ラーニングによる電話会議機能などの双方向通信による受講をしやすい曜日・時間帯を教えてください。
- インターネット閲覧が可能な曜日・時間帯を教えてください。
- 電子メールの送受信が可能な方で、まだアドレスを登録していない方へのお願い
今後、ドコカレからのご案内を電子メールで差し上げてもよろしければ、メール
アドレスをご記入ください。(連絡のやり取りには、積極的にメールを積極的に
活用したいと思っておりますので、可能な限りお願いします)。

@

以上です。ご協力に心から感謝申し上げます。

IV. オープンカレッジ

執筆者（順不同）：橋本明浩，深澤佳代子，原等子，
吉山直樹，飯田智恵，岡村典子，水澤久恵

● 平成 20 年度に開講したオープン・カレッジの一覧
(本学関係者は敬称略)

公開講座

	【開催日時】	【担当講師】
1) ドコカレ操作入門	7月26日	本学准教授 橋本明浩
2) 医療事故と医療安全管理 医療事故をめぐる新しい試み	8月6日 8月6日	中部大学大学院教授 稲葉一人先生
3) 看護と栄養管理	8月30日	聖路加看護大学准教授 梶井文子先生
4) 看護師の臨床の「知」と、看護師が経験を積むことの意味	9月20日	東京女子医科大学教授 佐藤紀子先生
5) 感染制御に関する新しい動き	10月4日	東京保健医療大学大学院教授 大久保憲先生
6) 看護と口腔ケア	11月29日	九州歯科大学教授 柿木保明先生
7) (演習) 高齢者の口腔ケア技術演習	11月30日	本学准教授 原 等子

看護学部講義科目

	【担当教員 (本学)】
1) 臨床病理学	吉山
2) 成人看護学	深澤, 高柳, 直成, 酒井 山田, 飯田, 大塚, 石岡
3) 老年看護学	北川, 原, 長瀬, 菅原, 若杉

1. 公開講座

1) ドコカレ操作入門

バーチャルカレッジに先立ち、双方向授業システムを使い簡単な操作で受講できるどこでもカレッジの使い方を説明しました。

開講場所 新潟県立看護大学情報演習室
〒 943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地

開講日時 平成 20 年 7 月 24 日

講師 新潟県立看護大学准教授 橋本明浩

どこでもカレッジのメイトさんに貸与しています。
メイト登録されている方で必要な方はお申し出ください。

連絡先

<お問い合わせ先>

新潟県立看護大学 看護研究交流センター
〒 943-0147 新潟県上越市新南町 240 番地

電話 : 025-526-2822 (直通)

電話 : 025-526-2811 (代表) 内 144

Fax : 025-526-2822 (兼用)

Email : dokokare@niigata-cn.ac.jp



図 1 講習会風景



図 2 双方向授業システム

2) 医療事故と医療安全管理：医療者を元気にする－医療者が元気であることは患者・家族が望むところ－

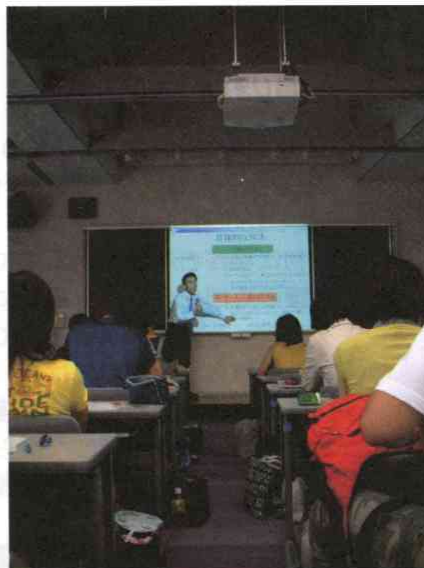
日時：8月6日(水)10:00～16:30

講師：中部大学大学院 教授 稲葉 一人先生

受講者数：72名

概要：医療者としての守秘義務，個人情報保護，説明責任について，また，医療者として医療安全にどう取り組むのか，医療事故を起こさないためにはどのような注意が必要なのか，万が一医療事故にであった場合同様に対処するのかを基礎的なことから分かりやすく講義をしていただいた。また，医療紛争になる前の新しい取り組みとしてのADR，医療コミュニケーター（メディエーター）の役割について説明され，実際の取り組みの状況を紹介していただいた。

どこカレの受講者以外にも，県外の方を含む市民も参加され，長時間であったに関わらず，質問も多く出され，有意義な講義となった。



3) 看護と栄養管理 (専門職への公開授業 テーマ「食」)

日時：8月30日(土) 13:30~15:30

講師：聖路加看護大学 准教授 梶井文子先生

受講者数：17名

概要：「栄養」に関する問題は、看護が専門性を発揮できる重要な部分だと言える。2000年に厚生労働省より「科学的根拠に基づいた食生活指針」が出され、最近では「栄養」に関する政策も、より科学性を前面に打ち出されてきている。今回、看護師でもあり管理栄養士でもある梶井先生をお迎えし、最新の栄養管理の考え方と看護のあり方についてお話をいただいた。梶井先生は栄養管理サービスの概念構築のための基礎的調査の段階に係わっており、栄養管理システムの意義から具体的アセスメント方法まで、非常にきめ細かな講義をしていただいた。参加者からは、とてもわかりやすかったという意見が多く、栄養アセスメントの実際に活用しうる実内容的な内容も含まれていた。この後、エネルギー代謝測定器の学習会へと発展させることができた。

4) 看護師の臨床の「知」と看護師が経験を積むということ

日時：9月20日(土)13:30~15:30

講師：東京女子医科大学 教授 佐藤 紀子先生

受講者数：133名

概要：最初に現在の社会情勢の中での看護をめぐる動向や専門看護師や認定看護師などの看護の専門化の目的と現状についてお話しされた。また、実際の看護師のからインタビューし、講師がまとめて著書にした中から数名の語りを紹介され、それがただ積み重ねられたものではないこと、看護師が臨床の中でエキスパートになっていくに従って積み重ねていく看護経験が意味と価値があるものであると話された。今後、看護師として知を育てながらキャリアをどのように積むのか、自己をどのように育てていくのかについて受講者各自が課題を与えられたような講演であった。



5) 感染制御に関する新しい動き

日時：10月4日（土）13:30～15:30

講師：東京保健医療大学大学院 教授 大久保 憲先生

受講者数：164名

概要：病院感染の概念の変化，感染制御に関しての国の施策上の動き，感染に関する専門職の役割，院内の感染専門家の活動などについて講義された．また，2008年5月現在の感染症法，CDCから出された咳エチケットやPPEの使用方法や確認方法，インフルエンザへの対応についても説明していただいた．さらに，新型インフルエンザに関する最新ガイドラインや現状での対応策など最新の情報についても話され，感染症については，最新の情報がわかりやすい講演であった．



6) 看護と口腔ケア

日時：11月29日（土）13：30～15：30

講師：九州歯科大学 教授 柿木保明先生

（生体機能制御学講座，摂食機能リハビリテーション学分野，歯科医師）

受講者数：88名

概要：口腔ケアの必要性については，誤嚥性肺炎の予防や，口腔ケアそのものが知覚神経を刺激して結果として摂食・嚥下訓練としての効果をもたらすなど，様々なメリットが注目されている。しかし，歯科専門家の間でも補綴や義歯作成などが中心で，障害者や高齢者の口腔ケアについては，今まであまり注目されてこなかった。また，唾液の効用についても医科歯科ともに関心がはらわれてこなかった。長年，障害者歯科の第一線で活躍し，唾液に関する研究においては国内の第一人者と称される柿木先生をお迎えしご講演いただいた。今回は「食」に関連した公開授業の一環として，有効な口腔ケアの考え方と方法にお話しいただいた。乾燥などから，参加した看護師はもとより，歯科衛生士からの反響も大きく，この分野の専門性の確立のためにも本講演の意義があったと思われる。



7) (演習) 高齢者の口腔ケア技術演習

日時：11月29日(土) 10:00~12:00

講師：新潟県立看護大学 准教授 原 等子先生(老年看護学, 看護師)

受講者数：55名

概要：「食」のテーマで開催した専門職公開授業の第3弾として具体的な技術演習を含む講座を企画した。前日の柿木先生の講義内容にリンクさせながら、実際のケア方法などについて説明し、実際に演習を行った。演習では、お互いの口の中を見合うことからはじめ、ケアの前の準備として唾液腺マッサージ法、ケア用品のうち一番刺激が少ないスポンジブラシを例にとり、ケアの力加減、立ち位置、援助方法などを行った。演習では、歯科衛生士も17名参加しており、ちょうど看護職、福祉関係の参加者と半々であったため、満遍なく入るようグルーピングを行った。歯科衛生士でも実践していない人もいたので、看護職や福祉関係職とともに新鮮に演習を楽しんで受講している様子が見られたほか、看護職が実践場面で困っている状況を相談し、結果的に他職種交流となったことなどで満足度を高めていたと思われる。

講義に対する具体的意見の以下の表からも、演習内容への満足度が感じられる。また、今後について、口腔ケアに関してシリーズで続けてほしい、嚥下訓練などをつなげてほしいなど、演習をまた行いたいなど、今回の内容を発展させて学びたい意欲が伝わってきた。

8) 公開講座アンケートまとめ

公開講座には、ドコカレメイトの方はもちろんのこと、専門職の方、一般の方も多く参加されます。参加された方々が、公開講座を受講されどのような感想をもたれたのか、率直なご意見をお聞きするため、アンケートのご協力をお願いしてきました。

アンケートでは、感想やご要望をお聞きするのはもちろんですが、「ドコカレ」プログラムの充実と広報を兼ねまして、看護職の方が必要と感じる学習内容、そして「ドコカレ」への関心をお聞かせいただきました。

ここでは、8月6日に開催されました「医療事故と医療安全管理」から、11月30日の「高齢者の口腔ケアと技術演習」までの6講座でご回答いただきましたアンケートをご紹介します。(なお、紙面の都合上、自由記載欄の内容は一部の紹介とし、こちらで短文化させていただきます。)

(ア) 「医療事故と医療安全管理」稲葉一人先生

8月6日(水) (回収22枚)

- ① 年齢 平均46.6歳
- ② 性別 男性0名 女性22名
- ③ 看護師資格の有無 資格有22名
- ④ 本セミナーに参加された目的
ドコカレのメイトのため 3名 公開講座に興味があったため 20名
- ⑤ 本セミナーに関しての感想

・豊富な事例を用いての講義で大変わかりやすかったです。とても勉強になりました。

- ・興味ある内容で参加させていただきました。医療と法について現在の情報を伝えていただき参考になりました。
 - ・日頃、紛争訴訟にならぬような業務対応の大切さが必要と感じました。
 - ・現場では、医師の指示があつて看護師が「できません」とビシッとと言えることは少ないと思う。実際、リスクがどれだけあつて、どれだけ危険か…と考える前に施行してしまう。リスクマネジメントをもっともっと定着させる必要がある。リスク感性をみがくこと、スタッフみんなで取り組みたいと思った。
 - ・看護師免許の法的意味を実感した。医療行為と法律の中で、予見、回避を行うことは、いかに大切なことであるかということが、実感できた。
 - ・日頃の家族とのコミュニケーションや、誠実さが大切なのと思った。
- ⑥ インターネット学習関連について
- a) インターネットの画像や教材を使った学習に参加してみたい
はい：11名　いいえ：4名　不明：3名
 - b) インターネットの電話を使った学習に参加してみたい
はい：4名　いいえ：9名　不明：4名
 - c) インターネット上でセミナー参加者や当大学の教員間で質問や情報交換などを行いたい
はい：6名　いいえ：5名　不明：6名
- ⑦ 生涯学習教育の内容として、希望される講座内容
- ・こころの健康　精神保健　カウンセリング技法など
 - ・リスクマネジメント、分析方法など知識を得たいです。
- ⑧ 看護師資格をお持ちの方にお聞きした内容
- a) 現在の就業状況
無職：1名　正規職員：19名
 - b) ドコカレに参加されていない場合、その理由（複数回答）
ドコカレを知らなかった：9名　やりたい学習・研修内容がない：0名
パソコンがない：0名　インターネット環境がない：0名
学習時間がない：3名
 - c) ドコカレに興味はありますか？
すでにドコカレメイトであるA：0名　ドコカレメイトB：4名
興味がある：5名
 - d) 看護師として再就業を希望する場合、必要と感じる学習・研修内容（複数回答）
解剖・生理学：4名　病態学：4名　パソコン関連：4名　法律・制度：6名
臨地実習：6名　看護管理：4名　看護倫理：5名　看護技術：5名
 - e) 臨床看護師のスキルアップのために必要だと感じる学習内容（複数回答）
解剖・生理学：4名　病態学：7名　パソコン関連：8名　法律・制度：13名
臨地実習：5名　看護管理：14名　看護倫理：13名　看護技術：6名
その他（感染：2名）

(イ) 「看護と栄養管理」梶井文子先生

8月30日（土）（回収9枚）

- ① 年齢　平均42.6歳
- ② 性別　男性2名　女性7名
- ③ 看護資格の有無　有6名　無3名
- ④ 本セミナーに参加した目的（複数回答あり）
ドコカレのメイトのため　3名　公開講座に興味があつた　5名
その他　3名

表 「看護と栄養管理」への感想など

<p>参加目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「看護と栄養管理」看護師の役割として必須（看護師，48歳） ・高齢者に関わりどのようにしたらその人の必要な栄養が取れるのか。生活していく上での質・量について、むせる方が多いがどのように摂取したらスムーズに摂れるのか。（看護師，56歳） ・職務への有効活用（非看護師，男性） <p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解しやすかった（看護師，48歳） ・現実問題をひしひしと感ずることであるから，機会を与えてくださったことに感謝します。よろしく。（非看護師，68歳） ・老健勤務にて，とてもためになりました。スクリーニング方法も分かりやすいものが紹介されていてよかったです。具体的でよかったです。（看護師，33歳） ・人が生きていく上で最も大切な食事，栄養の基本を学べた。（看護師，56歳） ・資料の一部印刷の具合かと思われませんが，印字の見にくい部分がありました。（非看護師，男性）

⑤ 本セミナーに関しての感想

- ・老健施設に勤務していて，とてもためになりました。スクリーニング方法も分かりやすいものが紹介されていてよかったです。具体的でよかったです。
- ・人が生きていく上で最も大切な食事，栄養の基本を学べた。

⑥ インターネット学習環境について

- a) インターネットの画像や教材を使った学習に参加してみたい
はい：6名　いいえ：1名　不明：2名
- b) インターネットの電話を使った学習に参加してみたい
はい：2名　いいえ：4名　不明：3名
- c) インターネット上でセミナー参加者や当大学の教員間で質問や情報交換を行いたい
はい：2名　いいえ：3名　不明：4名

⑦ 生涯学習の内容として，希望する学習内容

脳梗塞について（急性期・慢性期対応，リハビリ）心疾患
認知，虐待，排泄，褥瘡予防並びに高齢者医療のありかた

⑧ 看護資格をお持ちの方にお聞きした内容

- a) 現在の就業状況
無職：0名　産休：1名　正規職員：6名
- b) ドコカレに参加されていない場合，その理由（複数回答）
ドコカレを知らなかった：3名　やりたい学習・研修内容がない：0名
パソコンがない：0名　インターネット環境がない：0名
学習時間がない：2名
- c) ドコカレに興味はありますか
すでにドコカレメイトであるA：1名　ドコカレメイトB：1名
興味がある：1名　興味なし：4名
- d) 看護師として再就業を希望する場合，必要と感じる学習・研修内容（複数回答）
解剖・生理学：3名　病態学：3名　パソコン関連：3名　法律・制度：3名
臨地実習：1名　看護管理：1名　看護倫理：4名　看護技術：1名
その他：1名
・長く離れば離れるほど，新しい情報にうとくなったり技術面で不安だったりする。
- e) 臨床看護師のスキルアップのために必要だと感じる学習内容（複数回答）（n=5）
解剖・生理学：3名　病態学：2名　パソコン関連：4名　法律・制度：3名
臨地実習：2名　看護管理：1名　看護倫理：2名　看護技術：1名
その他：1名（栄養）

(ウ) 「看護師の臨床の『知』と、看護師が経験を積むことの意味」佐藤紀子先生

9月20日(土) (回収42枚)

- ① 年齢 平均47.0歳
- ② 性別 男性5名 女性37名
- ③ 職業 看護職34名 福祉施設等職員3名 その他5名
- ④ 今回の公開講座を知った方法
案内パンフレット 33名 新聞等の広告 2名
知人・友人から聞いて 5名 本学教員から聞いて 2名
その他 1名(上司に勧められて)
- ⑤ 講演に關しての感想
非常によかった 28名 よかった 14名
・臨床の知を言葉とすることは難しいことを私も理解しています。ナラティブによってあいまいになっている見えにくい実践を具体化できると思いました。
・看護は「患者のためにする」という事を再確認しました。
・理想的な看護師像の提示と看護師という職業のすばらしさを語っていただいた。学生には最高の講義と思う。
・自分の毎日行っている行為(看護)が意味のある行為だったんだと今さらながら気がつきました。
・講師と同年であります。講師のパワーは素晴らしいと思います。経験知を言葉にする機会をもっともっと増やしていきたいと感じました。
・生涯現役で働きましようという言葉に勇気をもらいました。
・自分の今後の方向性を考えさせられた。
- ⑥ 来年度の特別講演等で実施してほしいテーマについて
・もう一回佐藤先生の講義を聞きたい。
・職場で頑張っておられる看護師、現在の理想的な看護師にふれる機会がほしい。
・身体拘束(ミトンの使用、転倒防止の為の柵、向精神薬の多用)に対する看護
- ⑦ 看護師資格をお持ちの方にお聞きした内容
 - a) 現在の就業状況
無職:2名 正規職員:30名 非正規職員:2名
 - b) インターネット学習關連について
・インターネットの画像や教材を使った学習に参加してみたい
はい:12名 いいえ:11名 不明:8名
・インターネットの電話を使った学習に参加してみたい
はい:5名 いいえ:15名 不明:10名
・インターネット上でセミナー参加者や当大学の教員間で質問や情報交換などを行いたい
はい:12名 いいえ:8名 不明:11名
 - c) 看護師として再就業を希望する場合、必要と感じる学習・研修内容(複数回答)
解剖・生理学:3名 病態学:1名 パソコン關連:13名 法律・制度:12名
臨地実習:13名 看護管理:2名 看護倫理:13名 看護技術:20名
その他:3名(医療機器、その職場に応じた業務、医療安全)
 - d) 臨床看護師のスキルアップのために必要だと感じる学習内容(複数回答)
解剖・生理学:6名 病態学:10名 パソコン關連:12名 法律・制度:13名
臨地実習:7名 看護管理:11名 看護倫理:20名 看護技術:16名
その他:1名(医療安全)
 - e) 「ドコカレ」に興味はありますか?
興味がある:17名 興味はない:3名 どちらでもない:11名
(興味がない理由:時間がない、高年齢)

(エ) 「感染防御に関する新しい動き」 大久保憲先生

10月4日(土) (回収44枚)

- ① 年齢 平均 43.6 歳
- ② 性別 男性 3 名 女性 41 名
- ③ 職業 看護職 35 名 福祉施設等職員 3 名 会社員 2 名 学生 2 名 その他 3 名
- ④ 今回の公開講座を知った方法
案内パンフレット：28 名 新聞等の広告：2 名 ホームページ：2 名
知人・友人から聞いて：2 名 本学教員から聞いて：3 名
その他：8 名 (職場で勧められて)
- ⑤ 講演に関しての感想
非常によかった：15 名 よかった：23 名
少し難しかった：1 名 難しかった：1 名
・最新の感染対策に関する行政の動きをわかりやすく、資料もあったので文面で確認することができました。
・基本的なことから最近ニュースで話題になったことまで、網羅されていて良かったです。
・最新の情報、知識をおききできて勉強になりました。又、マスクの有効性についてはよくわかりました。工夫して使用したいと考えます。
・とてもわかりやすい内容で理解しやすかった。臨床の経験もあるので、臨床を振り返ることで、あれはよかった、あれはまずかったと考えることができた。
- ⑥ 来年度の特別講演等で実施してほしいテーマについて
・感染管理はシリーズで続けてほしい。
・プレパレーションについて
・家族看護について
・看護記録、コミュニケーション
・医療をとりまく法律、安全管理、災害時対応、感染予防のより専門的な内容
・終末医療の今後 (病院ではない最期の生活の場を) と地域でのモデルづくりについて。
- ⑦ 看護師資格をお持ちの方にお聞きした内容
 - a) 現在の就業状況
無職：1 名 正規職員：26 名 非正規職員：1 名
 - b) インターネット学習関連について
・インターネットの画像や教材を使った学習に参加してみたい
はい：14 名 いいえ：5 名 不明：8 名
・インターネットの電話を使った学習に参加してみたい
はい：3 名 いいえ：10 名 不明：13 名
・インターネット上でセミナー参加者や当大学の教員間で質問や情報交換などを行いたい
はい：10 名 いいえ：6 名 不明：11 名
 - c) 看護師として再就業を希望する場合、必要と感じる学習・研修内容 (複数回答)
解剖・生理学：13 名 病態学：14 名 パソコン関連：14 名 法律・制度：8 名
臨地実習：12 名 看護管理：5 名 看護倫理：7 名 看護技術：20 名
その他：1 名 (最新のそれぞれの科の知識)
 - d) 臨床看護師のスキルアップのために必要だと感じる学習内容 (複数回答)
解剖・生理学：10 名 病態学：14 名 パソコン関連：15 名 法律・制度：14 名
臨地実習：10 名 看護管理：12 名 看護倫理：17 名 看護技術：17 名
その他：1 名 (最新の医学)
 - e) 「ドコカレ」に興味はありますか?
興味がある：17 名 興味はない：3 名 どちらでもない：7 名
(興味がない理由：インターネット環境がない、時間がない)

(オ) 「看護と口腔ケア」 柿木保明先生

11月29日(土) (回収48枚)

- ① 年齢 平均 44.4 歳
- ② 性別 男性 2 名 女性 46 名
- ③ 職業 看護職 18 名 福祉施設等職員 7 名 学生 1 名 その他 24 名
- ④ 今回の公開講座を知った方法
 案内パンフレット：19 名 新聞等の広告：1 名 ホームページ：3 名
 知人・友人から聞いて：9 名 本学教員から聞いて：4 名
 その他：12 名 (歯科衛生士会より、口腔ケア学会 HP、病院で、訪問ケアセンターより)
- ⑤ 講演に関しての感想
 非常に良かった：33 名 よかった：14 名

表 「看護と口腔ケア」への具体的意見

<p>看護職</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 口腔内の知識を多く得ることができました。 ● わかりやすい内容で聞きやすく、自分のもっていた誤解がとけ、必要性や方法に根拠をもって実践できそうです。ありがとうございました。 ● 「口渇に水」の考えましがえに反省。保湿剤の使い方も考えさせられた。 ● 口腔ケアの必要性、保湿の必要性がよく理解できた。 ● 義歯の使い方、オーラルウエット、オーラルバランスの使い方を具体的に講義して頂けた。 ● 大変おもしろく興味深かった。資料にメモ欄がほしかった。話が少し早口。時間がなかったから仕方ないかも… ● 保湿度が大切!!!ということがよくわかりました。口の健康はすべてにつながるということも改めてわかりました。 ● 手元に残る資料として、パワーポイントのものがほしい。とても参考になりました。(2) <p>福祉関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ● とても聞きやすかった。(介護福祉士) ● 図や絵柄になる表示で説明して下さり分かりやすかったと思います。 ● 口腔ケアは感覚をよくするという事で、清掃のみと思っていたが、唾液等の保湿度が大切。それによつてのアプローチが重要ということを知りました。 ● 特養で経管栄養の方の口腔ケアを行っています。最近は何回か誤嚥性肺炎を繰り返したりすると、食べられるのに、胃ろうや経鼻になってしまう人が多いと思う。特養でケアをきちんと行い、口から食べられるようになり、胃ろうを使わない人も増えている。又、HPでもDrより食べられないと説明を受けた家族などを説得し、ゼリーのみ食べられるようになった方がいます。(その方は、右マヒですが、左手で歯ブラシを持ち磨き、ブクブクうがいができます。)本当に口の健康、ケアは大事だと思います。が、胃ろうの方で全部歯がそろっている人の口腔ケアは大変です。開けない、噛みつくで…。 <p>歯科衛生士</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講師の柿木先生の軽快なテンポの講演、ちょっぴり遊び心ある内容に引き込まれ、アツという間に時間が過ぎてしまいました。ありがとうございました。口の中は「後まわし」にされていたことが、多方面から重要視され、熱心に取り組む体制になり、ますますいろいろな情報を学習してまいりたいと思います。 ● 善段、病院で自分が磨けない人に対しての口腔ケアを行っています。今回の講演は今までの疑問(オーラルバランスをケア前後にやっていたベトベトにしていた…)が解決しました。今まで聞いた講演で一番おもしろく、役に立ちました。またぜひ聞きたいです。 ● 保湿剤を蒸発防止剤の使用目的は知らず、施設等で使っていました。口腔ケア内乾燥はとて多く日々戦っていますが、良い情報が得られて良かったと思います。ありがとうございました。 ● 口腔乾燥の対応等を具体的に紹介していただき、職場で実践できる内容で良かったです。 ● 日々、乾燥症の方の口腔ケアにもかかわっております。わかりやすくご講演いただきありがとうございました。 ● 舌苔除去方法、嘔吐反射のつぼは参考になりました。 ● 舌の状態がつぼによつたり、漢方薬によってよくなるのは驚きました。唾液の事についてもよくわかりました。ありがとうございました。 ● わかりやすく、口腔ケアの大切さを伝えて頂きました。潤いは何でも大切ですね。心にしみます。 ● 日頃、高齢者の方の下を診させていただいているが、基準がよくわからなかった。今回はとても参

考になった。

- 日頃から舌診について興味があったので良かったです。自分でも勉強してみようと思います。
- とてもわかりやすくなりました。がんばってこれからの口腔ケアにとり入れていきたいです。
- 2時間楽しく集中できました。知識と心あつての口腔ケアと改めて感じるができるお話でした。今後の臨床に生かしたいと思います。
- とても参考になる楽しい講座でした。ありがとうございます。
- とても勉強になりました。ありがとうございました。今後の仕事の参考になる内容が聞けてよかったです。
- わかりやすい内容で、口腔ケアについて再確認できました。ありがとうございました。
- 口腔乾燥について、今まで知らなかった事、わからなかつこともお聞きでき、大変良かったです。また、この話の続き、衛生士としてもっと深いお話も聞きたいと思いました。ありがとうございました。

⑥ 来年度の特別講演等で実施してほしいテーマについて

- ・認知症に関連したもの等（コミュニケーション、心理、行動など）
- ・褥瘡について。
- ・摂食、嚥下機能リハビリテーションについて。
- ・がん看護について。化学療法をうける患者の口腔ケアなど。

⑦ 看護師資格をお持ちの方にお聞きした内容

a) 現在の就業状況

正規職員：14名 非正規職員：2名

b) インターネット学習関連について

- ・インターネットの画像や教材を使った学習に参加してみたい
はい：9名 いいえ：2名 不明：2名
- ・インターネットの電話を使った学習に参加してみたい
はい：2名 いいえ：7名 不明：4名
- ・インターネット上でセミナー参加者や当大学の教員間で質問や情報交換などを行いたい
はい：5名 いいえ：3名 不明：5名

c) 看護師として再就業を希望する場合、必要と感じる学習・研修内容（複数回答）

解剖・生理学：6名 病態学：10名 パソコン関連：6名 法律・制度：4名
臨地実習：8名 看護管理：2名 看護倫理：3名 看護技術：12名

d) 臨床看護師のスキルアップのために必要だと感じる学習内容（複数回答）

解剖・生理学：8名 病態学：6名 パソコン関連：5名 法律・制度：3名
臨地実習：5名 看護管理：3名 看護倫理：5名 看護技術：10名
その他：1名（教育学・心理学）

e) 「ドコカレ」に興味はありますか？

興味がある：7名 興味はない：1名 どちらでもない：5名
（興味がない理由：パソコンがない）

(カ) 「高齢者の口腔ケア（演習）」原等子先生

11月30日（日）（回収29枚）

- ① 年齢 平均45.2歳
- ② 性別 男性2名 女性27名
- ③ 職業 看護職9名 福祉施設等職員4名 会社員1名 その他14名
- ④ 今回の公開講座を知った方法
案内パンフレット：10名 ホームページ：2名
知人・友人から聞いて：6名 本学教員から聞いて：4名
その他：8名（職場より、歯科衛生士会より）
- ⑤ 講演に関しての感想
非常によかった 17名 よかった 11名

表 「高齢者の口腔ケア技術演習」の具体的意見

看護師

- 演習してみてされる側がどんなふう感じれるかわかりました。明日からの仕事に役立てたいです。
- 多職種の人が集まりいろいろな意見が聞けてよかった。
- 歯科衛生士の方と話をしたのは初めてです。歯科衛生士の方の思いを聞かせてもらいました。たとえば、退院→在宅療養患者さんの口腔の状況やら、Nsの今後の役割など。
- 実際に演習で来てよかった。歯科衛生士さんとの直接話ができ、普段不思議に思ったことが解決できた。
- 病棟で行う口腔ケアは、自己流になってしまっていたので、今回歯科衛生士さんと1対1で実際に演習を行い、効果的なケアを学べたと思います。唾液線マッサージなど、どうしても省いてしまっていたのですが、コミュニケーションの面でもとても大切だと改めてわかりました。

福祉関係

- 口の周りのマッサージ等実演できてよかった。現場で早速使ってみたいと思います。
- 今まで口腔清掃の基本的な手順等、勉強することがなかったのととても勉強になりました。又、歯科衛生士の方からも日頃役に立ちそうなケアポイント等アドバイスをもらえてよかったです。
- 実施をまじえて、わかりやすく面白かったです。多職種の交流お話ができ良かったです。

歯科衛生士

- 初めてスポンジブラシを使いました。今まで使用する機会がなく、自分も使われたことがなかったので、相互に体験できて良かったです。
- 演習で、患者さんの気持ちがよくわかりました。今度からはもっとやさしく患者さんに接しようと思います。
- 在宅に勤めるようになってまだ間もないので、今回の研修はとてもためになりました。演習を取り込んだものはとても楽しいです。
- 講義の内容も昨日のものとなつながらあり良かった。相互実習の体験も感触がわかり良かった。
- 看護師の方からの普段の口腔ケアの様子をお聞きでき良かったです。訪問看護の口腔ケアに対する考え方も聞け、参考になりました。
- 看護職の方と交流できて良かったです。今後もこのような機会があったら嬉しいです。ありがとうございました。
- 看護職の立場から話が聞けたこと。
- 違う角度からケアの視点が見れて実習も参考になりました。
- 多職種の方と直接お話できたのが良かったです。
- 看護職との研修が初めてであり、今回の講座の中で改めて多職種との交流というものの必要性を痛感しました。
- なごやかにリラックスした時間を過ごすことができました。演習については、デモしてから始めていただいたほうがよかったのではないのでしょうか。公開講座は他職の方との交流ができてよかったと思います。
- 看護大学で口腔ケアをテーマに公開講座をしていただけたのは我々歯科関係者にとってありがたく有意義でした。刺激になりました。
- マッサージを先生に行っていた頂き、とても気持ちよさを体験しました。唇やその回りのマッサージをあまり行っていなかったのだからこれからはやっていきたいです。
- 講演は先生のユーモアたっぷりのわかりやすい内容の楽しい時間でしたし看護師の方と話し合える貴重な時間でした。次回も講座を開いていただけたらと思います。演習付きというのがとても良いと思いました。
- 歯科医院に勤務しているため、衛生士でありながら口腔ケアに関しては、知識が乏しく、講義もさることながら、実習できたことは大変良かったです。今自分が担当している患者さんのこれからの役立てさせたいと感じています。先生のお話はとてもおもしろくケアに対するエネルギーが伝わってきました。元気をいただきました。ありがとうございました。

その他、会社員

- 内容も充実していて演習がとても良かったです。具体的に役立てそうです。

- ⑥ 来年度の特別講演等で実施してほしいテーマについて
- ・引き続き、口腔ケアをもっと勉強したい。
 - ・口腔ケアに関し、シリーズで続けてほしい。嚥下訓練などを含めて…
- ⑦ 看護師資格をお持ちの方に追加でお聞きします。
- a) 現在の就業状況
- 正規職員：4名 非正規職員：1名
- b) インターネット学習関連について
- ・インターネットの画像や教材を使った学習に参加してみたい
はい：3名 いいえ：0名 不明：1名
 - ・インターネットの電話を使った学習に参加してみたい。
はい：1名 いいえ：1名 不明：1名
 - ・インターネット上でセミナー参加者や当大学の教員間で質問や情報交換などを行いたい
はい：1名 いいえ：0名 不明：2名
- c) 看護師として再就業を希望する場合、必要と感じる学習・研修内容（複数回答）
- 解剖・生理学：0名 病態学：2名 パソコン関連：0名 法律・制度：1名
臨地実習：3名 看護管理：0名 看護倫理：0名 看護技術：2名
- d) 臨床看護師のスキルアップのために必要だと感じる学習内容（複数回答）
- 解剖・生理学：0名 病態学：1名 パソコン関連：2名 法律・制度：1名
臨地実習：3名 看護管理：1名 看護倫理：2名 看護技術：3名
- e) 「ドコカレ」に興味はありますか？
- 興味がある：2名 どちらでもない：1名

2. 看護学部講義科目

1) 臨床病理学

オープン・カレッジ実施講義（平成 20 年度）

講義担当者：吉山直樹（本学）

講義は、すべて月曜日の 1 限・2 限の 2 コマの通し

[テーマ]	[開講月日]
オリエンテーション	10月 6日
1. バイタルサインの意味, 死の徴候	10月 6日
2. 胸痛, 息切れ, 呼吸困難, 動悸	10月 6日
3. 壊死, 循環障害, 動脈硬化, 梗塞, 冠状動脈硬化症	10月 27日
4. 変性, 過形成, 心筋症, 心不全, 先天性心疾患, 末梢動脈疾患	10月 27日
5. 不整脈	11月 10日
6. 心電図	11月 10日
7. 血圧調節の異常	11月 17日
8. 炎症, 体温調節異常, 頭痛, 発熱, 痛み, 感染症概説, 多臓器不全	11月 17日
9. ウィルス感染症, AIDS, インフルエンザ	12月 1日
10. 呼吸器感染症 (気管支喘息, 肺炎, 肺結核)	12月 1日
11. 閉塞性肺疾患, 在宅酸素療法, 在宅医療一般	12月 8日
12. 喫煙と健康障害	12月 8日
13. 加齢に伴う変化 (老化, 萎縮), 不安と対処行動	2月 2日
14. 疾病と生活習慣, 生活調整の方法, 行動変容	2月 2日
15. 遺伝子, 遺伝病, ゲノム治療	2月 9日
16. 性・生殖に伴う諸問題, 性同一性障害, 性行為感染症	2月 9日
17. 血液疾患	2月 16日
18. 内分泌疾患 (下垂体・甲状腺)	2月 16日
19. 内分泌疾患 (副甲状腺・副腎・その他)	2月 23日

2) 成人看護学Ⅱ

(ア) 授業の概要

成人看護学Ⅱは、成人期に生じやすい疾患や障害を踏まえた講義を展開しています。急性期および慢性期にある対象の具体的な問題を取り上げて、アセスメントやそこから導き出される看護問題に対する具体的な援助方法について学びます。特に、身体の各系統に疾病や障害を持ち、治療を受けている対象への看護援助について総合的に理解できるように、障害に伴う対象の特徴、検査および治療、周手術期、急性期、回復期、リハビリテーション、退院指導・在宅での看護を含めた慢性期の看護について総合的に学習します。

(イ) 授業の構成

具体的には脳神経系、運動器系、呼吸器系、循環器系、消化器系、腎・泌尿器系、内分泌・代謝系、生殖器系、生体防御系、血液・造血管系、感覚器系といった身体の各系統に問題のある患者の看護について学習します。配布資料、パワーポイントやビデオなど視聴覚教材を用い、受講者が興味を持ちながら、対象者に必要な看護の知識について理解・イメージできる工夫がされています。各系統についておおむね3~4回にわたって講義が展開され、各回単独でも学習できるオムニバス形式(③ 授業内容 参照)ですので、興味・関心のあるところを選んで受講することが可能です。

新しい治療法・検査法の開発、診断基準・治療ガイドラインの改定など日進月歩の医療の世界において、看護の分野にもそれらを理解し、柔軟に対象者の看護にあたる能力が求められています。原理原則を押さえながら最新の医療の動向にも目をむけられるよう、毎回各講師が吟味しています。さらに、積極的に現役の専門医や看護師をゲストスピーカーとしてお迎えしています。医療・看護の基本を学び直すことはもとより、最新情報などにも触れる機会としていただけるのではないのでしょうか。(執筆 深澤佳代子・飯田智恵)



(ウ) 授業内容

平成 20 (2008) 年度 成人看護学Ⅱ 時間割

	日にち	限	学習課題	内容
1	10月10日(金)	I	脳神経 1	脳神経系疾患/障害の特徴, 患者の理解, 検査・治療の理解
2		II	脳神経 2	開頭術を受ける患者の看護
3	10月17日(金)	I	脳神経 3	脳血管障害患者のリハビリテーションにおける看護(運動障害)
4		II	脳神経 4	脳血管障害のリハビリにおける看護(嚥下障害・言語障害)
5	10月24日(金)	I	運動器 1	運動器系疾患/障害の特徴, 患者の理解, 検査・治療の理解
6		II	運動器 2	上肢・下肢の疾患の治療と手術看護
7	10月31日(金)	I	運動器 3	脊椎・脊髄の疾患の治療と看護
8		II	呼吸器 1	呼吸器疾患/障害の特徴, 患者の理解, 検査・治療の理解 急性呼吸不全と看護
9	11月14日(金)	I	呼吸器 2	肺がんの手術療法と看護
10		II	呼吸器 3	肺がんの保存的治療と看護
11	11月28日(金)	I	呼吸器 4	慢性呼吸不全, 在宅酸素療法と看護
12		II	循環器 1	循環器系疾患/障害の特徴, 患者, 検査・治療の理解, 虚血性心疾患で保存的治療を受ける患者の看護
13	12月5日(金)	I	循環器 2	急性心不全, 狭心症, 急性心筋梗塞と看護
14		II	循環器 3	心臓, 大血管手術と看護
15	12月12日(金)	I	循環器 4	心筋梗塞患者の心臓リハビリテーション, 自己管理指導
16		II	消化器 1	消化器系疾患/障害の特徴, 患者の理解, 検査・治療の理解
17	12月16日(火)	I	特別講演	「アメリカの医療現場から観望した日本の看護」 講師:米国・小児循環器専門医 津田武 先生 (デュポン小児病院, トマスジェファーソン大学)
18	12月19日(金)	I	消化器 2	手術療法(食道・胃・大腸)を受ける患者の看護
19		II	消化器 3	肝硬変・肝臓がん, 保存的治療と看護
20	1月16日(金)	I	腎・泌尿器 1	腎・泌尿器系疾患/障害の特徴, 患者, 検査・治療の理解
21		II	腎・泌尿器 2	手術療法(腎臓, 前立腺, 膀胱)と看護
22	1月23日(金)	I	腎・泌尿器 3	腎不全, 透析療法と看護
23		II	内分泌・代謝 1	内分泌・代謝疾患/障害の特徴, 患者, 検査・治療の理解, 甲状腺疾患と看護
24	1月30日(金)	I	内分泌・代謝 2	糖尿病, 生活の自己管理と看護
25		II	生殖器	乳がん, 子宮がん, 卵巣疾患の手術療法と看護
26	2月6日(金)	I	生体防御 1	免疫系疾患/障害の特徴患者の理解, 検査・治療の理解, 自己免疫性疾患と看護
27		II	生体防御 2	最新の感染症と看護
28	2月13日(金)	I	血液・造血器 1	血液・造血器系疾患/障害の特徴, 患者の理解, 検査・治療 の理解, 白血病患者の看護および家族への支援
29		II	血液・造血器 2	臓器移植と看護
30	2月20日(金)	I	感覚器	感覚器疾患/障害の特徴, 患者の理解, 検査・治療の理解, 感覚器疾患の手術療法と看護, 感覚器に障害のある患者へ の援助

(エ) 受講状況とメイトさんから寄せられた感想

10月31日(呼吸器1):受講者1名

- びっくりするぐらいの速さですすみ、文字を追うのが精いっぱいでした。時々の問題で考えが整理されます。呼吸器疾患の方も在宅で増え、在宅酸素療法を導入するかどうか最大のポイントでもあります。「生活」と「治療」をどのように担当医に報告していくか、とても考えさせられました。

11月28日(呼吸器4):受講者1名

- 秋～冬にかけ、呼吸器疾患の方の悪化が、多く(毎年のことですが)タイムリーな内容でした。通常、滅多に出くわさない呼吸不全→レスピレーター→気切となった方もいて、講義と並行して、種々のことを考えさせられました。
- HOTの方は多く、入浴や動作時の状態について、常に評価が必要と感じます。とても参考になりました。

11月28日(循環器1):受講者1名

- 循環器時代はメタボだなあと思いながら聞きました。一番感じるのは不整脈→脳梗塞となっている方が地域では多いということです。服薬管理ができれば防ぐのかもと思いつつ、病院⇄地域連携の必要性を考えさせられました。

12月5日(循環器2・3):受講者2名

- 1年生の臨床病理学Iとリンクしていて、講義終了後、間もないのでとてもわかりやすかった。誘導の覚え方はこんなことまで、テキストにのっているのか?と、びっくりしました。

12月12日(循環器4・消化器1):受講者2名

- 生活習慣病は最も看護職の力の発揮どころ。よく疾病について知っていないと説得力がないかなと思って、受講させていただいています。
- 何度か講義を聴きながら、ふと「福祉現場」の看護職の離職率の高さを考えた。「臨床」と言われる病院 Bed サイドとの、「最先端」とのレベルの差。そうでありながら本当に限られた人員の中での責任の重さ。「看護職」としての役割、そしてチームアプローチ。「福祉」はつまらない分野で臨床では厳しい看護職が働く場というイメージも聞いたことがある。在院日数が減る中で地域・福祉分野で働く看護職の役割がかわってきているように感じる。このような機会を得ながら入院施設への理解をはかり、福祉分野の看護職の意識改革・役割再確認ができれば、本当はおもしろい分野なんだけどなあ…と感じています。

12月16日(特別講演):受講者1名

12月19日(消化器2・3):受講者2名

講師への質問

- 灌注排便法(パンフにありました)の必要物品はどんなものでしょうか?

感想など

- 胃瘍のPtで早く経栄養食を(1時間)注入すると低血糖になる方がいて、理由がわからなかったのですが、本日よくわかりました。(パーキンソン病の方ですが)
- C型肝炎→肝Caが地域ではまだまだよくみられます。ウイルス検査が可能となり、やがては減ってくるのだらうと思われるのですが、在宅での生活支援のために基本的なことが学べました。

1月23日(腎・泌尿器3):受講者2名 / 1月23日(内分泌・代謝1):受講者1名

- 透析の方も増え、種々の自覚症状・訴えを聞きます。普段は元気にしている方も多く、その病態の重さを忘れがちになります。再確認することでこれからの支援に参考になりました。
- 低塩食を食べられない時期があったこと、献立をたてて試食していないことは、患者のことをないがしろにしています。生きるためには食事療法の円?が大切と痛切に週刊誌に載っていました。

1月30日(内分泌・代謝 2):受講者 2名

- 糖尿病は“日常的”によくみられる疾患でイメージがとてつきやすい。境界型糖尿病の在宅の寝たきりの方は、慣例のように経口血糖降下剤の処方があり、朝に低血糖、意識障害となったりすることがしばしばあります。きっかけは発熱、床ずれだったりするのですが、普段から何の薬を使っているのか十分に把握することが大切だと感じました。今日の講義を聞きつつ、昨日、半日付き合った方は血糖値大丈夫かな…と不安になりました。すぐ確認します。

1月30日(生殖器):受講者 1名

2月6日(生体防御 1):受講者 1名

- 知人に SLE の方がいます。SLE の症状はストレス（出産）で出現するのか、何をもって事前に把握できるでしょうか。4項目以上なければ診断は無理でしょうか。

2月6日(生体防御 2):受講者 1名

- 不適切な抗生剤の使用とは具体的にどういうことでしょうか。
- 医師は教育年代で指示の仕方が異なります。当施設で多臓器不全を起こして亡くなられた方がいます。薬剤処方のあり方について考えさせられました。

2月13日(血液・造血器 1・2):受講者 1名

講師への質問

- クリーンルームは何をもってクリーンルームというのか（テレビでは塵埃を取り除いていると言っていたが）。無菌食とは何をもって無菌食というのか（給食の場合、食中毒を防止するために食事の温度を一定の温度以上にとったが）。

感想など

- 臨床心理士がチーム医療に必要な？と思いました。移植医療はお金次第のところもあるのでしょうか。

3) 老年看護学

2009年度後期開講科目である、2年次2単位必修の老年看護学Ⅱを時間割表のように公開した。また、各回の参加人数と感想などは以下の表のとおりである。各回ともほぼ毎回、参加希望者があった。参加者の都合による当日不参加、途中退室することなどがあったが、熱心に参加している様子うかがえた。特に、今までの経験と照らし合わせて振り返ることができたことが感想などからわかる。また、新たな知見を求め、文献を借りに来たり、資料を参照したりする様子がみられた。学部科目である老年看護学の公開へのニーズがあることを感じ、来年度前期科目の公開も視野に入れて検討したい。また、今回はゲストスピーカーの回は参加不可としたが、感想などからより新しい知見を求めるならば、公開をしていくことも検討する予定である。

表 メイト参加状況および感想など

回	日にち	時限	メイト 参加人数	講師への質問・感想など (特徴的な内容を太字)
1	10月7日(火)	I	1	
2	10月8日(水)	III	1	
3	10月14日(火)	I	1	聴覚の所で難聴強度の方にはつつい耳で大声になりがちです。具体的にどの位の声の高さが聴こえやすいのでしょうか？音階で言うとうと。
4	10月15日(水)	III	1	
5	10月21日(火)	I	1	とてもおもしろい講義でした。介護保険現場で働く私にとっては 自分自身の仕事を見直すきっかけ となります。文献出典も豊富でより深く学ぶためにもありがたい資料です。年をとると一点ばかりにこだわりがちなので、 スタート地点に戻る ともっと広い視野で考えられるかもと期待でいっぱいです。
6	10月21日(火)	II	1	
7	10月28日(火)	I	1	VF VEは臨床では限定され、実際には「食」への関心が乏しく、 安易に経管栄養に移行しているように感じた 。「安全」「介護の手間」を考えると仕方ないか…。VF VEとも多少なりとも苦痛を伴いものであり、患者さんの意欲と協力がまずは必要なと思いました。
8	10月28日(火)	II	1	「活動」についての学生さんの取組がわかりつつ…。現場で継続していくことの難しさも感じました。「 継続 」を考えた時のまわり(環境)の評価、「 ご本人 」よりも優先されているかなと反省。こんなふうに進んで計画を立ててくる学生さんたちの思いも大切にしていかなければならないのですね…。入院連絡のため、途中で退出しました。すみませんでした。
9	11月4日(火)	I	1	普段の仕事について、 何気なく流されている自分に反省 。「仕事」ではじっくり考えることもなく、「この状態=こんなケア」と パターン化 されているように感じました。「エビデンス」という言葉は介護の分野ではまれにしか耳にしません。仕事を振り返ったとき、こんな風に 原点に時々戻って見直してみると ケアプランも今までと違った書き方になるのではと思いました。 わかっているつもりだった ことを再確認。「 今さら他の人にはきけないなあ …」と思っていたことを認識できました。ありがとうございました。
11	11月11日(火)	I	1	爪切りの肉芽組織。しばしば経験し困ることです。「こういうものだから注意しよう」という感覚でしかなかったのですが、考えさせられました。なる人ならない人がいるので、先々の爪切りを考えたとき爪が長いとき(皮膚損傷の機会が増えるため)、予防していくことも大切なのかなと感じました。何かよい方法はあるのでしょうか？
12	11月11日(火)	II	1	私達訪問を仕事にしている者にとってある意味医師による「治療」は安定し「治す」よりも「現状維持」の目的となっていることが多い。あと何が出来るか!?触れたりさすったりしつつ、ゆったりとした時間の中で話をする。そんな経験もしましたが「看護ってすごい!!」

				とその時実感しました。先生の講義は 再確認をできる貴重な時間 です。いろんな場で働くNSのリレーの看護でした。
13	11月18日(火)	I	1	
14	11月18日(火)	II	1	
16	12月2日(火)	I	1	ありがとうございました。認知症に関してより多方面からとらえることができました。なぜそうなるかがわかれば、もっと認知症の方を理解でき、あたたかい目で看護できるのでしょうか。統合失調症と同じに。
17	12月2日(火)	II	1	
18	12月9日(火)	I	2	分類・整理された内容で理解しやすい。 本日のニュースで、老年介護で妻が死後一か月、手紙の中に痴呆の介護はほとんど疲れるとあった。行政に限界ありと介護保険のこと(申請のこと) 認知介護のこと、 看護職でできることは何か考えさせられた。
19	12月9日(火)	II	2	
20	12月16日(火)	I	2	認知症の中でレビー小体認知症の方が2割いるとのこと。どの時間で講義があるのでしょうか(前回の18.19) 精神科看護と老人介護、統計的にみて非常に似かよっていて、これからも治療法が確立してくるのでしょうか。認知症=統合失調症(遅発性) セルフケアで参加して「癒し」と言われるが、専門的な知識を得ることで、ケアの面でいかせる。納得することでした。「人間こんなものだ」の思いのみです。
21	12月16日(火)	II	2	
22	1月13日(火)	I	0	
24	1月20日(火)	I	1	
25		II	1	
26	1月27日(火)	I	3	
27		II	3	

平成 20 (2008) 年度 老年看護学Ⅱ 時間割

到達目標

1. 高齢者の心身に生じる加齢変化の成り立ちと生活への影響、並びにその評価方法を理解する。
2. 老年期特有の健康障害の成り立ちと生活への影響を理解する。
3. 生活障害、健康障害に適した看護の方法を、自立支援という視点から理解する。
4. 認知症の高齢者、急性期並びに終末期にある高齢者に対する看護の方法を理解する。
5. 介護家族や高齢者ケアシステムについて理解し、政策的課題に対する関心を深める。

	日にち	時限	学習課題	
1	10月7日(火)	I	老年看護の原則	
2	10月8日(水)	Ⅲ	加齢に伴う諸機能の変化と評価の方法、及び生活への影響	①感覚・知覚機能(外皮系を含む)
3	10月14日(火)	I		②体力・運動機能等
4	10月15日(水)	Ⅲ		③循環と呼吸、消化・吸収機能
				④心理・精神機能
5	10月21日(火)	I	自立生活の拡大と生活リズムの回復に焦点を当てた看護の実際	①栄養のアセスメントと援助
6	10月21日(火)	Ⅱ		②摂食、嚥下、口腔のアセスメントと援助
7	10月28日(火)	I		③排泄、清潔、入浴のアセスメントと援助
8	10月28日(火)	Ⅱ		④活動、休息、睡眠のアセスメントと援助
9	11月4日(火)	I	主な症状および疾患のアセスメントと看護の実際	①廃用症候群の理解と看護(ADL評価を含む)
10	11月5日(水)	Ⅲ	外部講師のため聴講不可	
11	11月11日(火)	I	主な症状および疾患のアセスメントと看護の実際	②褥瘡のアセスメントと看護
12	11月11日(火)	Ⅱ		③そのほかの症状(痛み、かゆみ、脱水、浮腫)
13	11月18日(火)	I		④骨粗鬆症、転倒、骨折の理解と予防
14	11月18日(火)	Ⅱ		⑤主な疾患の治療と看護
15	11月25日(火)	Ⅱ	学生試験のため聴講不可	
16	12月2日(火)	I	精神活動に関連する健康問題と看護(1)	①認知症の構造
17	12月2日(火)	Ⅱ		②認知症の評価
18	12月9日(火)	I		③看護の実際
19	12月9日(火)	Ⅱ	介護家族の状況と社会保障	①家族の介護状況とサービス資源
20	12月16日(火)	I	精神活動に関連する健康問題と看護(2)	②介護保険制度と問題点
21	12月16日(火)	Ⅱ		④うつ状態の評価と看護の実際
22	1月13日(火)	I		⑤せん妄の評価と看護の実際
23	1月13日(火)	Ⅱ	外部講師のため聴講不可	
24	1月20日(火)	I	治療に関するマネジメント	①薬物療法
25		Ⅱ		②外科的療法
26	1月27日(火)	I	終末期における看護	①終末期の概念と評価
27		Ⅱ		②終末期医療と看護ケア
28	2月3日(火)	I	外部講師のため聴講不可	
29		Ⅱ		
30	2月10日(火)	Ⅱ	学生試験のため聴講不可	

- * 老年看護学Ⅱ開講分のうち、上記網がけ部分は都合により公開いたしません。資料の準備の都合がありますので、公開授業受講の際には、事前にご連絡をお願いいたします。
- * また、一部日程が不確実な部分がございます。日程変更などが生じた場合には速やかにご連絡いたします。

4) 学習会

(ア) スキル学習会の実施

日時：2009年2月12日（木） 18：00～19：30

場所：新潟県立看護大学 多目的室

概要：「簡易エネルギー代謝測定器 METAVINE 開発の経緯 栄養ケア・マネジメントでの活用の可能性」と題し、開発者の株式会社ヴァイン社鳥井嘉彦氏をお迎えし、今回は開発者による開発経緯と、保健・医療・福祉分野での活用の可能性、メタバインの取り扱いについてデモンストレーションをしていただいた。

ドコカレプロジェクトでは、今年度、文科省の社会人学びなおしの一環として、栄養および口腔機能向上に関する公開講座を企画した。現在、臨床現場では、入院患者や高齢者の栄養ケア・マネジメントにおいて、様々な指標が必要とされている。その中で、その人の栄養所要量を推定する基礎代謝量に関しては、推計値が多く用いられているのが現状であるが、高齢者ではとくに体格の特異性が高く、推計値も十分ではないことが指摘されている。そこで、今回、簡易エネルギー代謝測定器 METAVINE に着目した。この器械は、これまでの基礎代謝測定器と比較して、携帯可能であり、測定時間も短いため、さまざまな臨地・臨床での活用しやすいことが特徴である。

参加者は、本学教員を中心に12名で、当日、講演者の許諾を得てビデオ撮影を行い、後日、バーチャル・カレッジで公開した。内容は、基礎代謝の基礎知識から、エネルギー代謝の原理など専門的内容にも少し触れながら、実際の測定を体験した。参加者の感想などから、携帯性に優れたこの器械の有用性と、データ管理の容易さなどから、様々な応用の可能性が考えられるなどの意見が出されていた。

V.バーチャル・カレッジ

執筆者（順不同）：吉山直樹，橋本明浩，永吉雅人，
堀 良子，水澤久恵，岡村典子

平成 20 年度に公開したバーチャル・カレッジの一覧
(本学関係者は敬称略)

1. 公開講座

(再掲, ただしバーチャルにて公開したもののみ示す)

【収録日】

- | | |
|-------------------------------|---------|
| 1) ドコカレ操作入門 | 7月 26日 |
| 2) 医療事故と医療安全管理 | 8月 6日 |
| 医療事故をめぐる新しい試み | 8月 6日 |
| 3) 看護師の臨床の「知」と、看護師が経験を積むことの意味 | 9月 20日 |
| 4) 感染制御に関する新しい動き | 10月 4日 |
| 5) 看護と口腔ケア | 11月 29日 |

2. 看護学部講義科目

【担当教員 (本学)】

- | | |
|-------------|---------------|
| 1) 臨床病理学 | 吉山 |
| 2) 基礎看護技術演習 | 堀, 水口, 岡村, 水澤 |

1. 概要

本事業で開催しているバーチャルカレッジの概要を図 4 に示す。人型の画像はゲストユーザ（登録が無い者）でも見ることができることをしめし、さらに鍵がついているものは、ゲストユーザが受講できるが暗証キーが必要であることを示す。

第97回看護師国家試験 あなたは 橋本 明生活としてログインしています

ドコカレプロジェクト ▶ 第97回看護師国家試験

人 トピックアウトライン

活動

フォーラムの検索

コースカテゴリ

管理

採点基準と合格点について

	方式	出題数	合格基準	時間
2月24日 (日) 午前	客観式必修問題	30問	24点以上	2時間45分
	客観式一般問題	120問	180点以上	
2月24日 (日) 午後	客観式一般問題	30問		2時間30分
	客観式状況設定問題	60問		

- 必修問題制限時間は30分です。必修問題は24問以上正答しない場合は他の問題が満点でも不合格となります。
- 客観問題120問です。制限時間は2時間です。

1 試験問題

必修問題30問

午前の部 120問

午後の部 90問

あなたは 橋本 明生活としてログインしています。: 学生 (通常のロールに属する)

[Home](#)

図 3 一般に開放されている CBT 画面の例

コースカテゴリ

📁 基礎医学		
臨床病理学	📖	📅
📁 生理学		
生理学(基礎)		📅
📁 基礎看護領域		
基礎看護技術-注射法		📅
基礎看護技術-バイタルサインの測定と観察		📅
基礎看護技術-静脈血採血		📅
基礎看護技術-感染予防		📅
基礎看護技術-体位変換・移乗・移送		📅
基礎看護技術-ベッドメイキング・リネン交換		📅
📁 その他		
操作入門	📖	📅
📁 統計・情報処理・情報科学		
保健統計演習 2009	📖	📅
基礎ゼミ3 2009	📖	📅
情報処理演習 2009		📅
情報科学	📖	📅
📁 看護師・保健師・助産師国家試験		
第97回看護師国家試験		📅
第96回看護師国家試験		📅
第95回看護師国家試験		📅
第94回看護師国家試験		📅
第93回看護師国家試験		📅
第94回保健師国家試験		📅
第93回保健師国家試験		📅
第92回保健師国家試験		📅
第91回保健師国家試験		📅
第90回保健師国家試験		📅
第91回助産師国家試験		📅
第90回助産師国家試験		📅
第89回助産師国家試験		📅
第88回助産師国家試験		📅
第87回助産師国家試験		📅
📁 公開講座		
📁 特別講演		
看護師の臨床と「知」と、看護師が経験を積むことの意味		
感染制御に関する新しい動き		
📁 専門公開講座		
看護と口腔ケア		
ドカシ操作入門	📖	📅
医療安全セミナー		
看護情報処理セミナー	📖	📅
看護とIT活用		

図 4 バーチャルカレッジ開講科目

2. 特別講演

1) 護師の臨床と『知』と、看護師が経験を積むことの意味

看護師の臨床と『知』と、看護師が経験を積むことの意味 あなたは 橋本

ドキュメントプロジェクト ▶ 看護師の臨床と『知』と、看護師が経験を積むことの意味

人 トピックアウトライン

活動

フォーラムの検索

管理 1

コースカテゴリ

 ニュースフォーラム



看護師の臨床と『知』と、看護師が経験を積むことの意味

東京女子医科大学 看護学部

教授 佐藤紀子 先生

配布資料(PDF)

- 講義ビデオ(前編1) (36'37)
- 講義ビデオ(前編2) (27'32)
- 講義ビデオ(後編1) (25'16)
- 講義ビデオ(後編2) (43'35)

PDF資料は印刷できないようになっています。

図 5 護師の臨床と『知』と、看護師が経験を積むことの意味

2) 感染制御に関する新しい動き

感染制御に関する新しい動き

ポコカレプロジェクト ▶ 感染制御に関する新しい動き

図 6 感染制御に関する新しい動き

3. 専門公開講座

1) 看護と口腔ケア

看護と口腔ケア あなたは 橋本 明生 氏

ドコカレプロジェクト ▶ 看護と口腔ケア

入

活動

フォーラムの検索

管理

コースカテゴリ

トピックアウトライン

ニュースフォーラム

1 看護と口腔ケア

九州歯科大学 教授 柿木保明 先生

[配布資料\(PDF\)](#)

[講義ビデオ\(前編\)](#)

[講義ビデオ\(中編\)](#)

[講義ビデオ\(後編\)](#)

配布資料は印刷ができないようになっています。

図 7 看護と口腔ケア

2) 看護情報処理セミナー

看護情報処理セミナー

ポコカレプロジェクト ▶ 看護情報処理セミナー


人	+	トピックアウトライン
活動	+	
フォーラムの検索	+	 ニュースフォーラム
管理	+	1 第1日目
コースカテゴリ	+	Windowsの基本操作と情報の検索・発信技術を学びます
		1. マウス操作 コンピュータはしゃべることができません。しかし、いのしょうか？ <ul style="list-style-type: none">○ 印刷物○ スライド
		2. 情報の検索と発表 上手で正確な情報検索をしましょう。 <ul style="list-style-type: none">○ 印刷物○ スライド 院内の研修会でよいプレゼンテーションをす

図 8 看護情報処理セミナー

3) 看護と栄養管理

看護と栄養管理

あなたは

ポコカレプロジェクト ▶ 看護と栄養管理




人	+	トピックアウトライン
活動	+	
フォーラムの検索	+	 ニュースフォーラム
管理	+	1 看護と栄養管理
コースカテゴリ	+	聖路加看護大学 老年看護学 准教授 梶井文子 先生
		配布資料(PDF)
		PDF資料は印刷できなくしてあります。

図 9 看護と栄養管理

4) 医療安全セミナー

医療安全セミナー

ドコカレプロジェクト ▶ 医療安全セミナー

人	+	トピックアウトライン
活動	+	 ニュースフォーラム
フォーラムの検索	+	1 医療者を元気にする
管理	+	～医療者が元気であることは患者・家族が望むところ～
コースカテゴリ		中京大学法科大学院 教授 稲葉一人 先生

[配布資料\(PDF\)](#)

講義を撮影していませんので、配布資料のみとなります。
PDF資料は印刷できないように設定してあります。

図 10 医療安全セミナー

5) その他

(ア) メタヴァイン学習会

あなたは 橋本 明生 として

メタヴァイン学習会

ドコカレプロジェクト ▶ メタヴァイン学習会

人 トピックアウトライン

活動 ニュースフォーラム

フォーラムの検索 1

管理 

コースカテゴリ  

メタヴァイン学習会

～簡易エネルギー代謝測定器METAVINE開発の経緯
栄養ケア・マネジメントでの活用の可能性～

株式会社ヴァイン 鳥井嘉彦 氏

[メタヴァイン代謝測定の説明\(PDF資料\)](#)
[メタヴァインデータ資料\(PDF資料\)](#)


資料は印刷できないようにしてあります。
ビデオ画像は編集中です。

図 11 バーチャルカレッジ その他 メタヴァイン学習会

(イ) 医療情報システム

医療情報システム

ドコカレプロジェクト▶医療情報システム

人	+	トピックアウトライン
フォーラムの検索	+	 一般フォーラム
直近イベント	+	1 医療のIT化推進と病院情報システム - EMRからEHRへ -
最近の活動	+	長崎大学大学院医歯薬総合研究科
管理	+	・医療科学専攻・社会医療科学講座・医療情報学分野 (医学部・歯学部附属病院 医療情報部)
コースカテゴリ	+	教授 本多正幸 先生

[配布資料\(PDF\)](#)
[スライド\(PDF\)](#)
[講義ビデオ\(1\)](#)
[講義ビデオ\(2\)](#)


 [配布資料](#)

図 12 バーチャルカレッジ その他 医療情報システム



図 13 バーチャルカレッジ その他 医療情報システム 本多正幸教授 講演動画

4. 看護学部講義科目

1) 臨床病理学

バーチャル・カレッジ公開講義（平成 20 年度，一部は予定）

講義担当者：吉山直樹（本学）

講義は，1 コマ 90 分の講義をおよそ 3 つに分割し，約 20～30 分の長さのものを 1 単位とした。

[テーマ]

1. バイタルサインの意味，死の徴候
2. 胸痛，息切れ，呼吸困難，動悸
3. 壊死，循環障害，動脈硬化，梗塞
冠状動脈硬化症
4. 変性，過形成，心筋症，心不全
先天性心疾患，末梢動脈疾患
5. 不整脈
6. 心電図
7. 血圧調節の異常
8. 炎症，体温調節異常，頭痛，発熱，痛み，
感染症概説，多臓器不全
9. ウィルス感染症，AIDS，インフルエンザ
10. 呼吸器感染症（気管支喘息，肺炎，肺結核）
11. 閉塞性肺疾患，在宅酸素療法，在宅医療一般
12. 喫煙と健康障害
13. 加齢に伴う変化（老化，萎縮），不安と対処行動
14. 疾病と生活習慣，生活調整の方法，行動変容
15. 遺伝子，遺伝病，ゲノム治療
16. 性・生殖に伴う諸問題，
性同一性障害，性行為感染症
17. 血液疾患
18. 内分泌疾患（下垂体・甲状腺）
19. 内分泌疾患（副甲状腺・副腎・その他）

(ア) 目的

疾病を持つ人間を全人的にみつめ，人体の構造機能から学んだ生命維持と日常生活行動が病的状態に至る基本的過程を理解し，環境や生活のなかで形成された個人的対処行動や医療的対処行動についての基礎知識を学習し，回復を促進させる看護の専門性を獲得することを目的としています。

(イ) 構成

この授業は表 1 の学習内容にわかれています。この臨床病理学の PDF 資料はすべて印刷できます。

コース: 臨床病理学 - Windows Internet Explorer

http://dokokare.niigata-cn.ac.jp/moodle/course/view.php?id=48&topic=1

コース: 臨床病理学

臨床看護学領域
その他
公開講座
大学院看護学研究科
すべてのコース ...

1 高血圧(1)

~人類の宿命~

文部科学省事業 社会人学び直しプログラム
看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン
バーチャルカレッジの試み

新潟県立看護大学
教授 吉山直樹先生
(C) Niigata College of Nursing

高血圧について生命維持機能・循環不全をおこす疾病という観点から解説します。
どうして高血圧が起こってくるか？

1. 講義ビデオ (37'02)
2. 配布資料(PDF)

【課題】人類の宿命とは →

インターネット 電 140%

図 14 臨床病理学の画面

表 1 臨床病理学の各題名と撮影時間

授業題名	撮影時間
高血圧 1	37'02
高血圧 2	35'37
生活習慣病 1	35'11
生活習慣病 2	28'53
高脂血症脂質異常症・高尿酸血症	40'21
糖尿病 1	33'45
糖尿病 2	33'00
バイタルサインとショック	38'41
胸痛・息切れ・呼吸困難・動悸	44'48
冠状動脈硬化症	35'07
虚血・壊死・循環障害・動脈硬化	43'58
不整脈 1	36'47
不整脈 2	22'43
心電図 1	31'19
心電図 2	18'45
感染症	39'46
感染防御機構	26'09
炎症と体温調節	26'10
ウイルス感染症感冒・インフルエンザ	35'27
ウイルス感染症エイズ	25'25
呼吸器疾患の基礎気管支喘息①	23'59
呼吸器疾患の基礎気管支喘息②	22'30
肺炎	32'47
肺結核	31'08
肺がん	39'54
閉塞性肺疾患・在宅酸素療法	23'10

(ウ) オンライン課題

オンラインの課題提出を図 15 に示す。

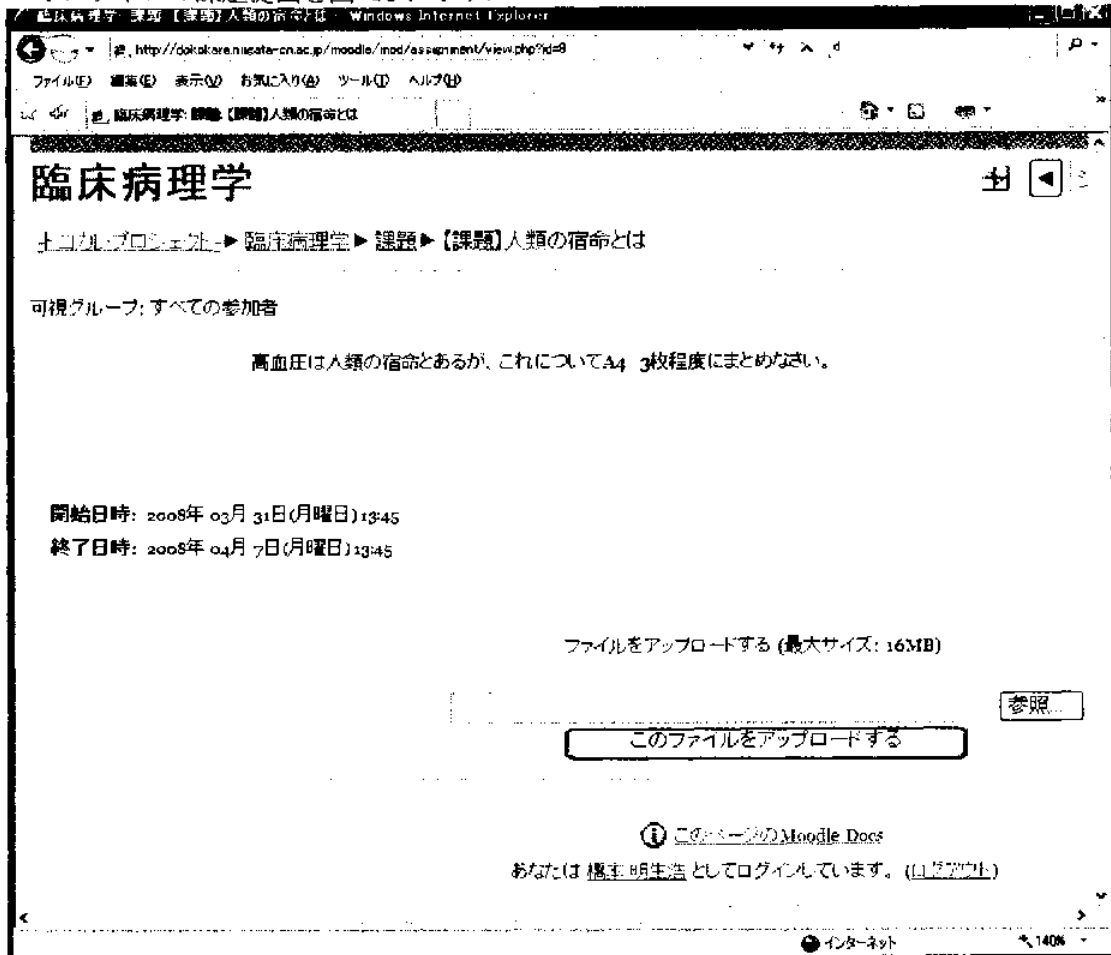


図 15 臨床病理学オンライン課題提出画面

2) 基礎看護技術

基礎看護技術のバーチャルカリキュラムを作成した。概要を表 2 に示す。

表 2 基礎看護技術のコースと概要

コース名	担当教員	おもな目的と概要
基礎看護技術-注射法	教師: 水澤 久恵 教師: 岡村 典子 教師: 堀 良子 教師: 水口 陽子	学習目標は以下の 2 つです。 注射を行うために必要な基礎的知識を理解する 安全な注射の(筋肉注射,皮下注射,皮内注射)実施方法を習得する
基礎看護技術-バイタルサインの測定と観察	教師: 水口 陽子 教師: 堀 良子 教師: 岡村 典子	基礎看護技術で基礎的なバイタルサインの測定と観察を学びます。バイタルサインとは人が生きていることを示す基本的な徴候・所見のことです。一般的には体温,脈拍,血圧,呼吸の 4 つです。 実践基礎看護学講座作成
基礎看護技術-静脈血採血	教師: 堀 良子 教師: 水口 陽子 教師: 岡村 典子	静脈血採血は基礎的な看護技術ですが, 駆血帯は, いつはずす? 等正しい手順を学びます。 実践基礎看護学講座作成
基礎看護技術-感染予防	教師: 堀 良子 教師: 岡村 典子 教師: 水口 陽子	体位変換 移乗・移送は最もよく使用される技術です。しっかりと学びましょう。 実践基礎看護学講座作成 ※現在作成中です。
基礎看護技術-体位変換 移乗・移送	教師: 岡村 典子 教師: 堀 良子 教師: 水口 陽子	体位変換 移乗・移送は最もよく使用される技術です。しっかりと学びましょう。 実践基礎看護学講座作成
基礎看護技術-ベッドメイキング・リネン交換	教師: 堀 良子 教師: 岡村 典子	基礎看護技術は臨床で必須の看護技術です。第一歩としてベッドメイキング・リネン交換を学びます。実践基礎看護学講座作成

(ア) 基礎看護学領域 看護技術学 注射法

http://dokokare.nigata-cu.ac.jp/moodle/course/view.php?id=41&edit=0&sesskey=trne1QwEiNv

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(I) ツール(T) ヘルプ(H)

コース 基礎看護技術-注射法

問題
ファイル
プロフィール

コースカテゴリ

- 基礎医学
- 基礎看護領域
- 臨床看護領域
- その他
- 公開講座
- 大学院看護学研究科

すべてのコース ...

2 第2章 実際の注射の仕方(筋肉注射)

第2章では、筋肉注射の仕方や流れを、映像とともに説明します。

実施の前に(1)患者への説明・承諾

実施の前に(2)手洗い、必要物品の準備

薬液の準備(1)指示書との照合

インターネット 140%

図 16 基礎看護学領域 看護技術学 注射法画面 1

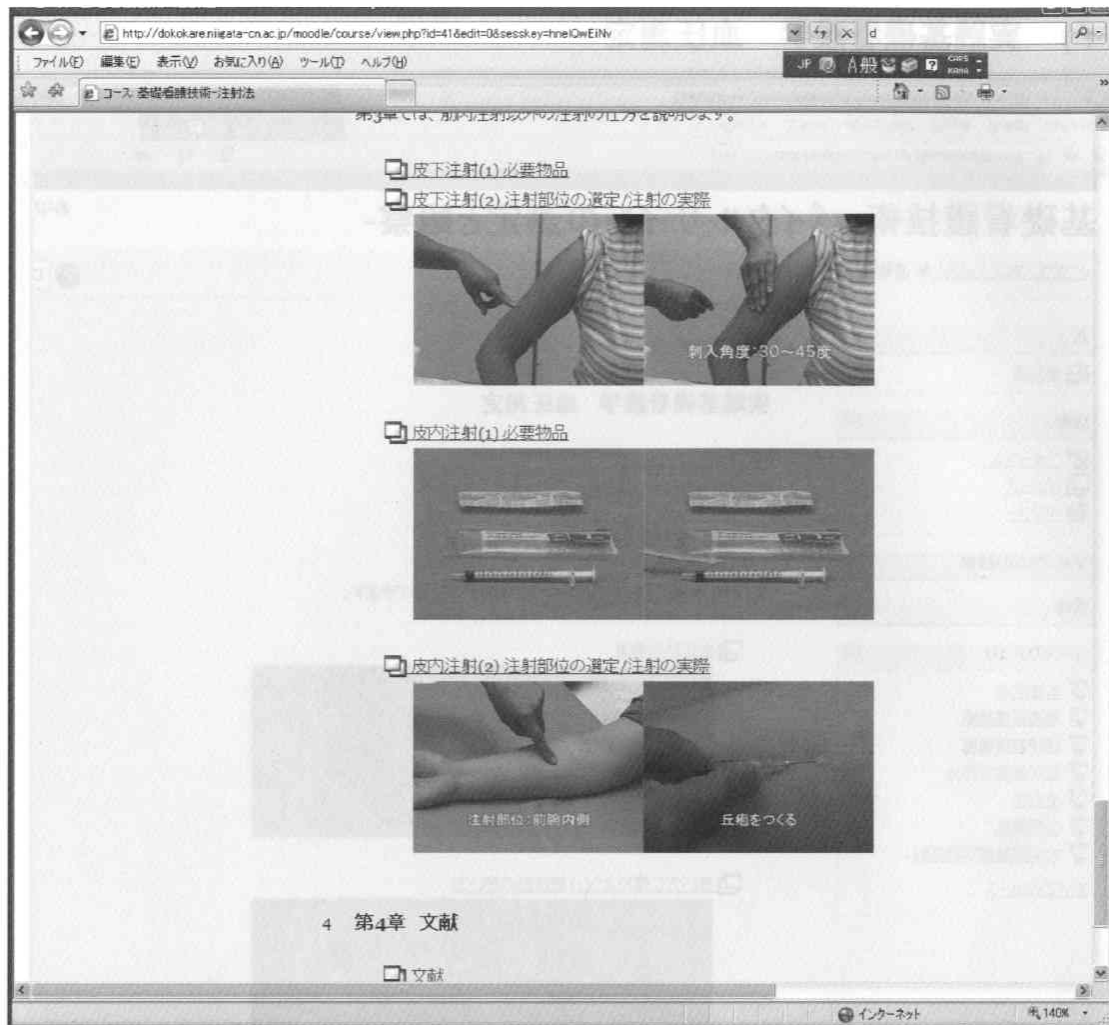


図 17 基礎看護学領域 看護技術学 注射法画面 2

(イ) 実践基礎看護学 血圧測定

The screenshot shows a Moodle course page with the following elements:

- Navigation Menu (Left):** Includes sections for '人' (Participants), '活動' (Activities), 'フォーラムの検索' (Forum Search), '管理' (Management), and 'コースカテゴリ' (Course Categories). The 'コースカテゴリ' section lists: 基礎医学, 基礎看護領域, 臨床看護領域, 臨床看護学領域, その他, 公開講座, 大学院看護学研究科, and すべてのコース...
- トピックアウトライン (Topic Outline):** Displays the course title '実践基礎看護学 血圧測定' and a list of activities: 'ニュースフォーラム' and '共通画像ファイルのディレクトリ'.
- Section 3:** Titled '第3章 映像で確認しよう' (Chapter 3: Let's check with video). It includes the text: 'ここでは、動画を使って一連の動作を確認することができます。' (Here, you can check a series of actions using video.)
- Video Thumbnails:** Two rows of video thumbnails are shown. The first row is titled '血圧計の準備' (Preparation of blood pressure monitor) and shows a person in a clinical setting. The second row is titled '扱い方に慣れよう(1)聴診器の使い方' (Get used to the handling (1) Stethoscope usage) and shows a person using a stethoscope.

図 18 実践基礎看護学 血圧測定 1

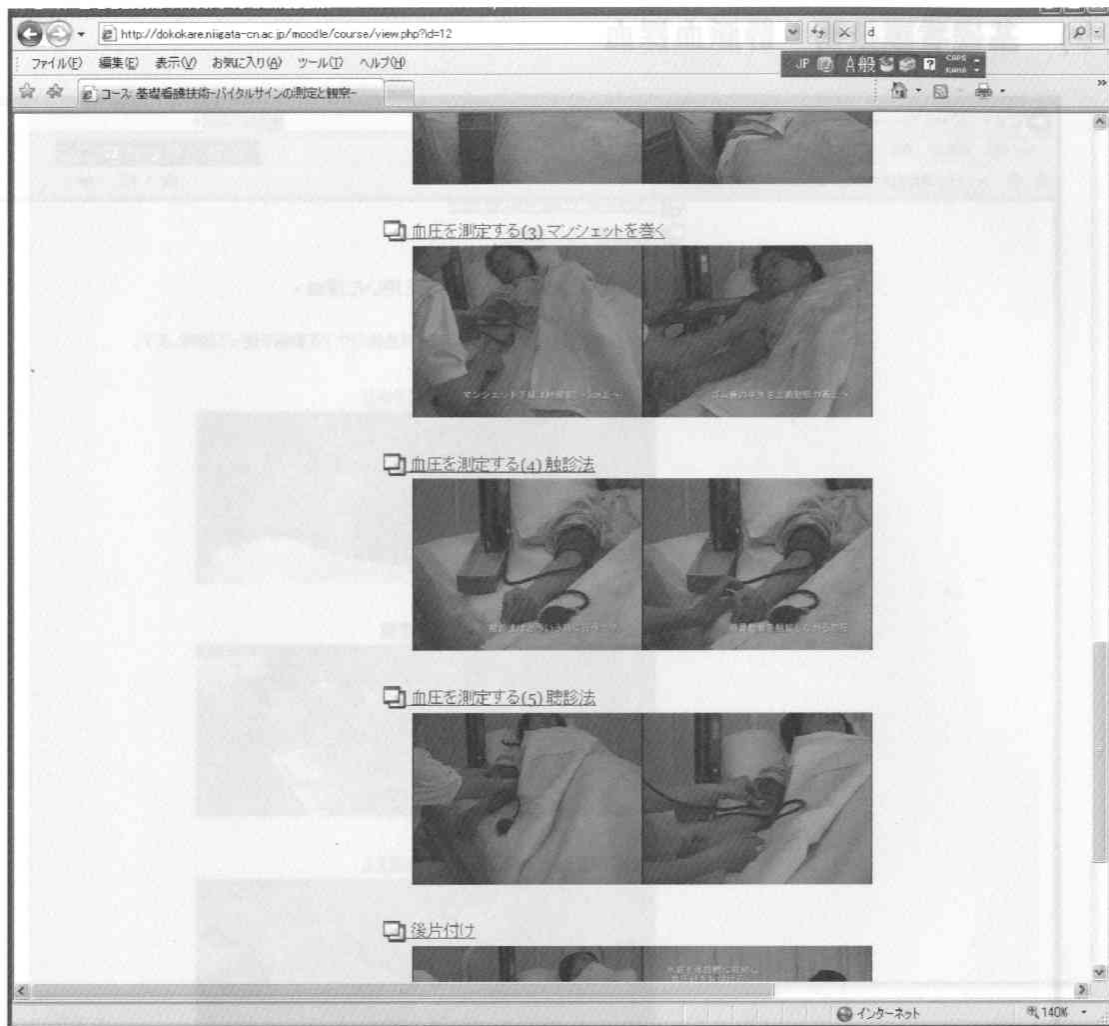


図 19 実践基礎看護学 血圧測定 1

(ウ) 基礎看護技術 静脈血採血

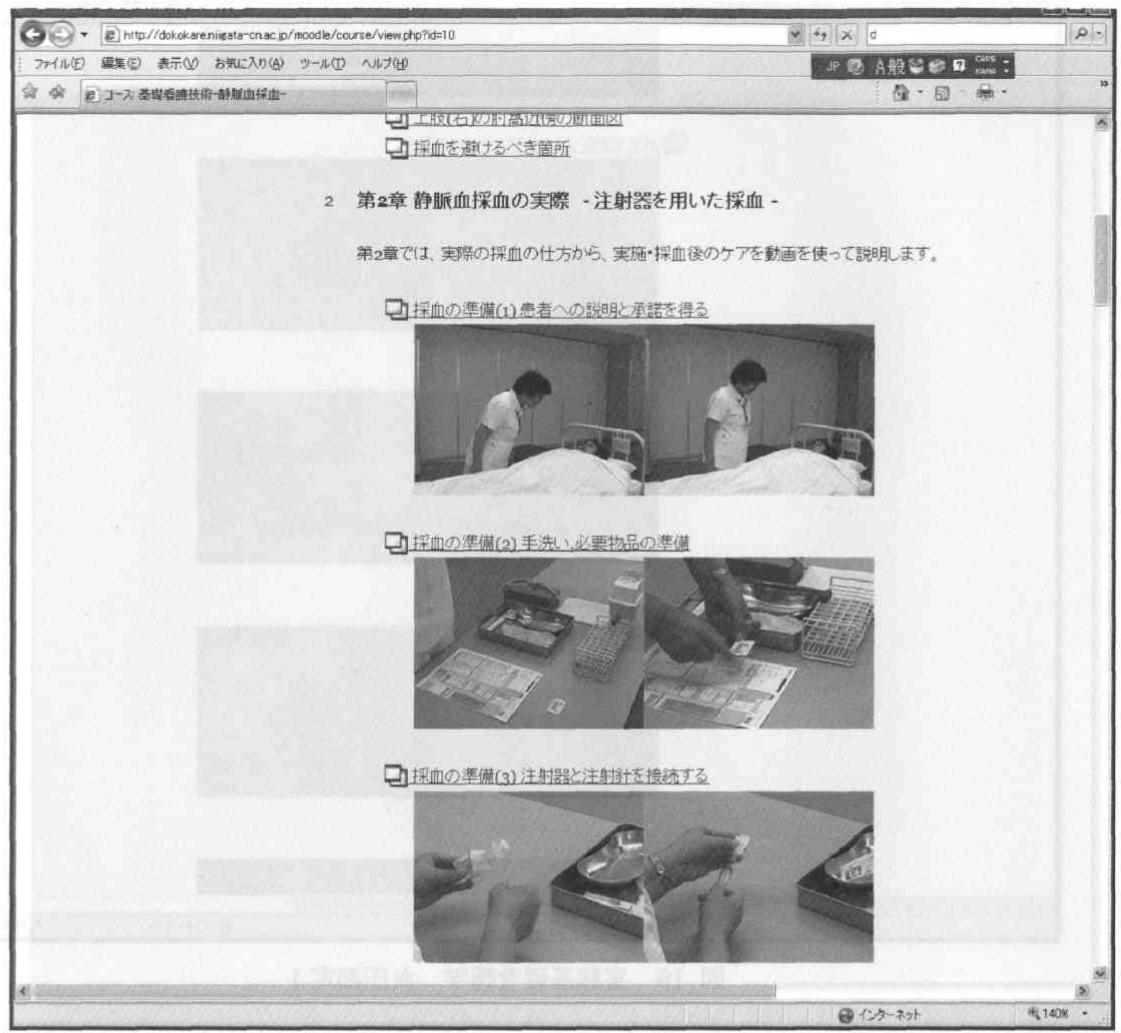


図 20 基礎看護技術 静脈血採血

(工) 基礎看護技術 体位変換 移乗・移送

The screenshot shows a Moodle course page in a web browser. The address bar displays the URL: <http://dokokarenigata-cn.ac.jp/moodle/course/view.php?id=11>. The page title is "基礎看護技術-体位変換 移乗・移送-".

On the left side, there is a navigation menu with the following items:

- 人
- 活動
- フォーラムの検索
- Go
- 検索オプション
- 管理
- コースカテゴリ
 - 基礎医学
 - 基礎看護領域
 - 精神看護領域
 - 臨床看護学領域
 - その他
 - 公開講座
 - 大学院看護学研究科
- すべてのコース...

The main content area is titled "トピックアウトライン" (Topic Outline) and contains the following text:

基礎看護技術 体位変換 移乗・移送

まずは、それぞれの用語の理解を深めましょう。
すべて確認したら、問題で理解の確認をしてください。

- ニュースフォーラム
- 共通画像のディレクトリ

1 第1章 体位変換

用語の理解、必要性和原理、映像で確認をしましょう。

- 用語の理解
- 体位変換の必要性
- 体位変換の力学的原理
- 水平移動

Below the list, there is a video player showing a person in a hospital bed being moved by another person.

The browser's status bar at the bottom indicates "インターネット" (Internet) and "140K".

図 21 基礎看護技術 体位変換 移乗・移送画面 1



図 22 基礎看護技術 体位変換 移乗・移送画面 2

(オ) 基礎看護技術 静脈血採血

学習目標は、

1. 静脈血採血法の基礎知識を理解する
2. 静脈穿刺技術を理解する
3. 採血困難時の対処方法について理解する
4. 採血後の器具、検体の取り扱いを理解する

の4つです。

ドコカレプロジェクト ▶ 基礎看護技術-静脈血採血-

基礎看護技術-静脈血採血-

フォーラムの検索

検索オプション

直近イベント

管理

コースカテゴリ

トピックアウトライン

基礎看護技術 静脈血採血

学習目標は、

1. 静脈血採血法の基礎知識を理解する
2. 静脈穿刺技術を理解する
3. 採血困難時の対処方法について理解する
4. 採血後の器具、検体の取り扱いを理解する

の4つです。

- 一般フォーラム
- 共通画像ディレクトリ
- ニュースフォーラム

- 1 第1章 静脈血採血の基礎知識
 - 静脈血採血の目的
 - 静脈血採血部位
 - 採血する血管の選択
 - 上肢(右)の肘窩近傍の断面図
 - 採血を選択するべき箇所

第2章 静脈血採血の手際 - 注射器を用いた採血

図 23 基礎看護技術-静脈血採血

(カ) 基礎看護技術-ベッドメイキング・リネン交換

練習していく際に、これでいいのかな、うまくいかないなど思ったことはありませんか？
自己流で間違った方法で続けるのではなく、正確な方法を身につけましょう。
ベッドメイキングとリネン交換の手順書を見直し、手順と技術ポイントを見直しましょう。
ここでの技術ポイントの画像を参考にしましょう。

The screenshot shows a web browser window with the URL <http://dkt.kare.niigata-u.ac.jp/moodle/course/view.php?id=9>. The page title is "基礎看護技術-ベッドメイキング・リネン交換". The main content area features a "トピックアウトライン" (Topic Outline) section with the following text:

基礎看護技術 ベッドメイキング・リネン交換

練習していく際にこれでいいのかな、うまくいかないなど思ったことはありませんか？
自己流で間違った方法で続けるのではなく、正確な方法を身につけましょう。

- ベッドメイキングとリネン交換の手順書を見直し、手順と技術ポイントを見直しましょう。
- ここでの技術ポイントの画像を参考にしましょう。

Below the outline, there is a "ニュースフォーラム" (News Forum) section with a "トピックアウトライン" (Topic Outline) sub-section. The main content area also displays "1 第1章 ベッドメイキングの基礎" (Chapter 1: Basics of Bed Making) with the text "まずは、ベッドメイキングの基礎について確認しましょう。" (First, let's confirm the basics of bed making.)

The left sidebar contains a navigation menu with the following items:

- 人
- 参加者
- 活動
- フォーラム
- リソース
- フォーラムの検索
- 検索オプション
- 管理
- コースカテゴリ
- 基礎医学
- 基礎看護学
- 精神看護学
- その他
- 公開講座
- 大学附属看護学研究科
- その他のコース...

The right sidebar contains a "トピックアウトライン" (Topic Outline) section with the following items:

- ベッドメイキングの基礎
- ベッドメイキングの準備
- ストッパーの確認
- 三角コーナーの作製
- ゴムシートの入仕方
- 下シーツの敷き方
- 上シーツのさばき方
- タックの取り方

図 24 基礎看護技術-ベッドメイキング・リネン交換 トップ画面

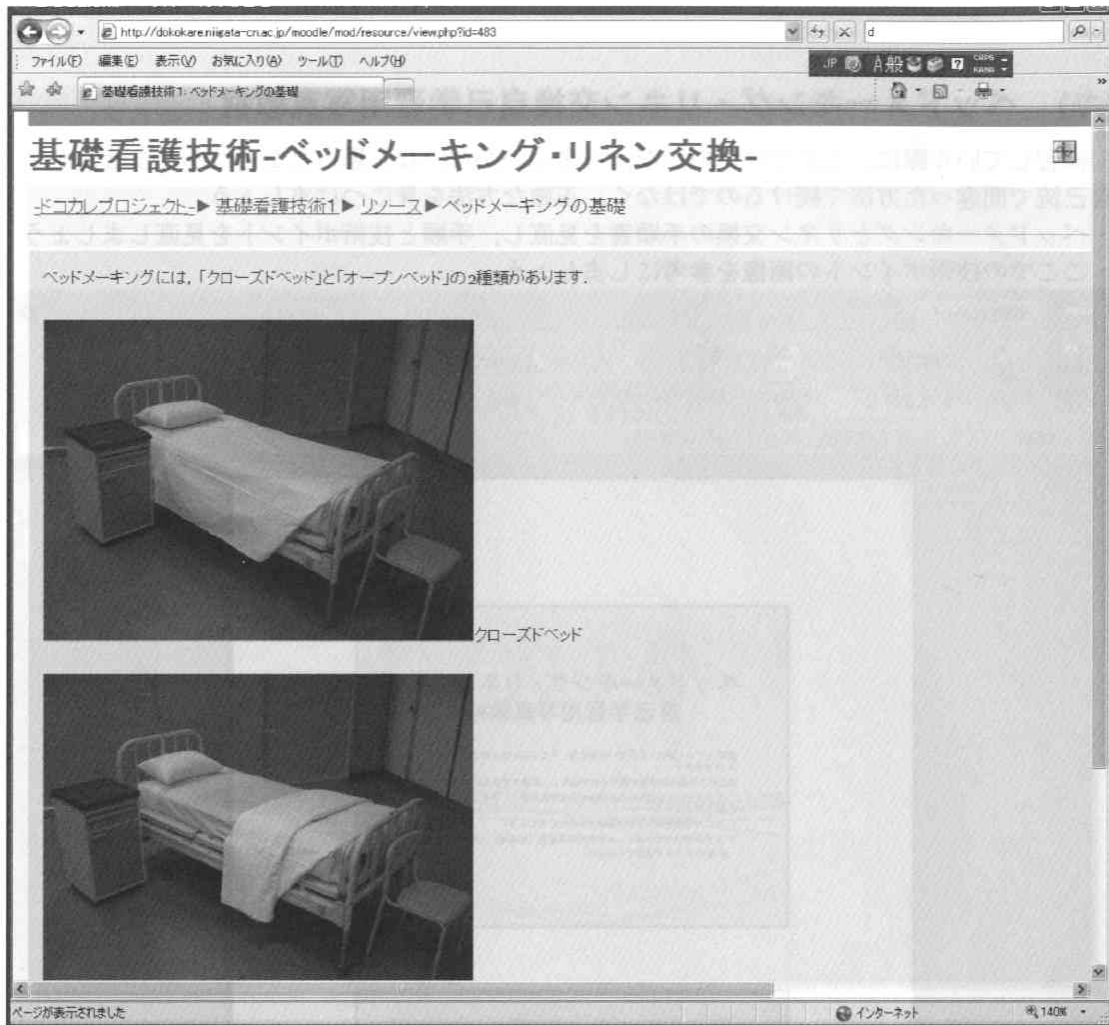


図 25 基礎看護技術-ベッドメイキング・リネン交換
 (「クローズドベッド」と「オープンベッド」)

(キ) ベッドメイキング・リネン交換自己学習用写真教材

練習していく際に、これでいいのかな、うまくいかないなと思ったことはありませんか？
自己流で間違った方法で続けるのではなく、正確な方法を身につけましょう。

- ・ベッドメイキングとリネン交換の手順書を見直し、手順と技術ポイントを見直しましょう
- ・ここでの技術ポイントの画像を参考にしましょう。

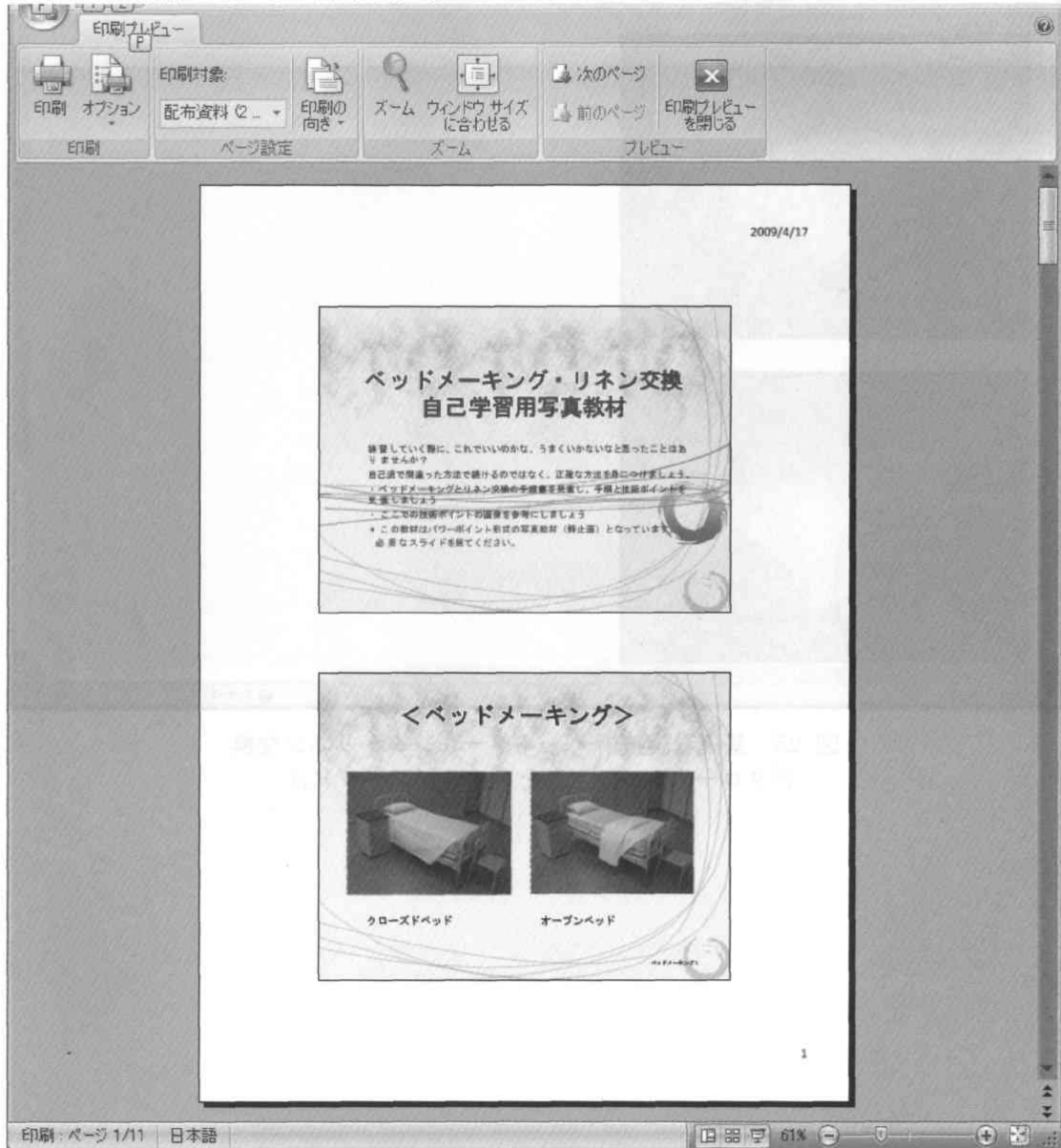


図 26 ベッドメイキング・リネン交換自己学習用写真教材

VI. あなたの「ドコカレ」

見て下さい・使ってみてください, よろしければ入って下さい

執筆者 (順不同) : 原等子, 永吉雅人, 堀川雅美

1. 入会案内

ドコカレメイトになりませんか？

1) ドコカレとは

新潟県立看護大学が実施する「どこでもカレッジプロジェクト」の略称です。文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の採択を受け2007年度より準備をはじめ、2008年夏から開講する看護師のための学び直し卒業教育プログラムです。

2) ドコカレが目指すこと

現代の医療ニーズに対応する看護を公開講座やインターネットなどを活用し、どこにいても誰でもが看護職としての学び直しをすることができるプログラムを目指しています。再就職や職場復帰に向かう看護職を積極的に知識・技術面でサポートすることを目指しています。潜在看護師および長期育休後ならびに最新医療や制度に対する学習ニーズのある看護職が対象です。

3) ドコカレ参加のメリット

- 1) 規定の単位を修得した方には、受講内容を明記した修了証を発行いたします。
- 2) 大学で学ぶ環境を提供いたします。
- 3) 最新の知識や技術を学べる学習内容を用意しています。自宅で学ぶ環境としてインターネットを活用して講義を受講するプログラムやネット電話会議などで質問や意見交換などができるプログラムなども用意しています。

4) ドコカレの構成

「どこでも」学ぶことをサポートするオープン・カレッジとバーチャル・カレッジをご用意しています。

- 1) オープン・カレッジ：大学など施設に赴いて学習する
 - ① 公開講座に出席（看護研究交流センター「生涯学習・研修支援事業」と共同開催）
 - ② 大学の授業を聴講
 - ③ 図書館やパソコン、実習室など大学施設の利用
 - ④ 病院実習
- 2) バーチャル・カレッジ：自宅で自由に学習する
 - ① インターネットを利用したVTR学習（大学授業、公開講座などのVTR）
 - ② 視聴覚教材による自己学習
 - ③ インターネットを介した質疑応答、レポート提出など

5) ドコカレメイトの募集

募集期間 2008年3月より随時問い合わせの受け付けを開始し、7月よりドコカレメイトの募集（登録）開始をします。ドコカレ第一期生は2008年8月から2009年8月末までの期間の登録となります。一期生の募集期限は2009年3月ごろまでを予定しています。

6) ドコカレ参加条件

原則として次の2つの条件にあてはまる方を対象にします。以下の条件に当てはまる方であれば誰でも参加できます。

- 1) 看護師の免許を持っている方
- 2) 以下のような学び直しニーズを持っている方
 - ① 看護技術や最新の医療や制度に不安がある方
 - ② 産後、長期育休をとって復帰する予定の方など、基本的にはニーズがある方に対応します。

7) ドコカレメイトとは

ドコカレメイトとは、「ドコカレ」プログラムへの参加者の呼び名で、この参加者を「メイト」と呼びます。

メイトには2種類あります。ご自分の興味関心に応じて、いずれかの受講形態を選択してください。

名称	コース名	募集定員	コース説明
メイトA	コース受講者	10名程度	ドコカレの学習コースの受講者となります。ドコカレコース修了認定証を発行します。講義7科目以上、演習2科目以上、実習1科目計10科目以上の受講とコース修了試験の合格が修了要件です。
メイトB	科目受講者	特に定めない	科目単位で受講します。試験はありません。実習の受講は原則としてできません。受講した科目を証明する認定証を発行します。

メイトA：応募が多数の場合は、現在就労しておらず、将来看護職としての勤務希望者を優先させていただきます。

メイトB：基本的に無制限ですが、オープン・カレッジ科目の中に受講人数の制限がある場合があります。

8) 修了証の発行

コース、あるいは科目受講が修了したと認定されたら、その度に1枚発行いたします。原則として、修了証の再発行はいたしません。

9) 申し込みから受講の流れ

ドコカレメイトの登録申請手順

- 1) 参加申込書に必要事項を記入し、ドコカレ相談窓口(事務局)に提出します。提出する方法は原則として、WEB登録もしくは直接事務局での申し込みとします。個別に対応いたしますので、ご不明な点はお問い合わせください。
- 2) メイト登録の制限：メイトAでの受講をご希望の場合、募集定員をオーバーした場合、ご期待に添えない場合があります。
- 3) 受講のお手伝い：受講に関してはガイドチューターが科目選択をお手伝いします。受講科目を変更する際にもご相談下さい。

10) ドコカレメイトへのメッセージ

ドコカレは、あなたが学び直しをして、看護職としての自信と誇りを高めるためのプログラムです。基本的には学ぶ講座も内容も学び方もあなた次第。あなたのご意見によりドコカレも進化します。是非、参加してみてください、あなたの学びを深めるためのご意見をお待ちしています。

2. どうぞ、ご相談を

1) 事務的なこと

ドコカレの総合的な相談窓口は、大学内にある「看護研究交流センター」になります。

このセンターは、県民の保健・医療・福祉の向上に寄与することを目的として大学の開設時に併設され、看護に関して地域および行政がかかえる課題の研究や公開講座などの地域支援事業を行っています。

看護師の学び直しを支援する「ドコカレ」についても総合的な相談業務を看護研究交流センターが担います。

担当職員が看護研究交流センターにて申し込みや受講方法、受講料などの事務的なお問い合わせにお答えします。

また、教育内容についてのお問い合わせにも担当教員と連携して対応するなどワンストップ機能を持った相談窓口です。

～お問い合わせ先～

ドコカレ総合相談窓口

新潟県立看護大学 看護研究交流センター
〒943-0147 新潟県上越市新南町240番地

電話：025-526-2822 (直通・FAX 兼) 木村
電話：025-526-2811 (代表) 内線 144 岡沢
Eメール：dokokare@niigata-cn.ac.jp
ホームページ：<http://dokokare.nirin.jp/>

2) IT に関連した内容のこと

相談窓口として、橋本准教授(025-526-3110)と永吉助教(025-526-3125)が担当させていただきます。

パソコンの使用に関しては、概して言えば、「5年以内に購入した」パソコンであれば、処理速度の問題はあるにしろ、使用できると考えられます。しかし、購入価格や性能、使用状況によって個々で大きく状況が異なるため、個別に相談に応じさせていただきます。その際には、パソコンを操作できる状態にして、以下の情報をご用意の上、上記担当者までご相談ください。

- パソコンの性能の主な三点「OS, CPU, メモリ」: 以下の手順に従って、ご確認ください。なお、Windows Vista を例として説明させていただきますが、Windows であれば、同様に確認できます。
1. 「スタートボタン」をクリック→「コントロールパネル」をクリックしてください。

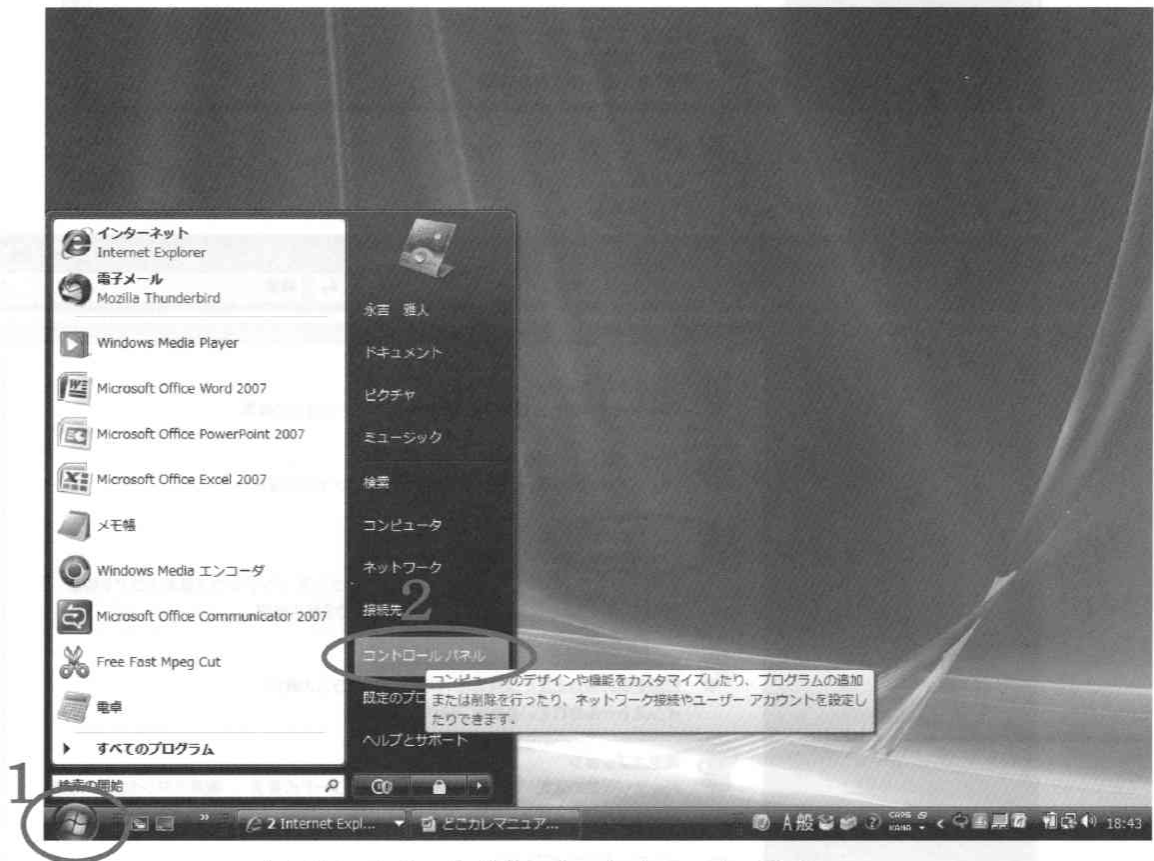


図 27 スタートボタンとコントロールパネル

2. 「システムとメンテナンス」をクリックしてください。

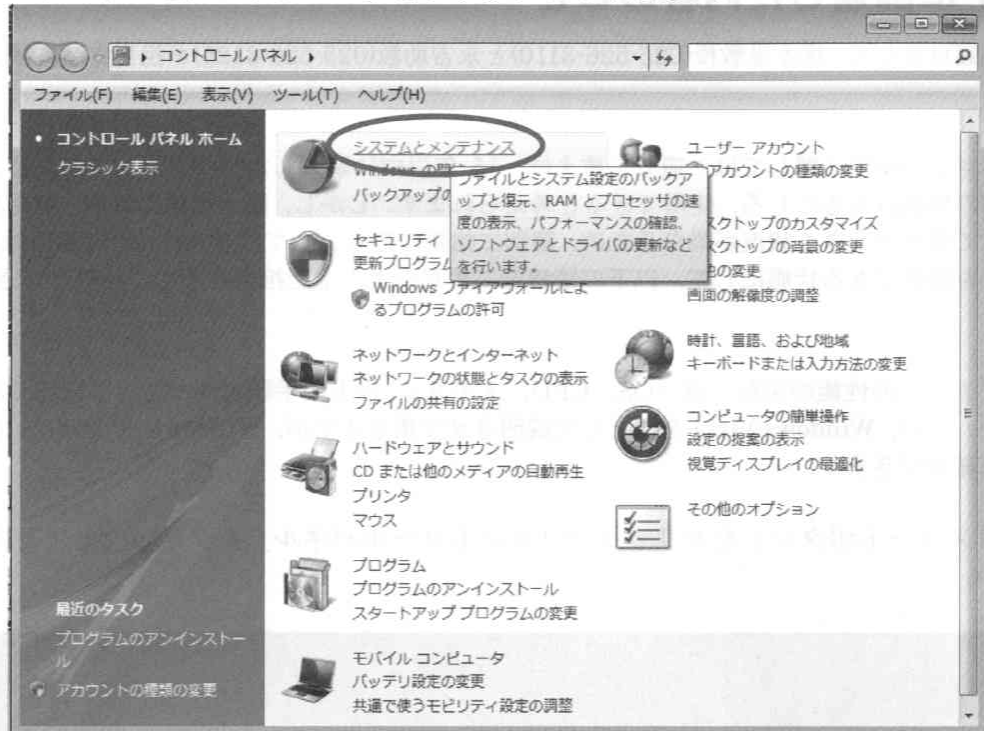


図 28 コントロールパネル。

3. 「システム」をクリックしてください。

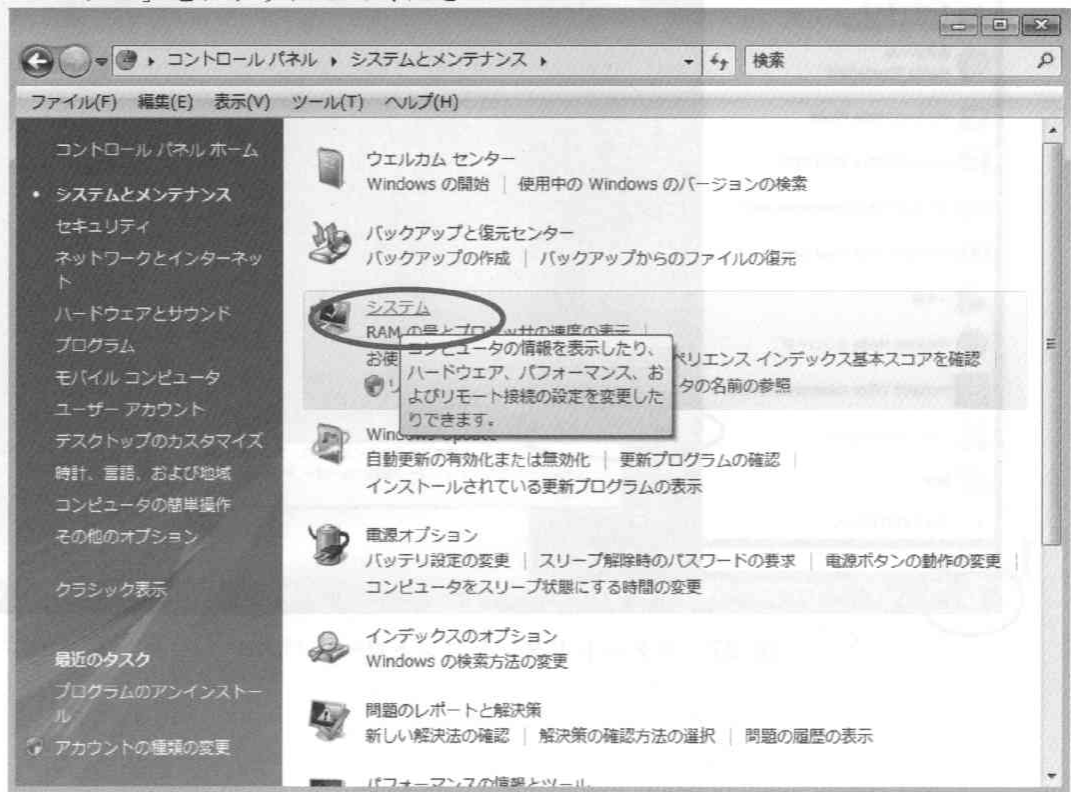


図 29 システムとメンテナンス

4. 「Windows Edition」と「プロセッサ」、「メモリ」をメモしてください。

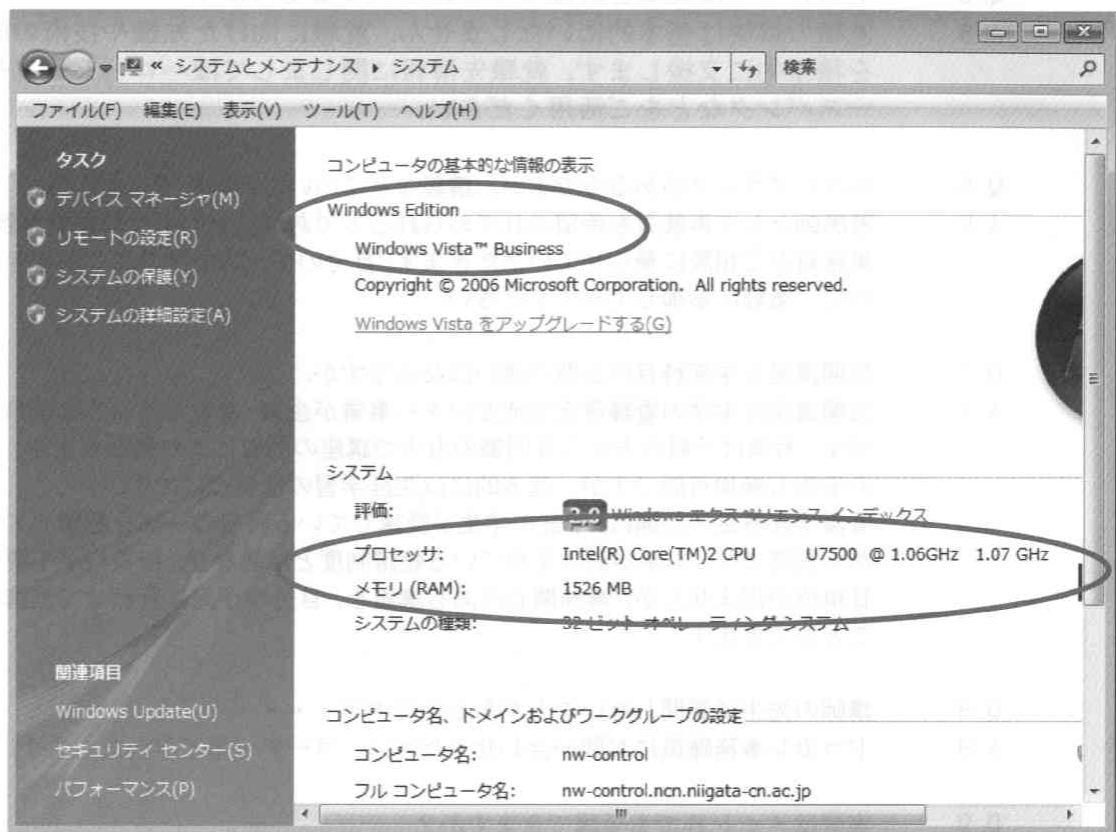


図 30 システム

3) よくある Q&A

- Q. 1 受講料や費用はどのくらいかかるのでしょうか？
A. 1 原則として受講料はかかりません。大学施設の使用に関しても無料です。ただし、講座の内容により演習物品の実費購入など一部負担などをお願いする場合があります。
- Q. 2 講座を受講途中で就職するなどして受講を中断しなくてはならない場合は、認定証をもらえないのでしょうか？
A. 2 基本的には所定の内容を受講終了した方に認定証を発行いたします。ドコカレメイトAまたはBのコース内容によって、書式が変わります。コース入会案内のドコカレメイトの募集の項をご参照ください。
- Q. 3 途中から講座を受講することは可能ですか？
A. 3 講座の内容によりますので、ご相談ください。
- Q. 4 病院実習の際には、白衣やナースシューズなどを用意するのですか？
A. 4 各自でご準備いただくものもありますが、詳細については実習施設の状況により変わりますので、実施時にご案内いたします。

- Q. 5 ドコカレでは就職を斡旋してくれるのでしょうか？
A. 5 就職の斡旋は基本的にいたしません。就職に向けた知識や技術の向上を積極的に支援します。就職先情報に関しましてはハローワークやナースバンクなどをご活用ください。
- Q. 6 かなりブランクがあるのですが、講義などについていけるのでしょうか。
A. 6 看護師として再就労を希望されておられる方であればどのような方でも教員、事務員がご相談に乗らせていただきます。自分のペースで学ぶことができますので、気軽に参加してみてください。
- Q. 7 公開講座と学部科目の公開の違いはなんですか。
A. 7 公開講座は本学の看護研究交流センター事業が企画・運営している講座のことです。対象は一般の方から専門職の方まで講座の内容により異なります。本学の学生も参加可能ですが、基本的には生涯学習の位置づけです。看護学部科目の公開は、学部の学生が受講している科目の一部を聴講していただく制度です。本学が別に定めている聴講制度とは異なり、授業料が不要で科目単位が出ませんが、興味関心のある講義を、自分の予定に合わせて受講することができます。
- Q. 8 講師の先生に質問したいことがあるのですが・・・
A. 8 ドコカレ事務職員にお問い合わせください。コーディネートいたします。
- Q. 9 実習はメイト B でも受講できますか？
A. 9 実習の参加希望状況にもよりますが、実習だけの参加も可能ですのでお問い合わせください。
- Q. 10 メイトの登録後に再就職をしたのですが、その後も参加することはできますか？
A. 10 お仕事をお持ちの方の場合はメイト B となりますので、お知らせください。メイトの種別は異なりますが、受講に制限はありませんので、気軽にご参加ください。

VII. ドコカレのホームページを見るために

メイト用

(ドコカレ Moodle マニュアル メイト用)

執筆者：永吉雅人

0. はじめに

ドコカレのバーチャルカレッジは、自宅や学校など、インターネットが利用できる PC があるところであれば、どこからでも利用できます。そのために、ドコカレのホームページは Moodle という教育管理ソフトで作成されています。ここでは、ドコカレのホームページを見るために、最低限知ってほしい Moodle の操作方法を説明します。基本的には、何度か利用すれば、直観的に操作ができるようになるでしょう。慣れるまでは、幾度となく、以下の説明を読みながら作業して下さい。以下では、毎回必要になる、

1. ログイン操作,
そして、初回のみ一度だけ必要な,
2. プロファイルの変更,
について説明します。また、その後、利用するにあたり、主な操作となる,
3. コースの選択,
4. アップロードの仕方,
5. 小テストの受け方,
6. 評価の確認,
7. サイトニュースとコースのニュース,
8. 掲示板,
について、説明します。

1. ログイン操作

ログインとは、メイトである「あなた」が「あなた」であることを知らせるために行う操作です。ログインを行うと、メイトとしてドコカレの情報を閲覧・利用することができますようになります。この操作は、ドコカレのホームページを見るときには毎回必要になります。ログイン操作の仕方を、以下の手順に沿って説明します。

1. ウェブブラウザ（インターネットエクスプローラ etc）を起動して、URLに「<http://dokokare.niigata-cn.ac.jp/moodle/>」を入力してください。例えば、インターネットエクスプローラであれば、図 31 の 1 の場所になります。入力後、どこでもカレッジ プロジェクトのホームページが表示されます。次に、図 31 の 2 の場所の「ログイン」をクリックしてください。

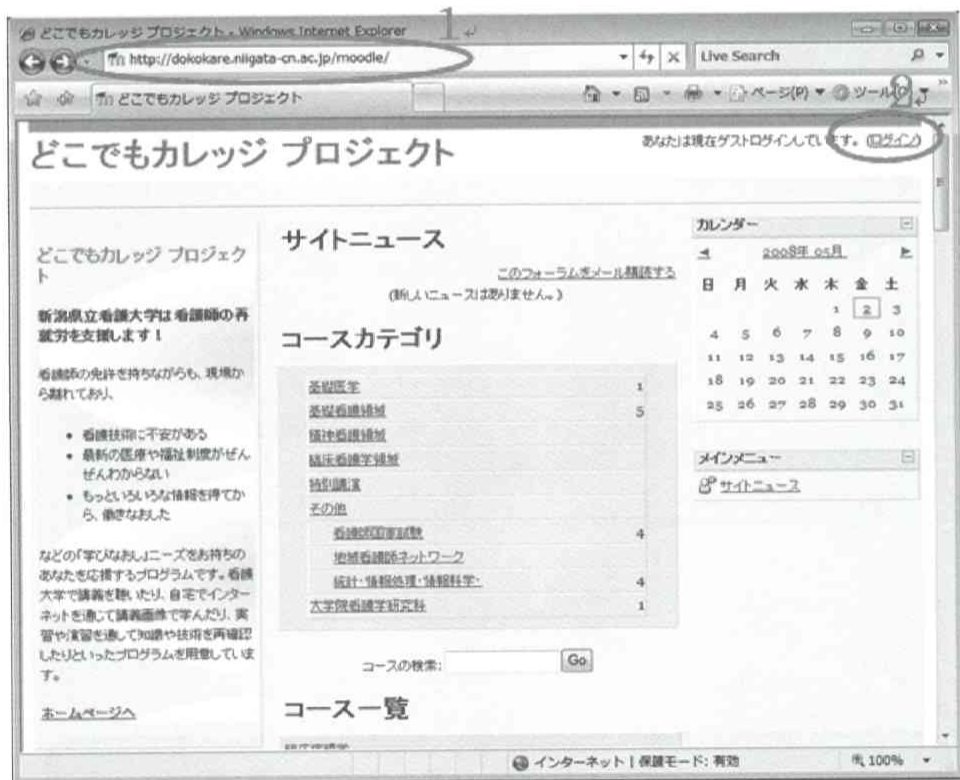


図 31 ドコカレホームページのトップページとログイン

<http://dokokare.niigata-cn.ac.jp/moodle/>

2. 図 32 に示された場所に、配布されたユーザ名とパスワードを入力して、ログインボタンをクリックしてください。

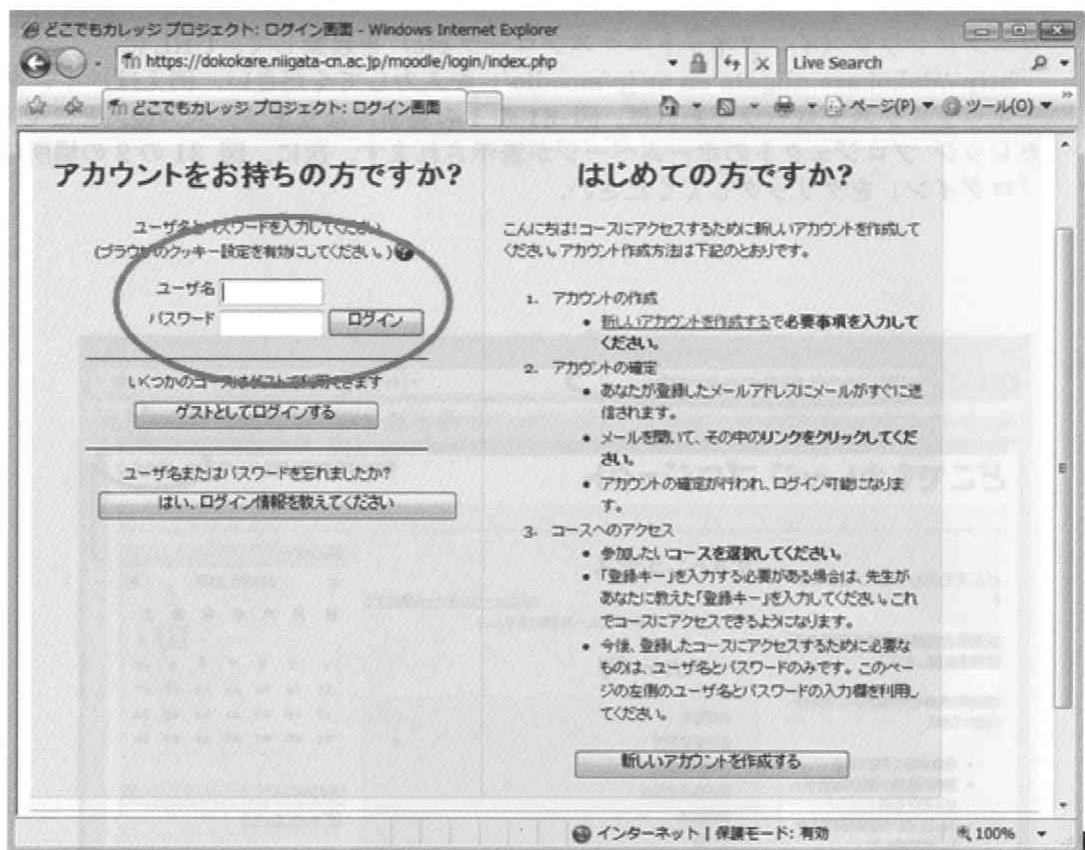


図 32 ログイン画面

ユーザ名とパスワードの記入

3. 以上で、ログイン完了です。ホームページの右肩に姓名が表示されていることを確認してください。図 33 では、姓名が test test になっています。姓名が記入ミスにより間違っている場合がありますが、次に説明するプロフィールの更新によって訂正することができますので、安心してください。

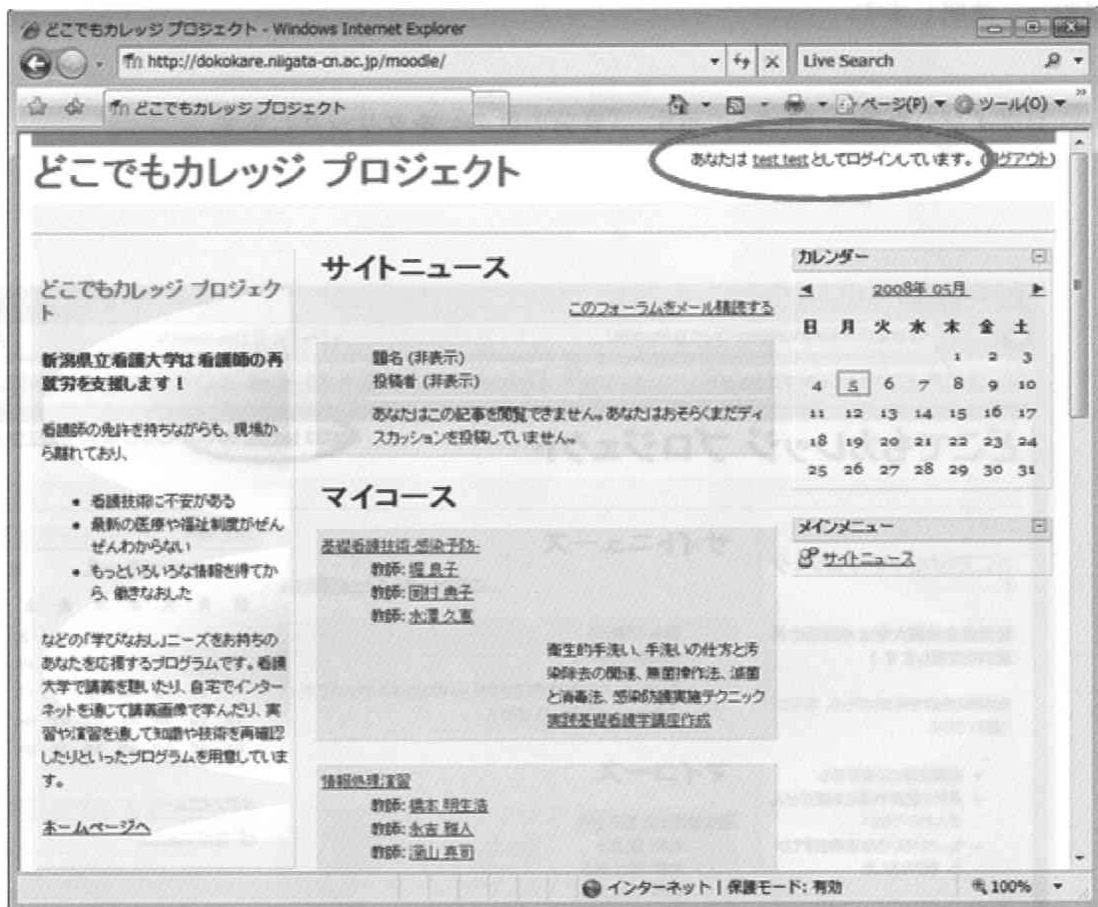


図 33 ログイン完了とその確認

姓名の確認

2. プロファイルの変更

プロフィールとは、プロフィールつまり自己情報を示します。プロフィールを記入することによって、教師や他のメイト、学生に「あなた」がどのような人なのかを表示させることができます。もちろん、知られたくないことは記入する必要はありません。

ここで、メールアドレスに「携帯のメールアドレス」を記入することによって、ニュースを携帯のメールに送信させることができます。これは、普段日常的にインターネットを利用しない人にとっては、とても便利なことだと考えられます。この変更は、初回に一度変更すれば、それ以降行う必要はありません。以下、プロフィールの変更の仕方を、手順に沿って説明します。

1. ログインした後、図 34 に示す、「自分の姓名」をクリックします。

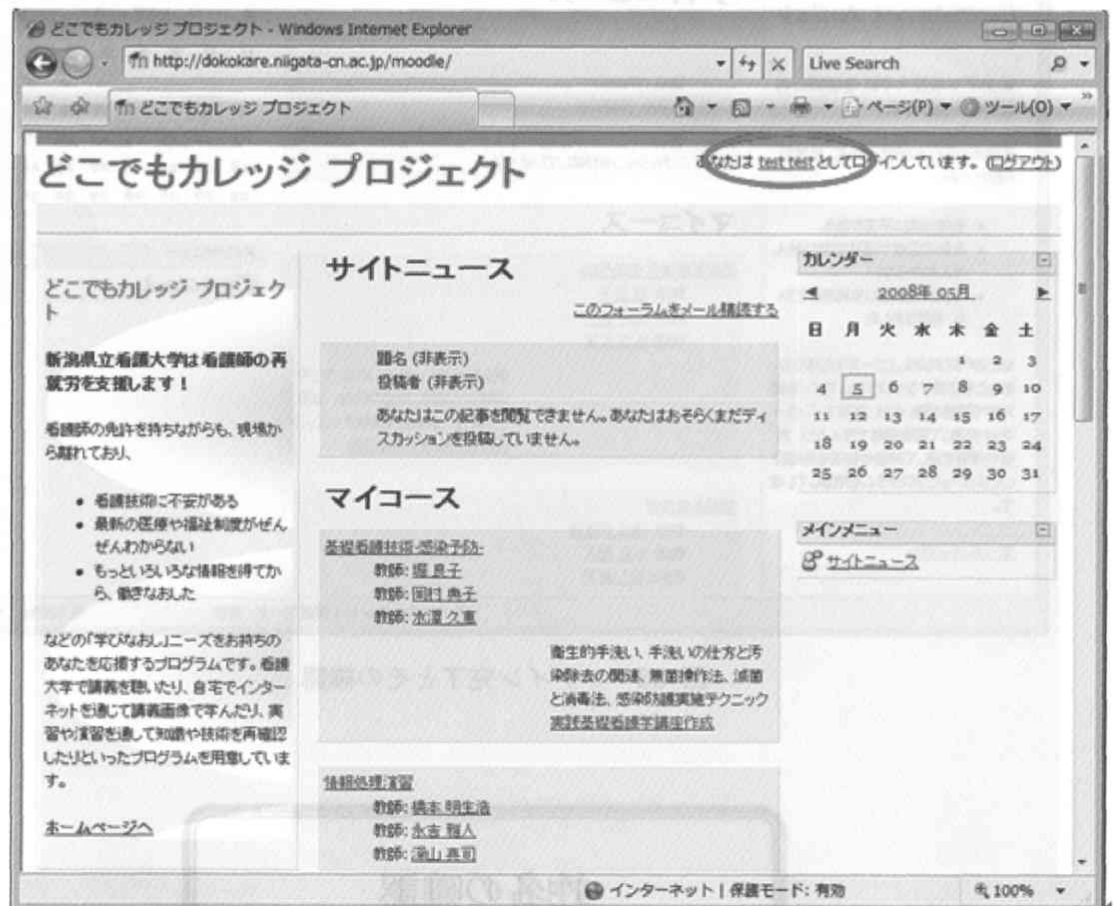


図 34 ログイン後の画面（プロフィール変更画面へ移動）

2. ここでは、公開されているプロフィールの内容が表示されています。つまり、教師や他のメイト、学生は、あなたのプロフィールとして、表示されている内容を見ることができます。次に図 35 に示す、「プロフィールの編集」タブをクリックします。



図 35 プロファイルのトップ画面

五巻・五巻の巻頭

3. 図 36 に示す, プロファイルの編集画面に移ります. ここで, 姓名に誤りがある場合は, 修正してください. 逆に, ここで記入されているものが, 「あなた」の姓名として表示されることとなります.

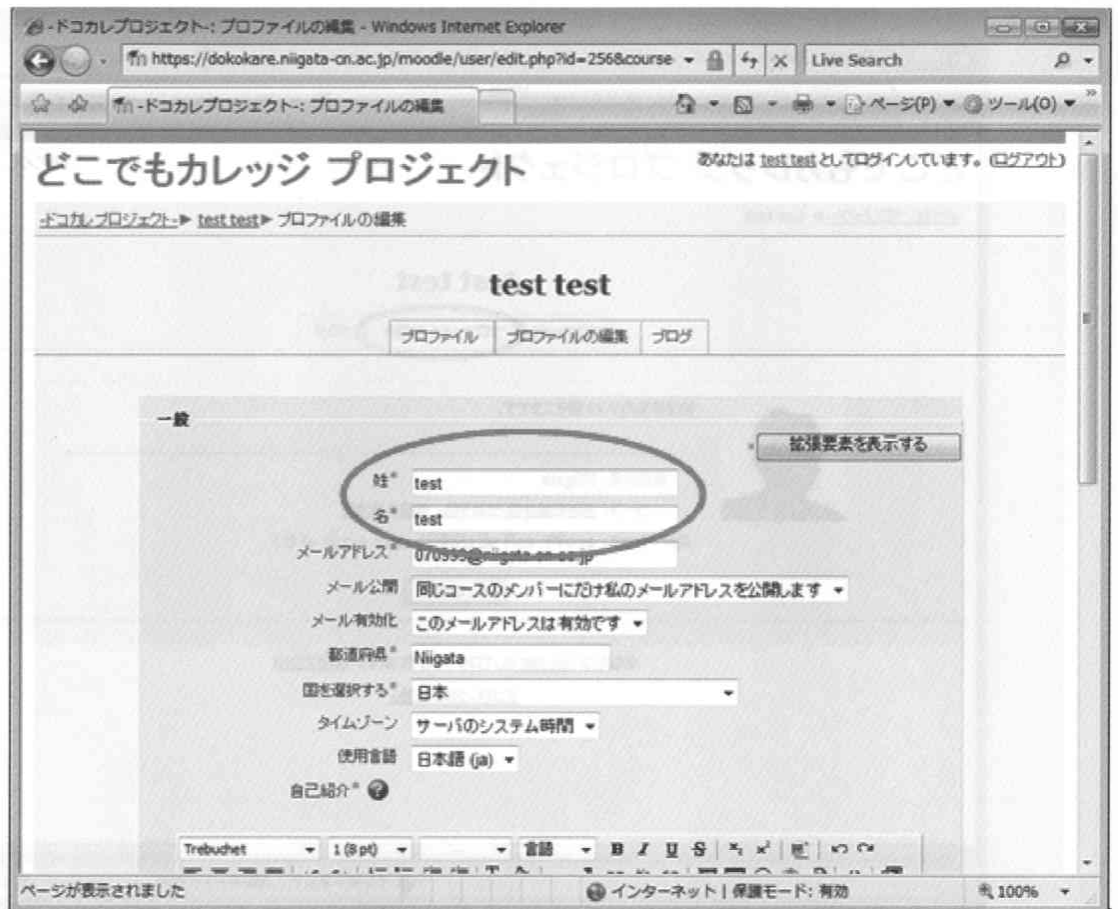


図 36 プロファイルの編集画面と姓名の確認

姓名の確認・修正

4. 次に、図 37 に示すメールアドレスを確認してください。ここに、携帯のメールアドレスを記入することによって、ドコカレの連絡が携帯に送信されるようにすることができます。

下の画面に移るためには、画面右端のバー上で、マウスをクリックして、下に移動（バーを下にドラッグ）してください。

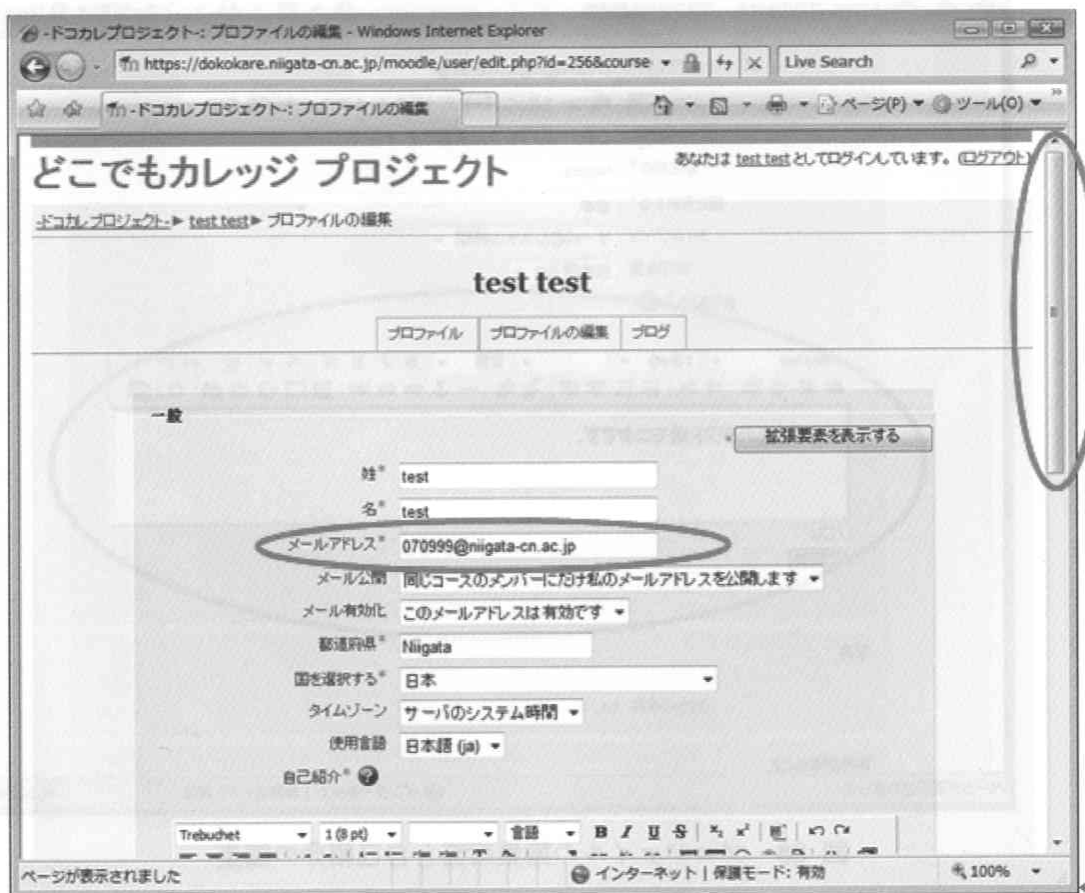


図 37 プロファイルの編集画面とメールアドレスの確認

メールアドレスの確認

5. 次に、図 38 に示す場所に、自己紹介の文を記入してください。簡単で結構です。これが記入されていないと、プロフィールの更新ができません。また、他の人を参考にしてみても良いと思います。この自己紹介文は、公開（他人が閲覧できる）されますので、注意してください。

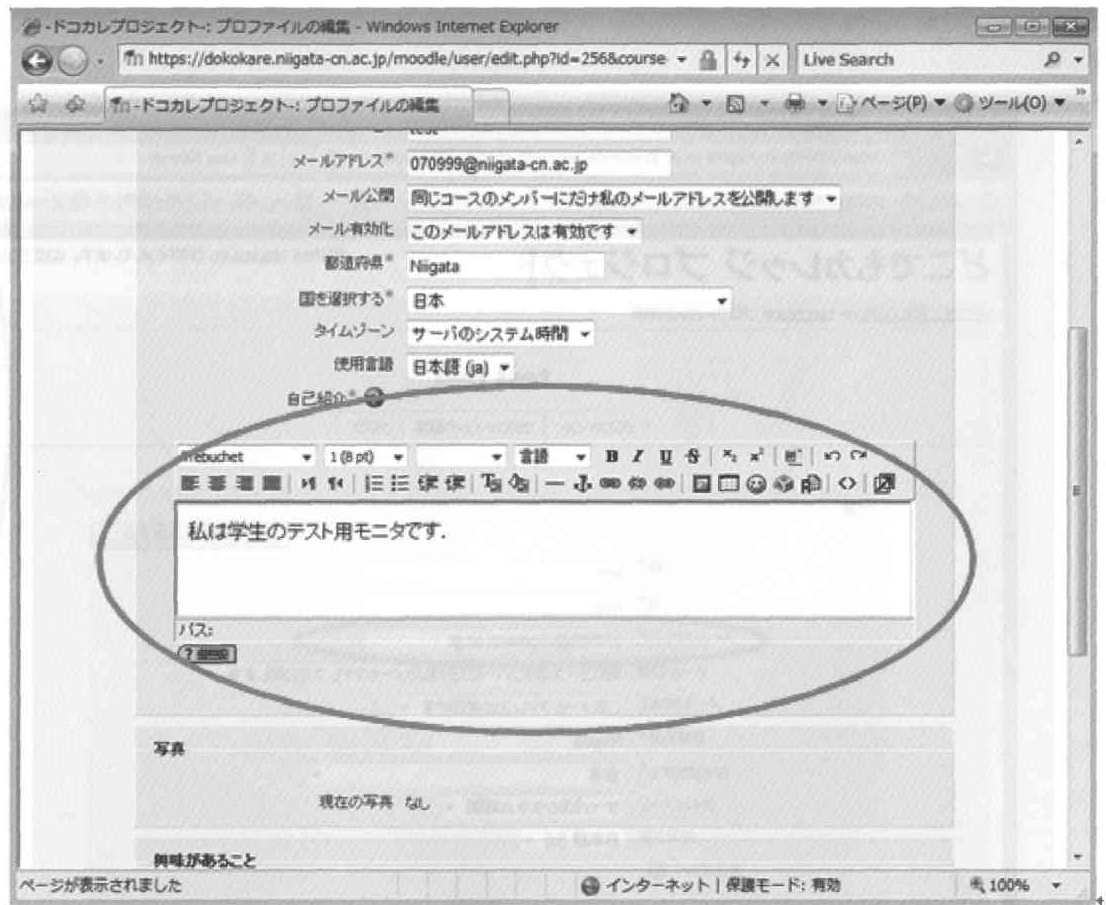


図 38 プロファイルの編集画面と自己紹介の編集

自己紹介の記入

6. プロファイルの編集が終われば、図 39 に示す「プロフィールを更新する」をクリックしてください。

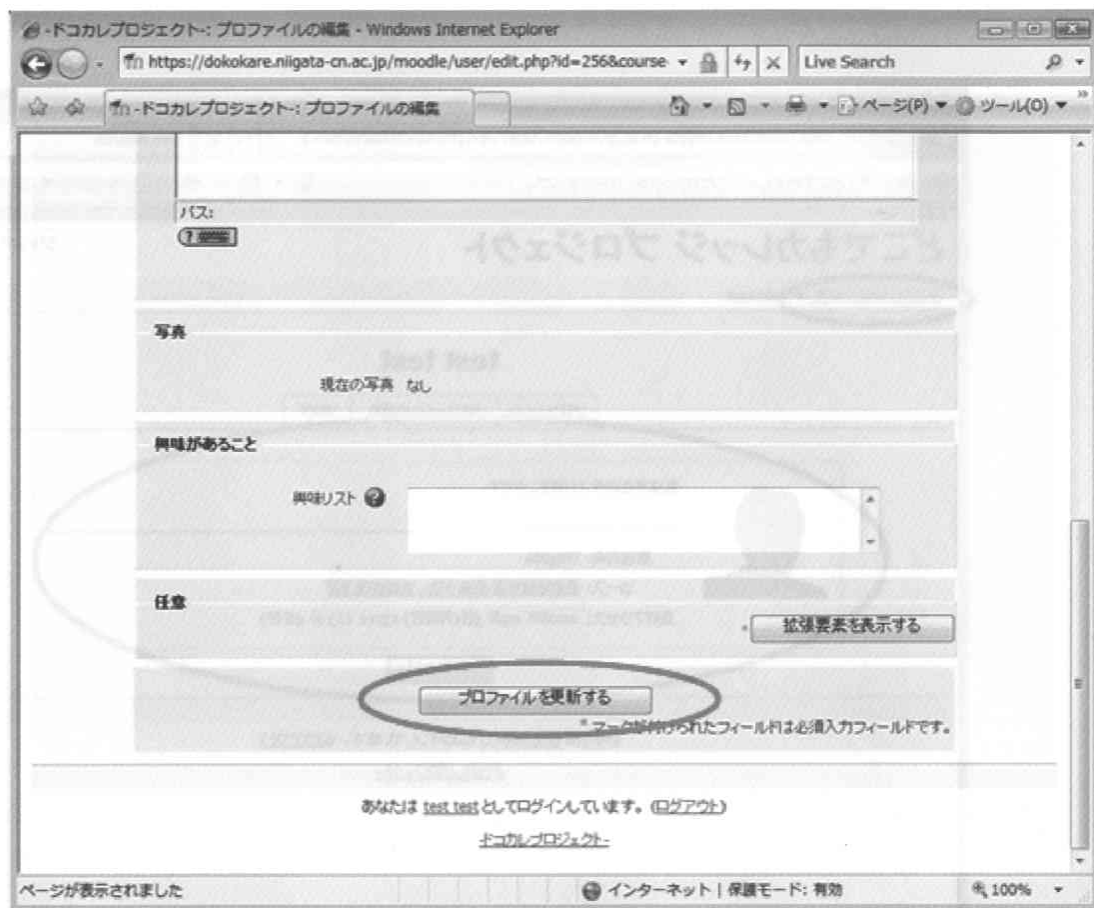


図 39 プロファイルの編集画面とプロフィールを更新

最新の内容を閲覧

7. 更新すると、図 40 に示すプロフィールのトップ画面に移動します。ここで、再度、プロフィールに間違いがないか確認してください。次に、ドコカレのトップページに戻るためには、図 40 の左肩に示す「ドコカレ プロジェクト」をクリックしてください。

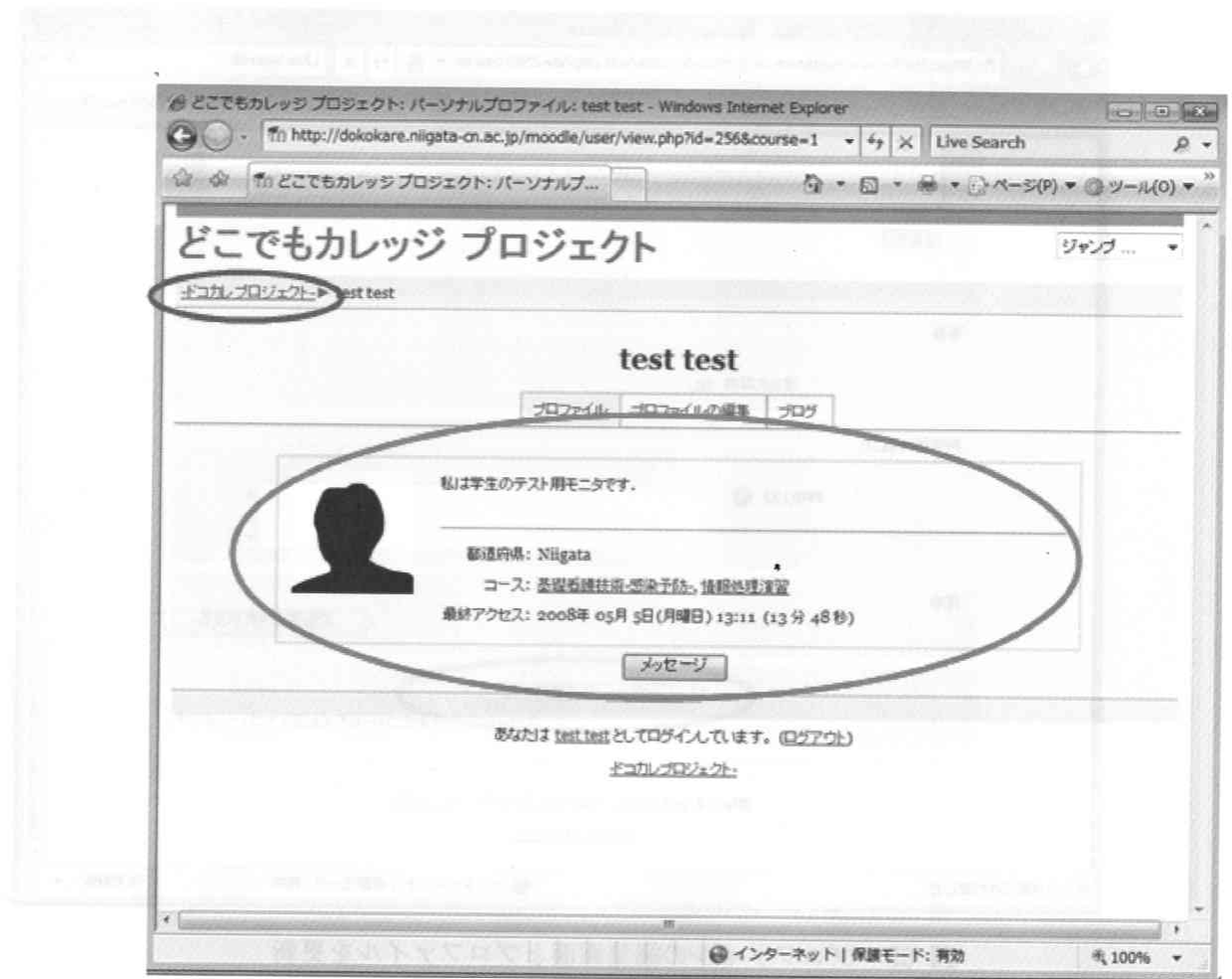


図 40 プロファイルのトップ画面と更新した内容の確認

更新した内容の確認

3. コースの選択

コースとは、学校でいう授業科目とお考えください。コースを選択は、学校でいう履修届を提出することに対応付けられます。選択後は、ログイン完了後の画面から、すぐにアクセスすることができるようになります。コースの選択の仕方を、以下の手順に沿って説明します。

1. コースカテゴリの中から、選択したいコースをクリックします。図 41 では例として、「基礎看護技術-感染予防-」を選択してみます。また、選択したコースは、マイコースに表示され、アクセスしやすくなっています。図 41 では、「情報処理演習」が選択しているコースであることが確認できます。

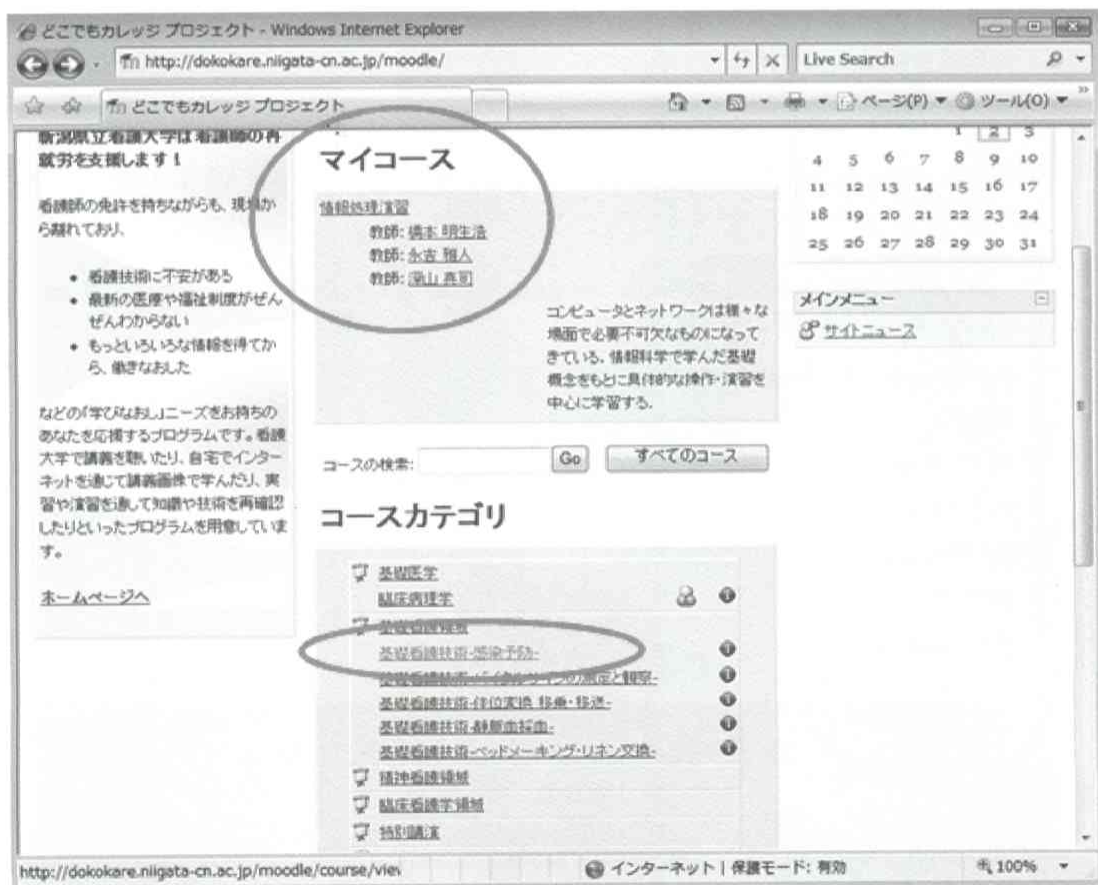


図 41 コースの選択とマイコース

2. 図 42 は、コース選択の確認画面です、「YES」ボタンをクリックします。

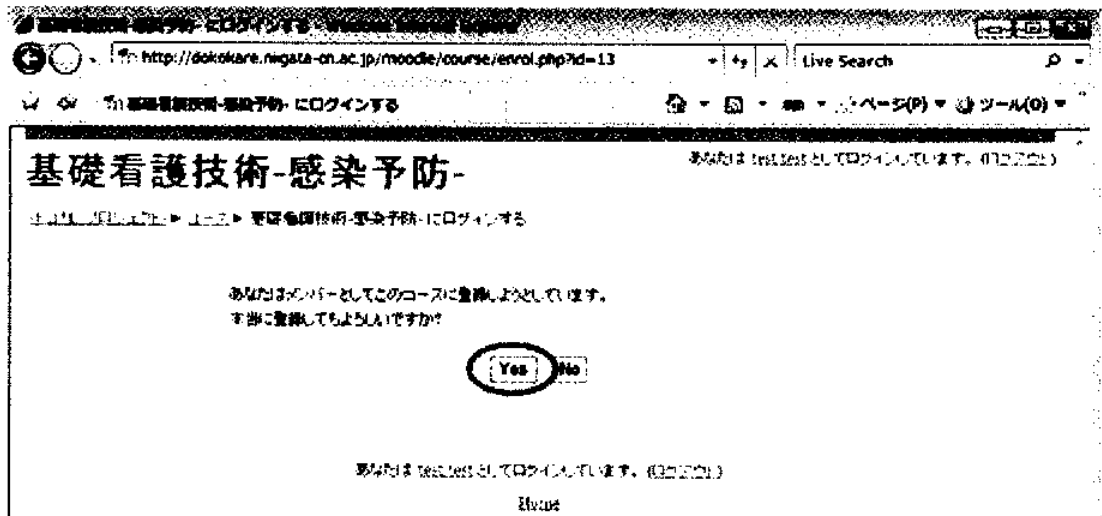


図 42 コース選択の確認画面

3. 図 43 は、コース選択完了した画面で、このコースのトップページです。この状態から、このコースは準備中で、中身が存在しないことがわかります。ここで、選択したコースがマイコースに追加されていることが確認できます。(なお現在は、このコースはしっかりと整備されています。)

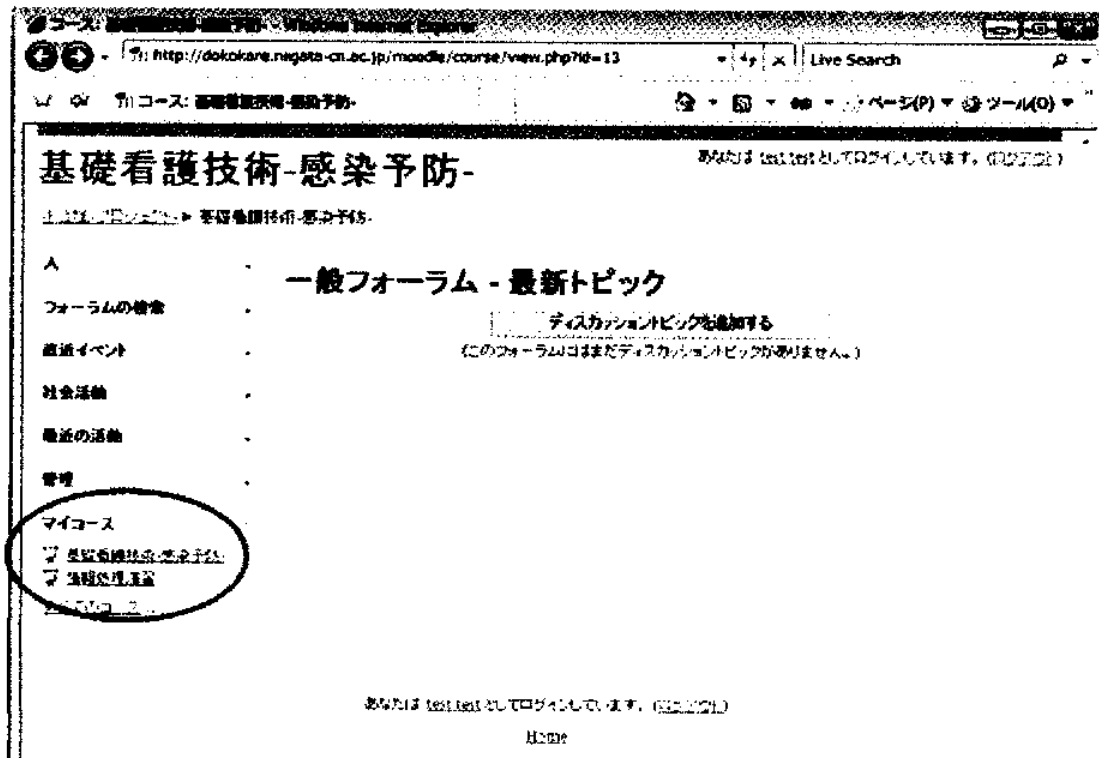


図 43 コース選択完了画面 (このコースのトップページ)

4. 図 44 に示すログイン後のトップページにも、マイコースとして追加されており、アクセスしやすくなっています。

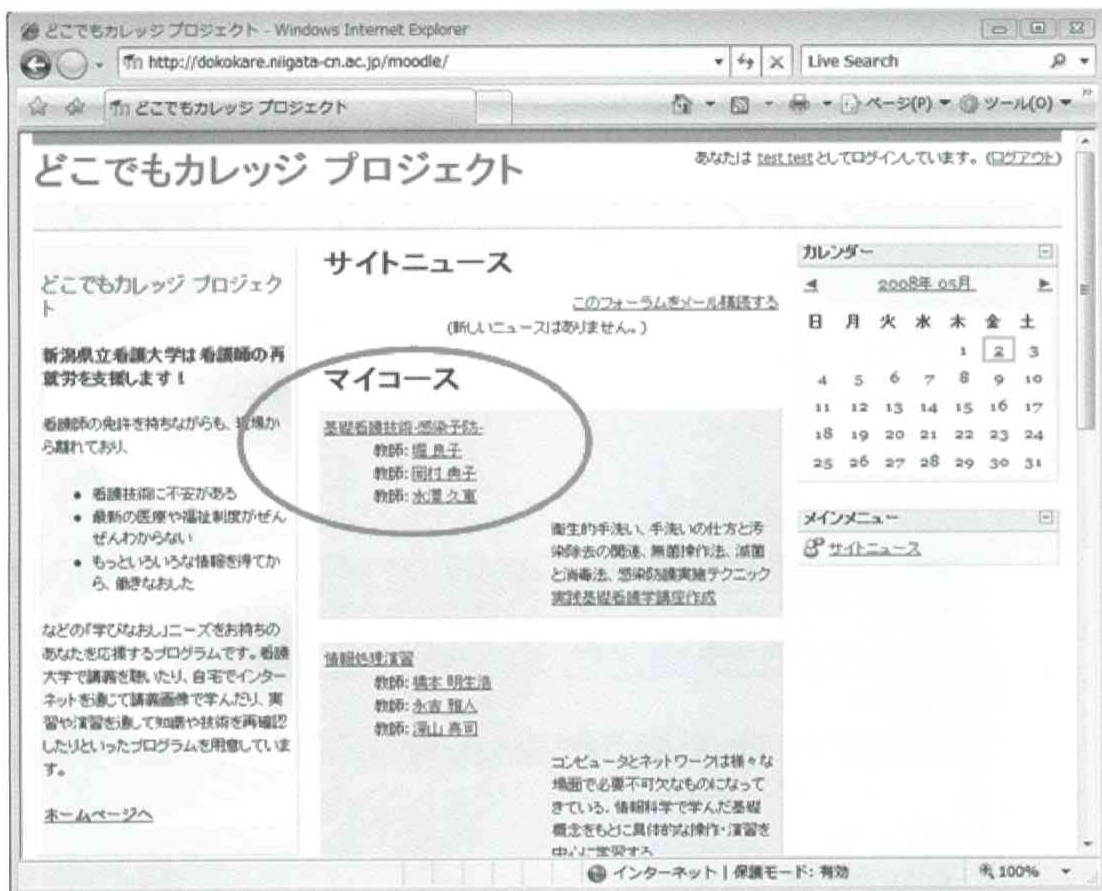


図 44 コース選択完了後におけるログイン後のトップページ

マイコースの確認

4. アップロードの仕方

課題に取り組んでいると、提出物をアップロードするように指示されることがあります。アップロードとは、ここでは、インターネット経由で提出物を出すことだと言えます。アップロードの仕方について、以下手順に沿って説明します。

1. 図 45 のようにアップロードを指示される課題があります。提出するデータを完成させて上で、それをアップロードします。まず、「参照」をクリックしてください。

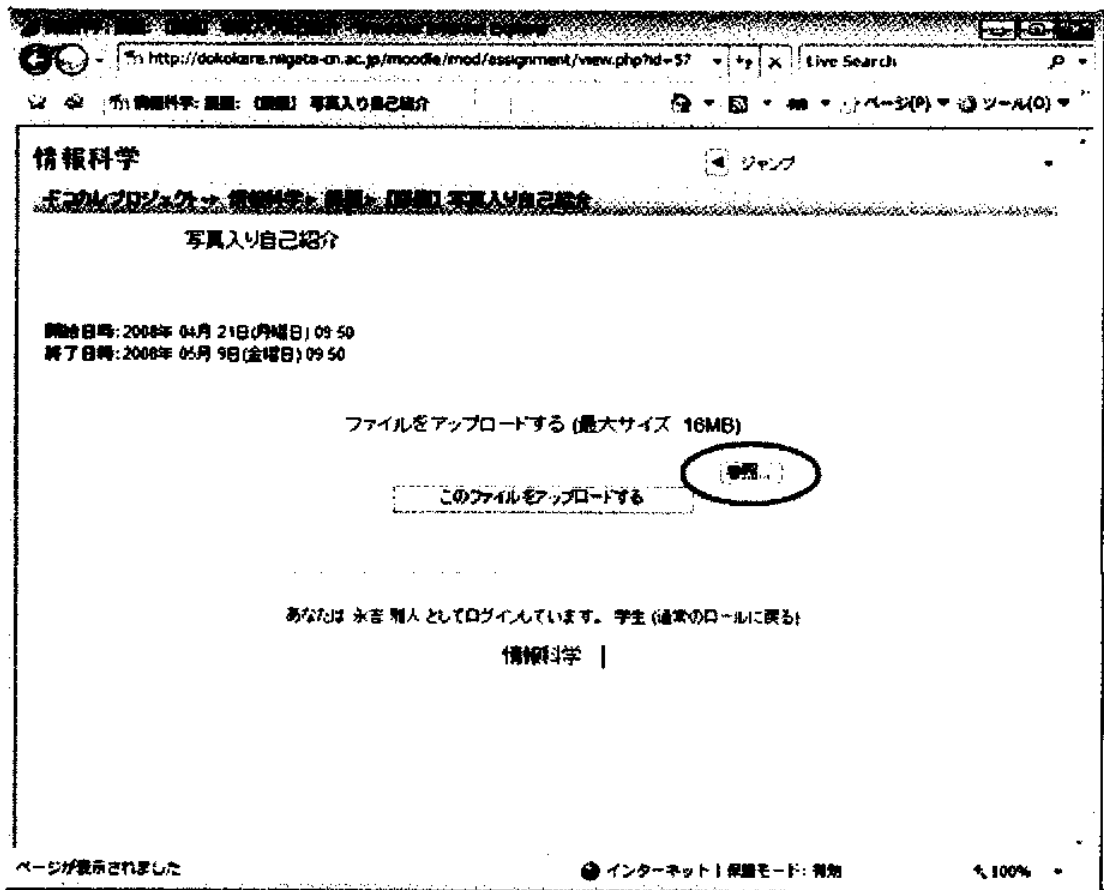


図 45 アップロードが必要な課題例

2. 図 46 のような、ファイルの選択画面に移ります。ここで、完成させた提出物を選択します。提出物が見つからない場合は、提出物を再度起動させて、場所に気をつけて保存してください。図 46 の例では、提出物が「self-introduction.docx」であり、これを 1, 2 の順でクリックします。



図 46 提出物の選択

アップロードするファイルを指定

3. 図 47 のように、参照ボタンの横に提出物の場所が表示されます。そして、「このファイルをアップロードする」をクリックしてください。

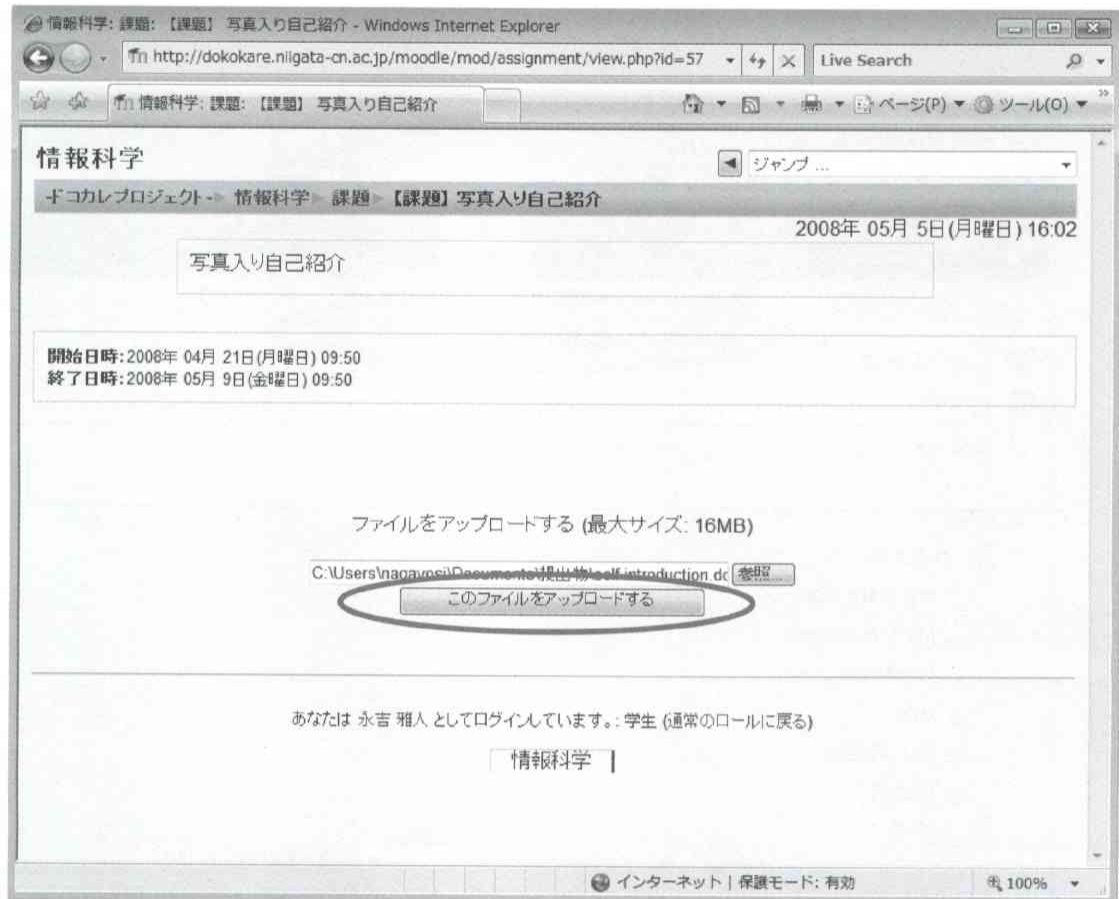


図 47 提出物の場所の確認

4. しばらくすると、図 48 のような画面が表示されます。ここで、アップロードは完了です。確認のため、「続ける」をクリックしてください。



図 48 アップロードの完了

5. 図 49 のように提出物が表示され、アップロードが完全に行われたかを確認できます。ここで、ファイル名の後に×という記号がある場合があります。この場合、アップロード後に削除することができるということを示しています。×がありますが、アップロードは完了しています。

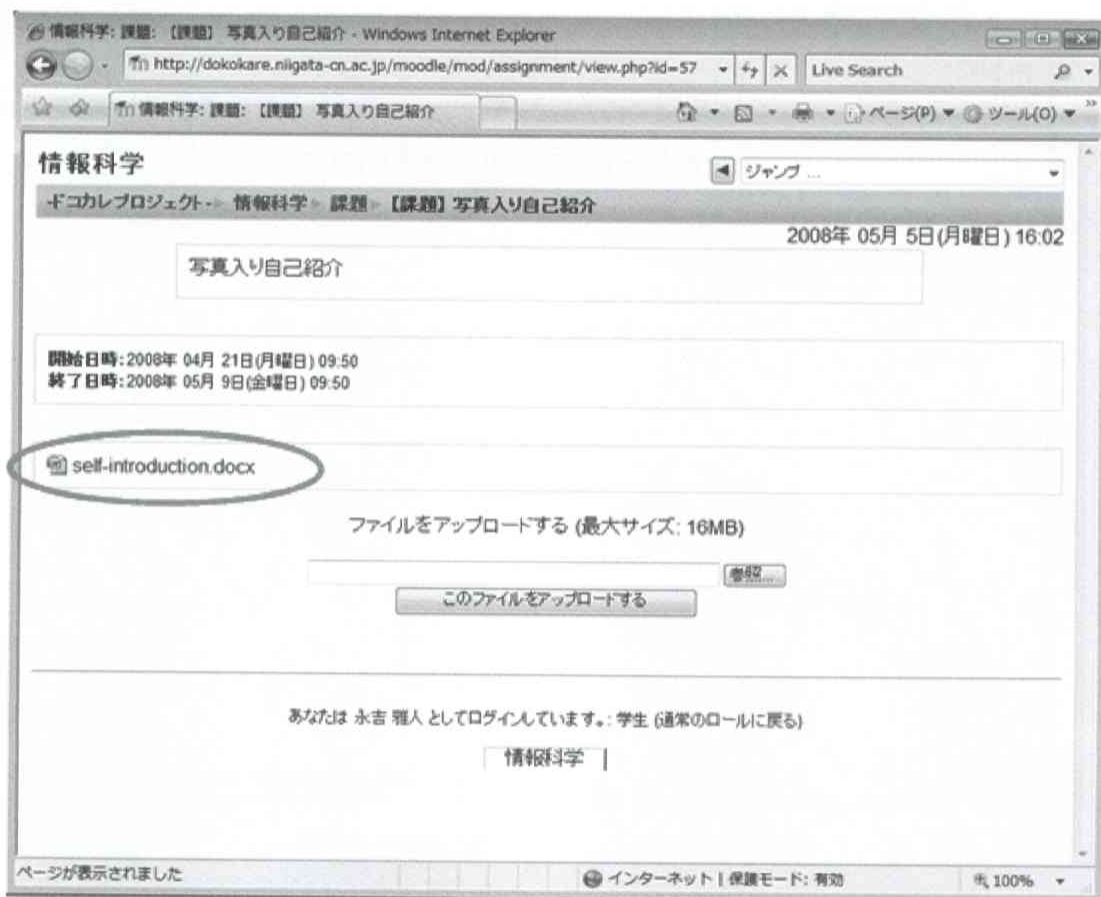


図 49 アップロードの確認

アップロードの確認

5. 小テストの受け方

ドコカレのホームページにおいて、小テストがある場合があります。小テストには、受験期間が通常設定されています。それより前でも後でも、受けられない場合がありますので、ご注意ください。ここでは、不安なく小テストが受けられるように、以下の手順に沿って説明します。

1. 図 50 に示す、「保健統計演習」における小テストを例に説明します。まず、「小テスト」をクリックします。



図 50 小テストの例

2. 図 51 のように、受験期間内であれば、問題を受験するか聞かれます。受験するのであれば、「問題を受験する」をクリックします。

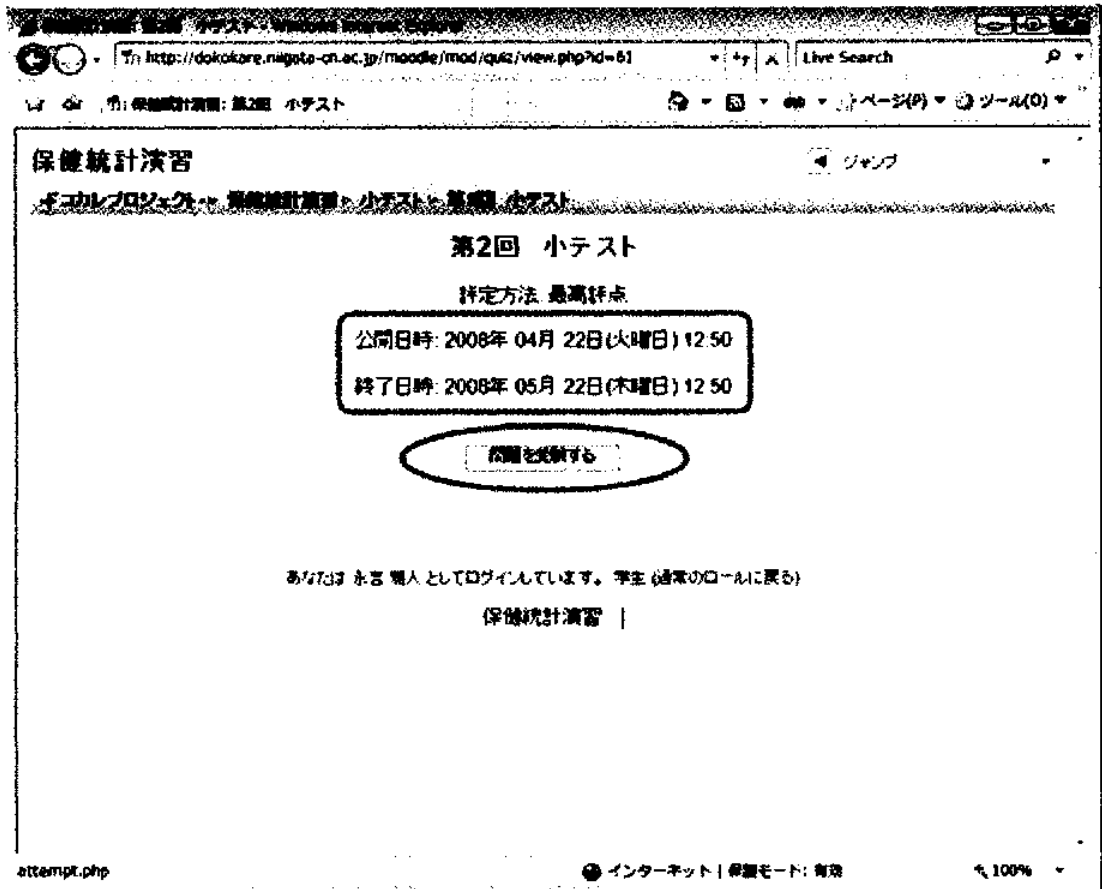


図 51 受験期間の確認と受験確認

小テストの公開期間の確認

3. 小テストが始まります。図 52 の例では、多肢選択問題であることが確認できます。問題形式が異なっても、同じように対応していれば大丈夫です。答えをクリックして、進めていきます。図 52 の例では、一問ずつ答えを送信することができます。もちろん、最終的にすべての答えを一括送信することもできます。

また、時間制限がある場合は、残り時間が画面左肩に表示されます。残り時間で、問題文が読めない場合がありますが、その場合、右袖にあるスライダーで微調整することで読むことができます。

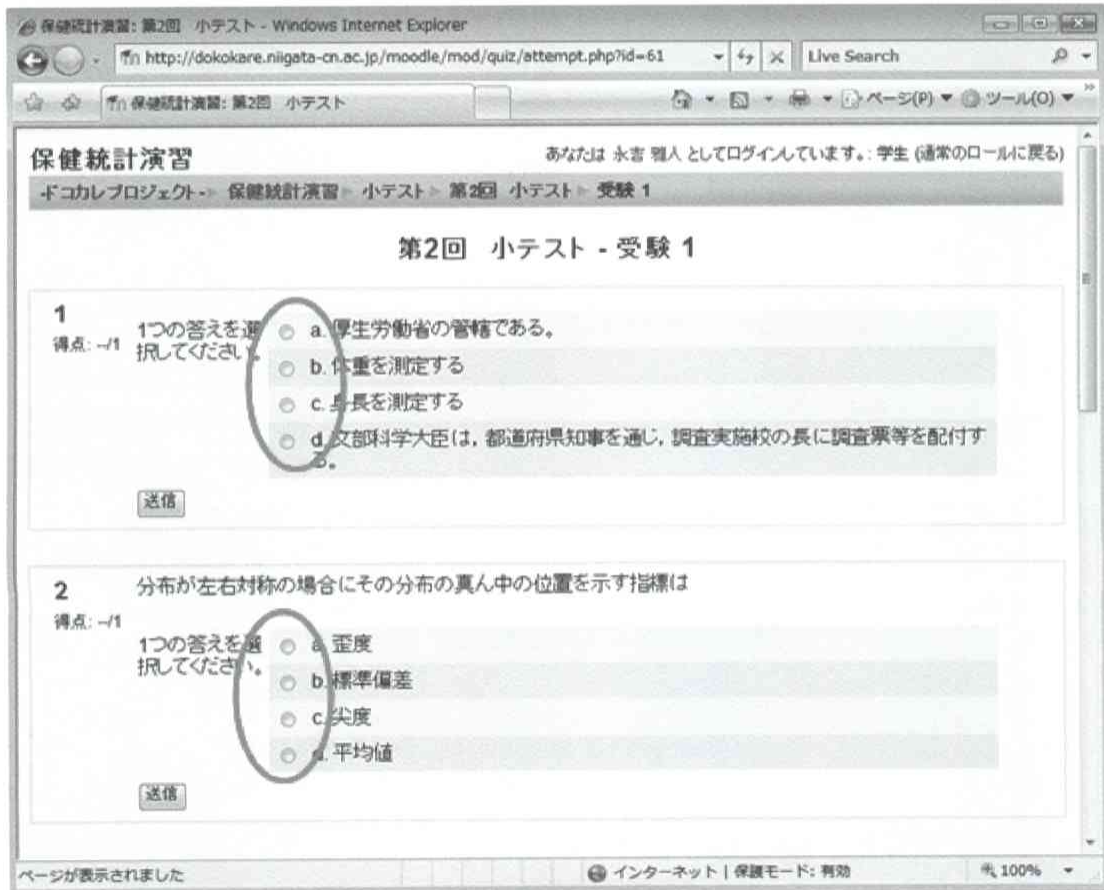


図 52 多肢選択問題の例

4. 答えを送信します。図 53 では、「すべてを送信する」をクリックするところです。他の選択肢として、「送信せずに保存する」、「すべてを送信して終了する」があります。それぞれ、
- (ア) 「送信せずに保存する」では、答えを提出せずに、保存のみ行います。
 - (イ) 「すべてを送信する」では、次の画面で、正解のみチェックされます。この場合は、答え直すことができるように設定されているようです。
 - (ウ) 「すべてを送信して終了する」では、次の画面で、採点がなされます。

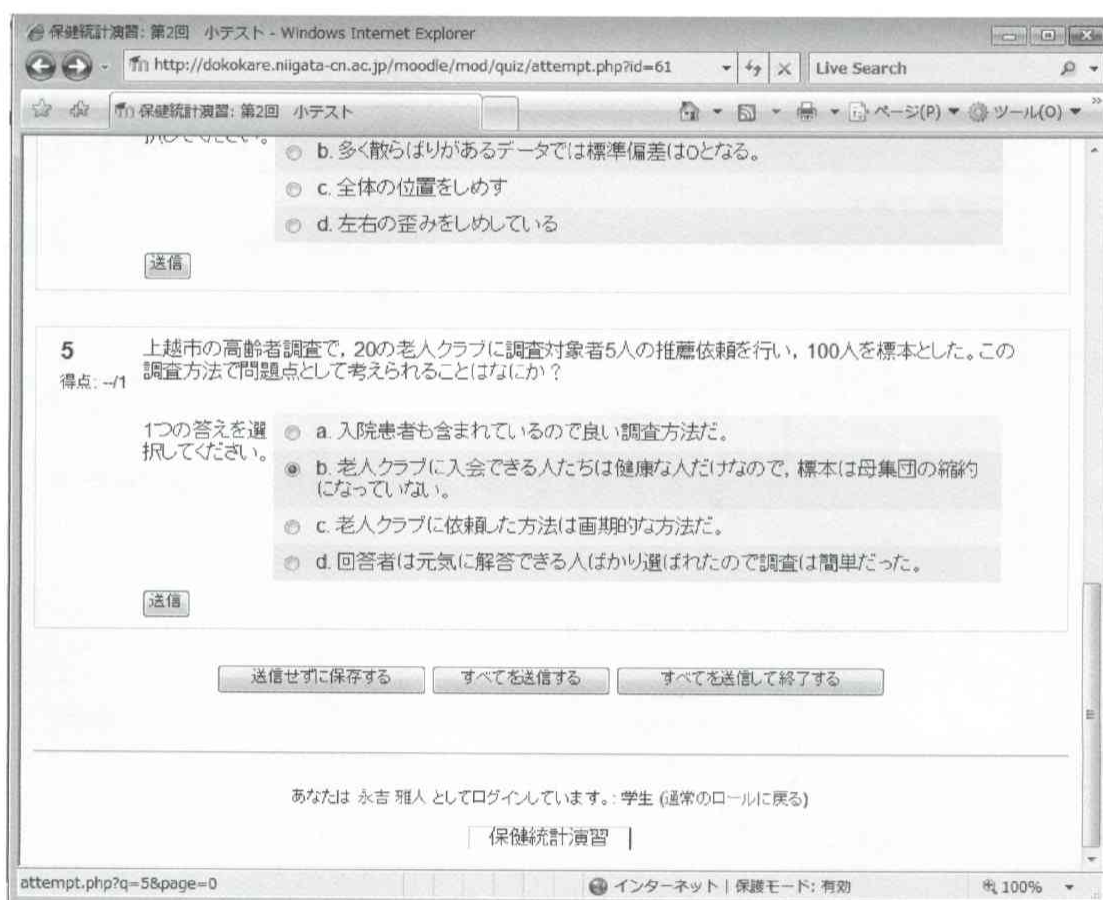


図 53 回答後の送信

答えの送信

5. 図 54 のとおり，すべて正解になったので，「すべてを送信して終了する」をクリックします。なお，すべて正解になるまでする必要はありません。また，このテストは，正解するまで，答え直すことが許されている場合ですが，そうでない場合もあります。ご注意願います。

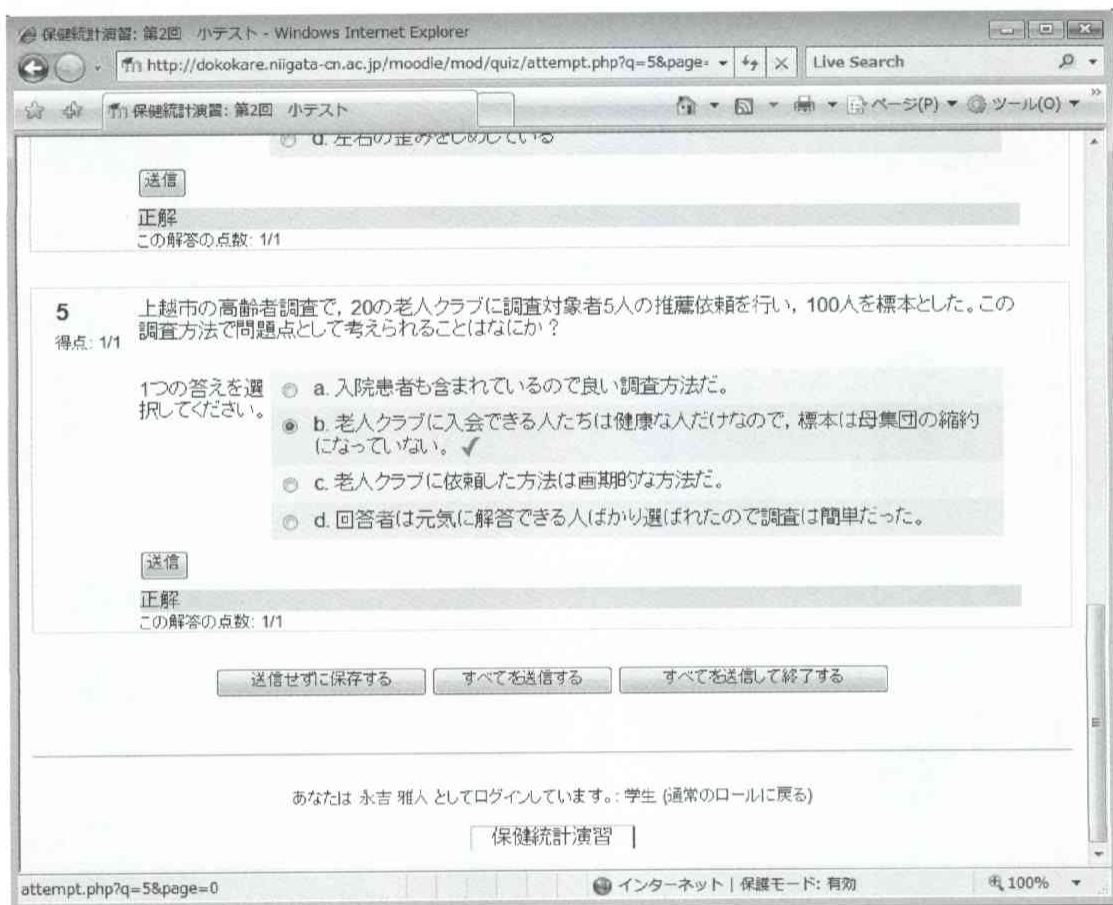


図 54 回答後の送信（最終）

6. 図 55 のように、受験結果が表示されます。それぞれの問題に対しての解説が続きます。

図 55 テストの結果と解説

7. 解説を読み終えれた後、図 56 に示す「レビューを終了する」をクリックします。

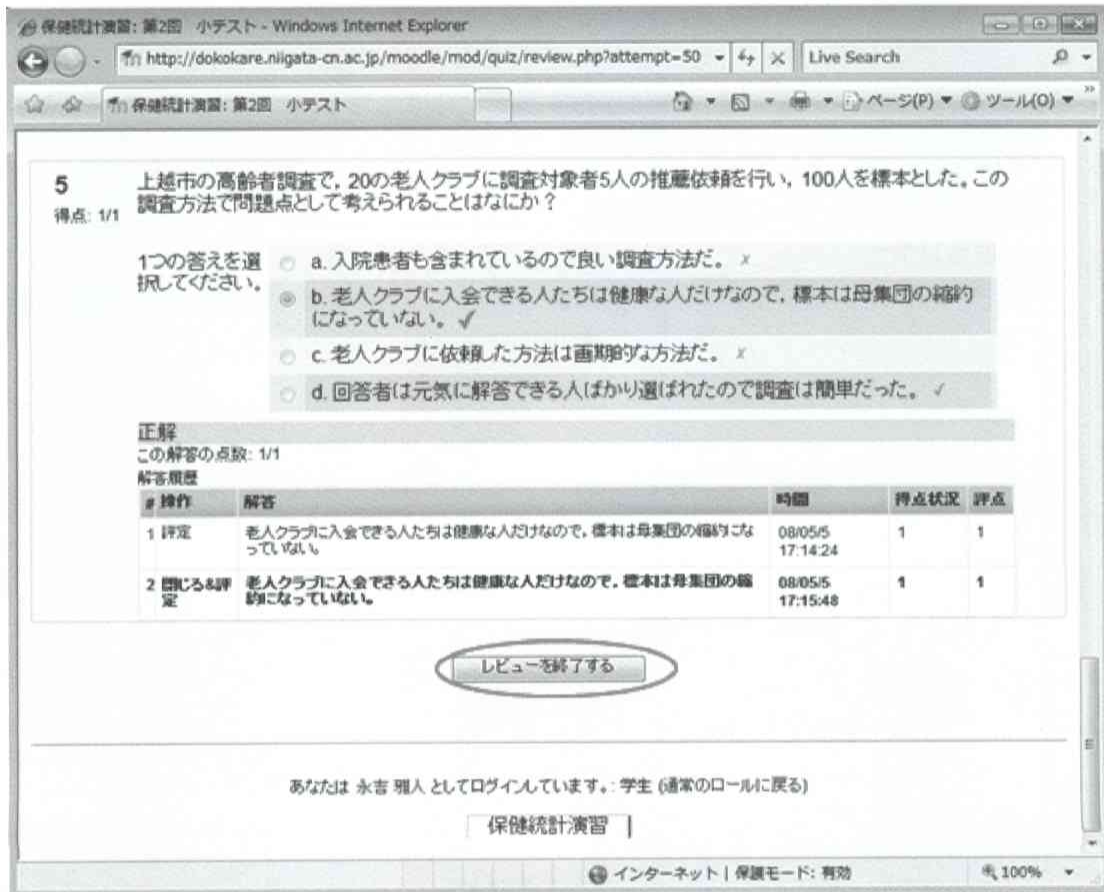


図 56 テスト解説の終了

8. テスト結果の要約が表示されます。図 57 のテストの場合、試験期間内であれば、何度も受験することができる場合があります。その場合、「もう一度受験する」をクリックすれば、再度受験することができます。

保健統計演習: 第2回 小テスト - Windows Internet Explorer

http://dokokare.niigata-cn.ac.jp/moodle/mod/quiz/view.php?id=61

保健統計演習: 第2回 小テスト

保健統計演習

ドコカレプロジェクト > 保健統計演習 > 小テスト > 第2回 小テスト

第2回 小テスト

評価方法: 最高評点

公開日時: 2008年 04月 22日(火曜日) 12:50

終了日時: 2008年 05月 22日(木曜日) 12:50

あなたの 前回受験の要約

受験	完了日時	得点 / 5	評点 / 10	フィードバック
1	2008年 05月 5日(月曜日) 17:15	5	10	OKです,

最高評点: 10 / 10

全体のフィードバック

OKです,

もう一度受験する

ページが表示されました

インターネット | 保護モード: 有効

100%

図 57 テスト結果の要約

6. 評価の確認

提出物やテストは、評価（採点されて）を受けて仮想的に返却（結果を見ることができるようになること）されます。それらの結果をコースごとに、一覧表示することができます。評価の確認のための操作を、以下の手順に沿って説明します。

1. 評価を確認したいコースのトップページに移動します。例として図 58 では、「保健統計演習」をクリックして、このコースのトップページに移動します。

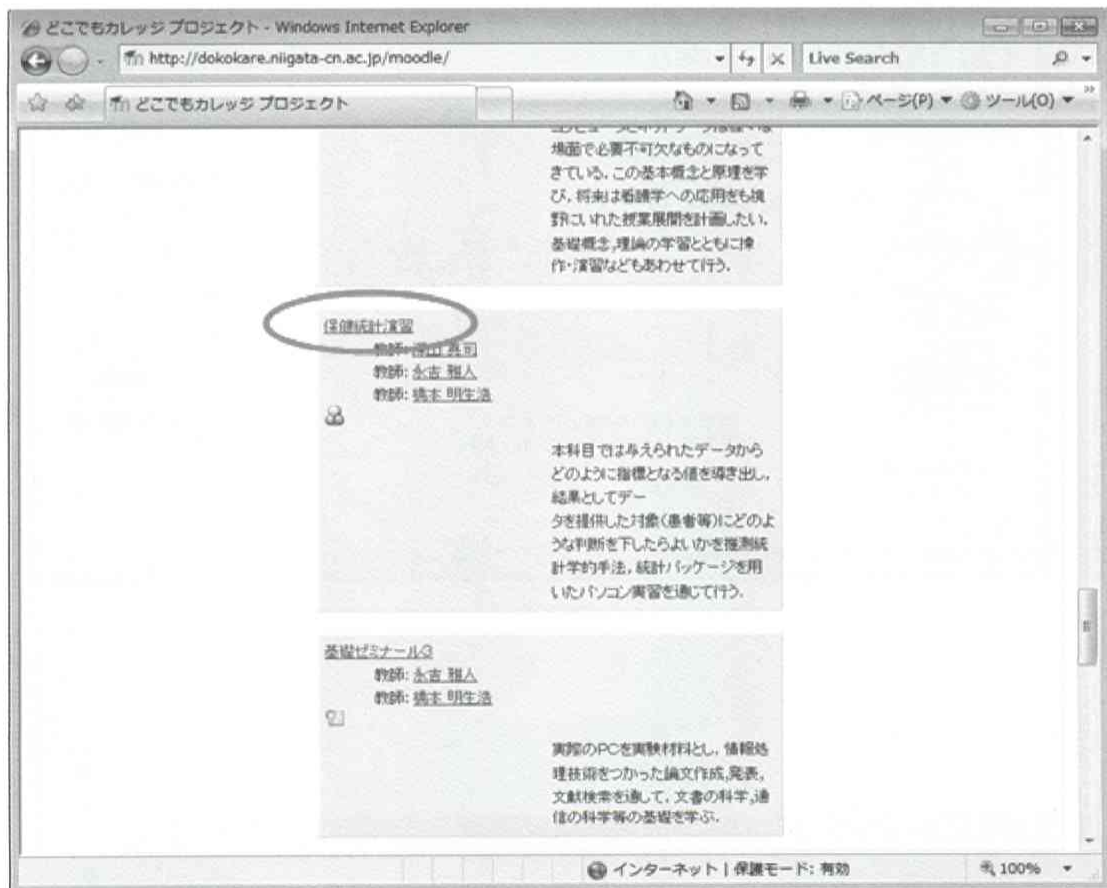


図 58 評価を確認するコースを選択

2. 図 59 に示すように左側の「管理」の中の「評価」をクリックします。

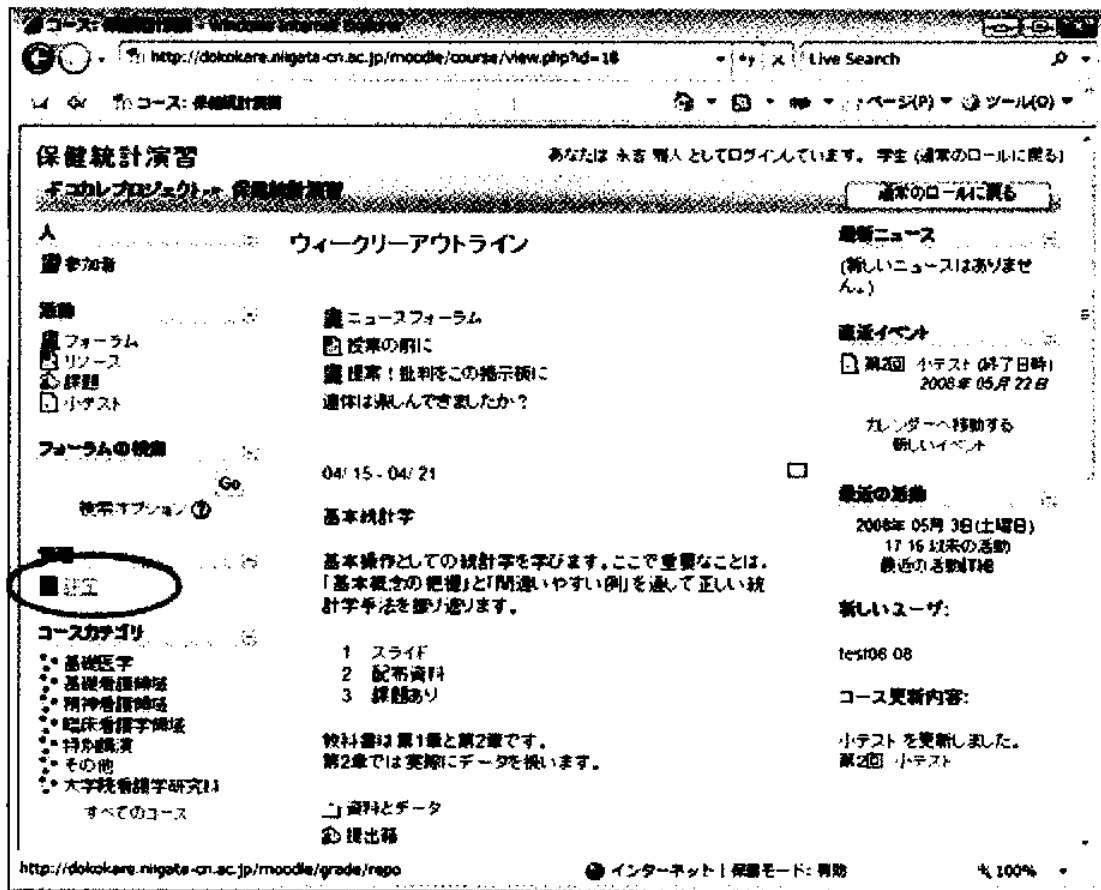


図 59 コースのトップページ. 管理の評価

3. 評価の一覧が確認できます。図 60 では、1つの小テストを受け、10の評点を受けていることが確認できます。

保健統計演習：評価：ユーザレポート - Windows Internet Explorer

http://dokokare.niigata-cn.ac.jp/moodle/grade/report/user/index.php?id=18

保健統計演習：評価：ユーザレポート

保健統計演習：評価

ドコカレプロジェクト > 保健統計演習 > 評価 > レポート > ユーザレポート

表示 ユーザレポート

ユーザレポート - 永吉 雅人

評価項目	カテゴリ	評点	パーセント	フィードバック
提出箱	保健統計演習	-	-	
<input checked="" type="checkbox"/> 第2回 小テスト	保健統計演習	10.00	100.00 %	
コース合計	保健統計演習	100.00	100.00 %	

あなたは 永吉 雅人 としてログインしています。: 学生 (通常のロールに戻る)

保健統計演習 |

ページが表示されました

インターネット | 保護モード: 有効

100%

図 60 評価の一覧

評価の確認

7. サイトニュースとコースのニュース

ニュースとは、その名の通り「お知らせ」です。ニュースの中でも、サイトニュースとコースのニュースに分かれます。

サイトニュースとは、ドコカレのサイト(ドコカレのホームページ全体)自体の「お知らせ」をします。例えば、ドコカレのホームページがメンテナンス等でお休みする時にお知らせする場合があります。

コースのニュースでは、各コースにおける「お知らせ」をします。例えば、選択しているコースがお休みする時や、その教師が出張で不在の時にお知らせする場合があります。

サイトニュースの見方とコースのニュースの見方を、以下の手順に沿って説明します。

1. サイトニュースの見方。簡単です。ドコカレのホームページに行くと、図 61 のとおりトップに表示されています。トップに表示されていることから分かる通り、サイトニュースでは、概してとても大切なことが知らされます。

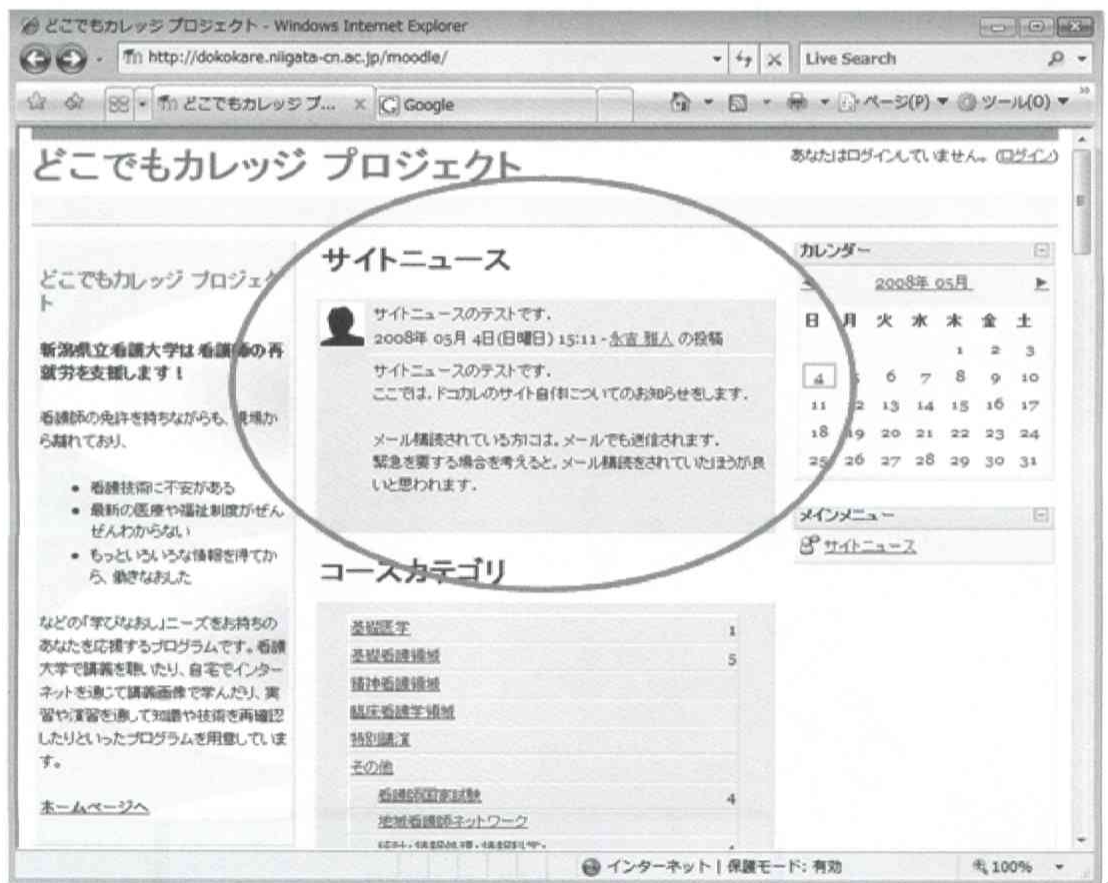


図 61 サイトニュース

2. コースのニュースの見方. まず, 選択したコースを表示させます. 例えば, 図 62 では「情報処理演習」を表示させようとしています. 図 62 のように「情報処理演習」をクリックします.

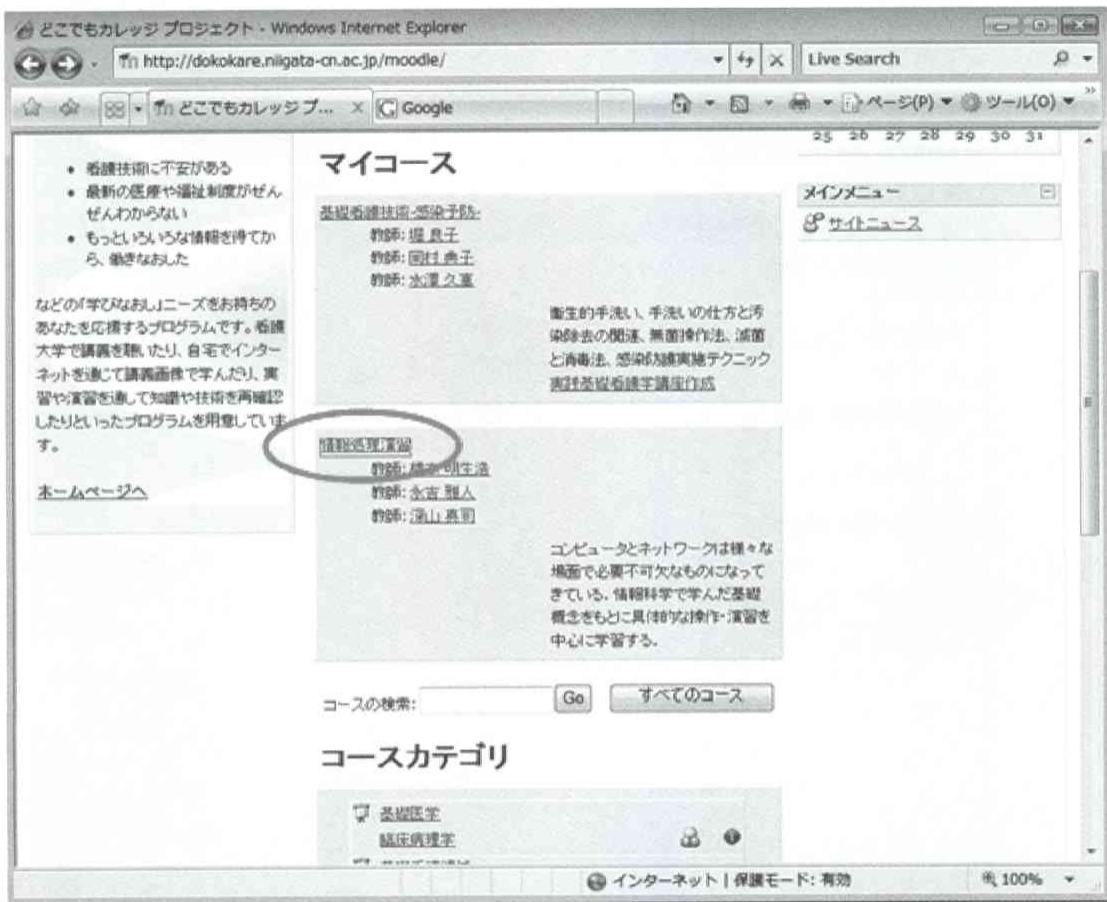


図 62 マイコースから選択したコースを表示

3. コースのトップページに移動します。図 63 にもあるように、ニュースフォーラムが表示されています。「ニュースフォーラム」をクリックします。



図 63 コースのトップページ

4. ニュースの一覧が表示されます。図 64 では、ニュースが 1 つしかありません。ここでは、ニュースのタイトル、ニュースの発信者、それに対する返信の数、等が書かれてあります。ニュースを詳細にみるためには、タイトルをクリックします。



図 64 コースのニュース一覧の例

5. 図 65 のように、ニュースの詳細が表示されます。



図 65 コースのニュースの具体例

6. ここから、移動するためには、図 66 に示す赤い枠内のページのタイトルをクリックします。例えば、ドコカレのトップページに移動するためには、「ドコカレプロジェクト」をクリックします。

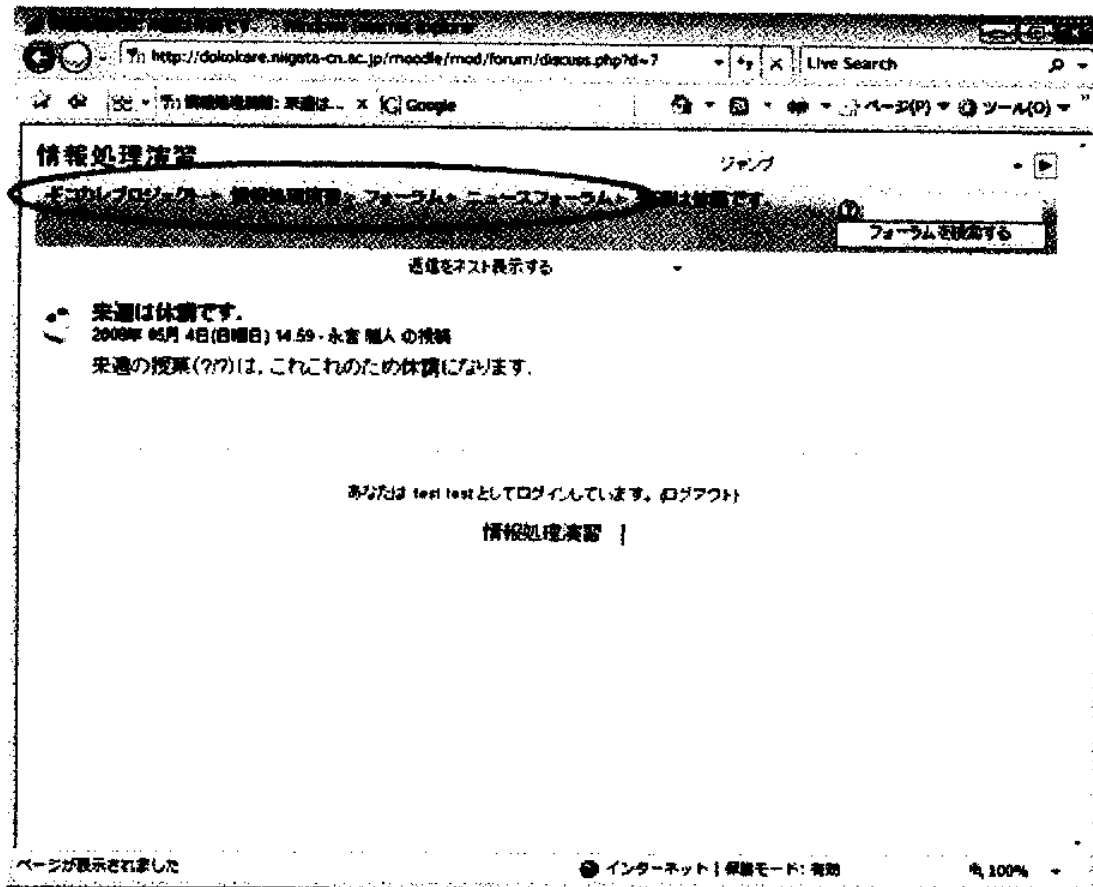


図 66 ドコカレサイト内の移動の仕方

8. 掲示板

掲示板とは、気になる話題について情報交換を行う所です。例えば、授業内容について分かりにくいところがあれば、「どういう意味なの？」ということや、直接教師に聞くのではなく、他のメイトや学生と一緒に考えることができる場所です。ただし、すべてのコースにおいて掲示板が用意されているわけではありません。掲示板のあるコースのみ、利用できることとなります。

掲示板の使い方を、以下の手順に沿って説明します。

1. 掲示板を利用したいコースのトップページに移動します。図 67 では、「情報処理演習」をクリックして、このコースのトップページに移動します。



図 67 マイコースから掲示板を利用したいコースを選択

2. 図 68 に示すトップページにある、「..... 掲示板」をクリックします。「情報処理演習」のコースでは、掲示板に「授業内容について気軽に書き込む掲示板」という名前が付けられていることが確認できます。

異なる方法として、次に示す方法があります。コースによって、掲示板のある場所が分かりにくい場合があります。両方の方法を知っておいてください。



図 68 コースのトップ画面。掲示板へ移動

異なる方法として、図 69 に示す「活動」の中の「フォーラム」をクリックします。

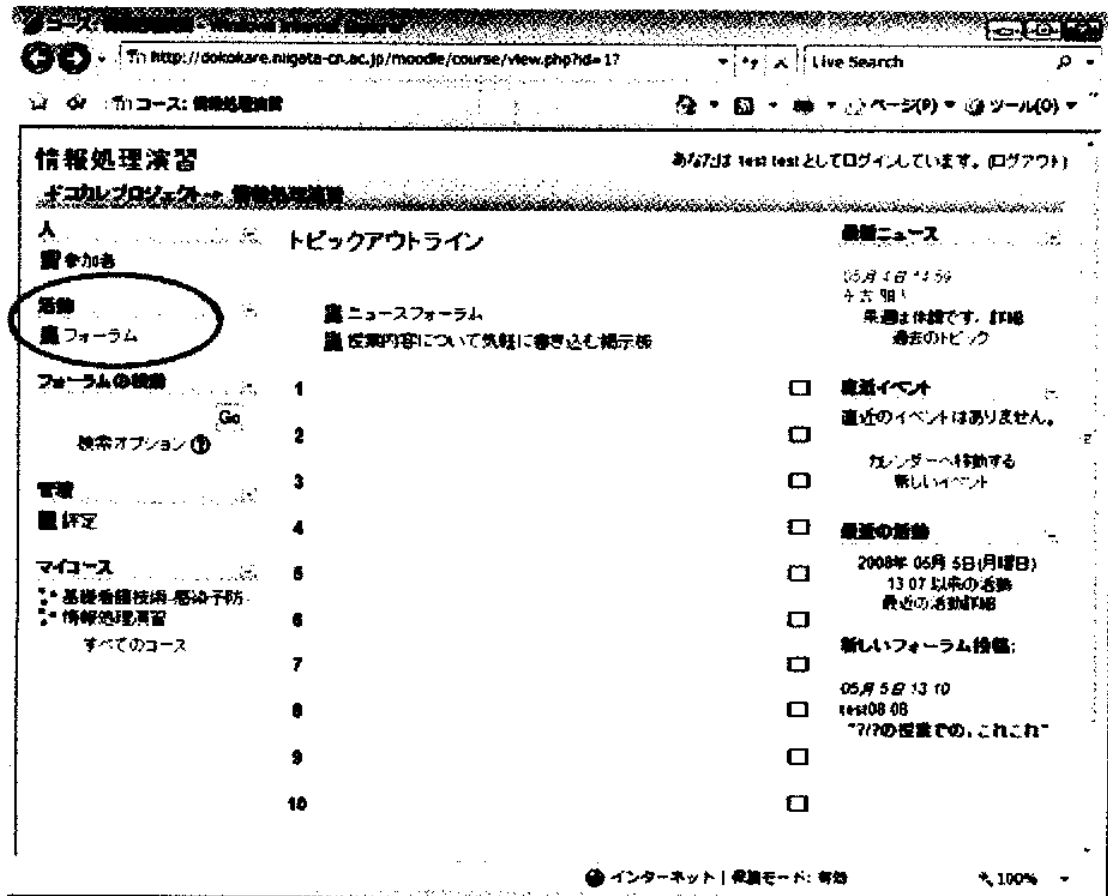


図 69 コースのトップ画面。掲示板に移動 2

次に、図 70 に示す「..... 掲示板」をクリックします。コースごとに、掲示板の名前が異なります。注意してください。

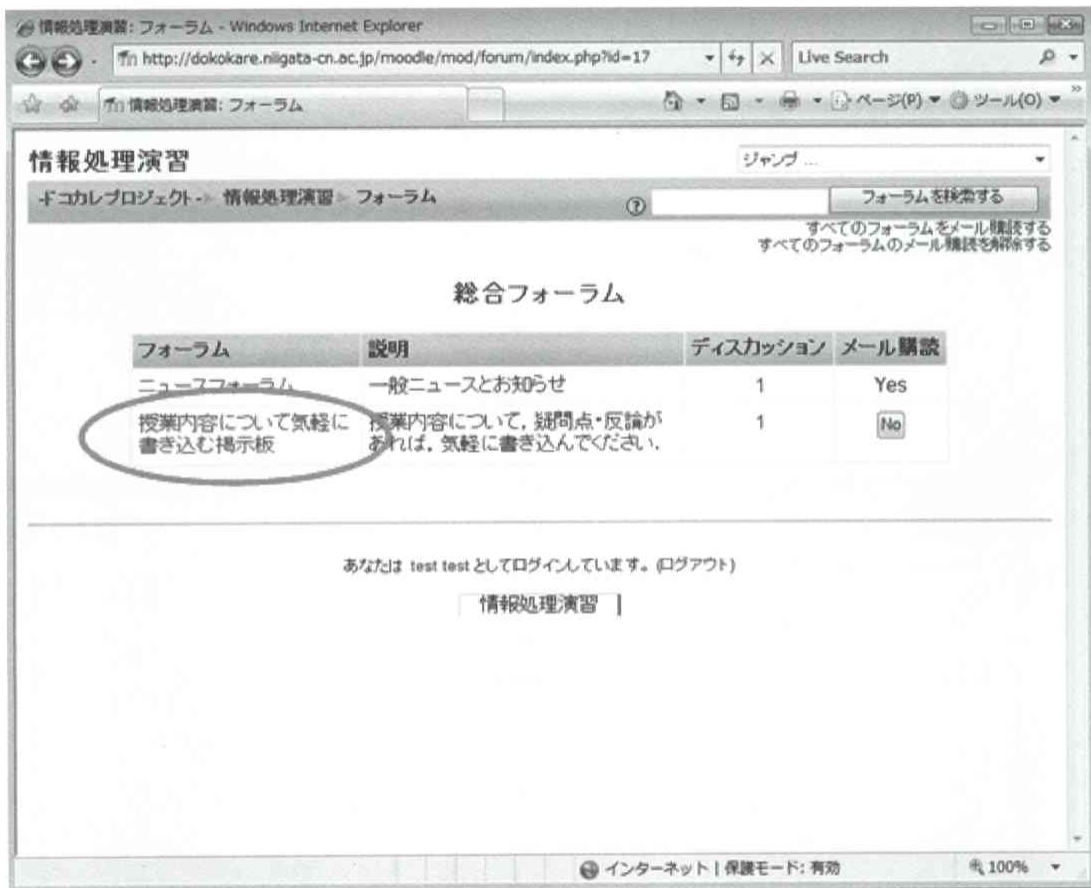


図 70 コース内の総合フォーラムの画面

3. 掲示板のディスカッショントピック（話題）一覧画面に移ります。この中から、詳細を閲覧したいトピックのタイトルをクリックします。図 71 では、1つしかトピックがないことが確認できます。

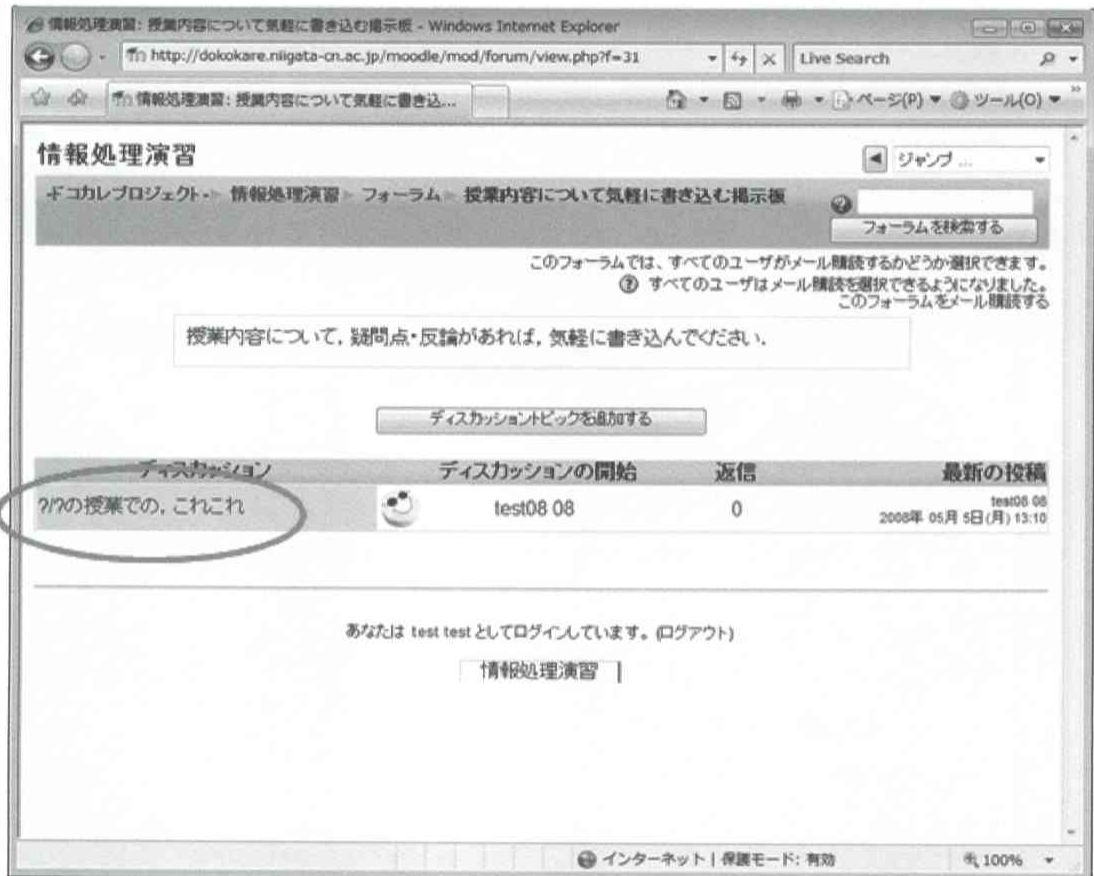


図 71 掲示板のディスカッショントピック一覧画面

4. すると、図 72 のように、詳細が閲覧できます。

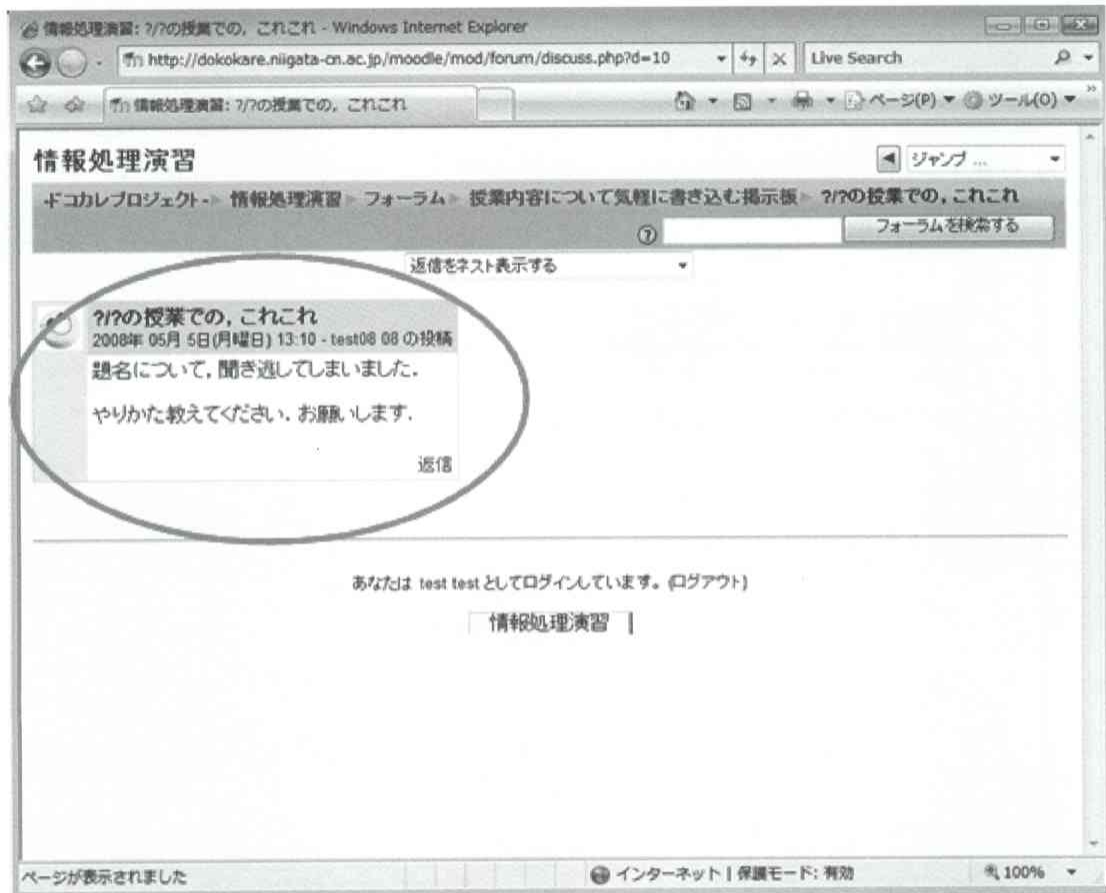


図 72 トピックの詳細

5. 次に、このトピックの内容に返信をする方法について説明します。図 73 のようにトピックの詳細を表示した上で、「返信」をクリックします。

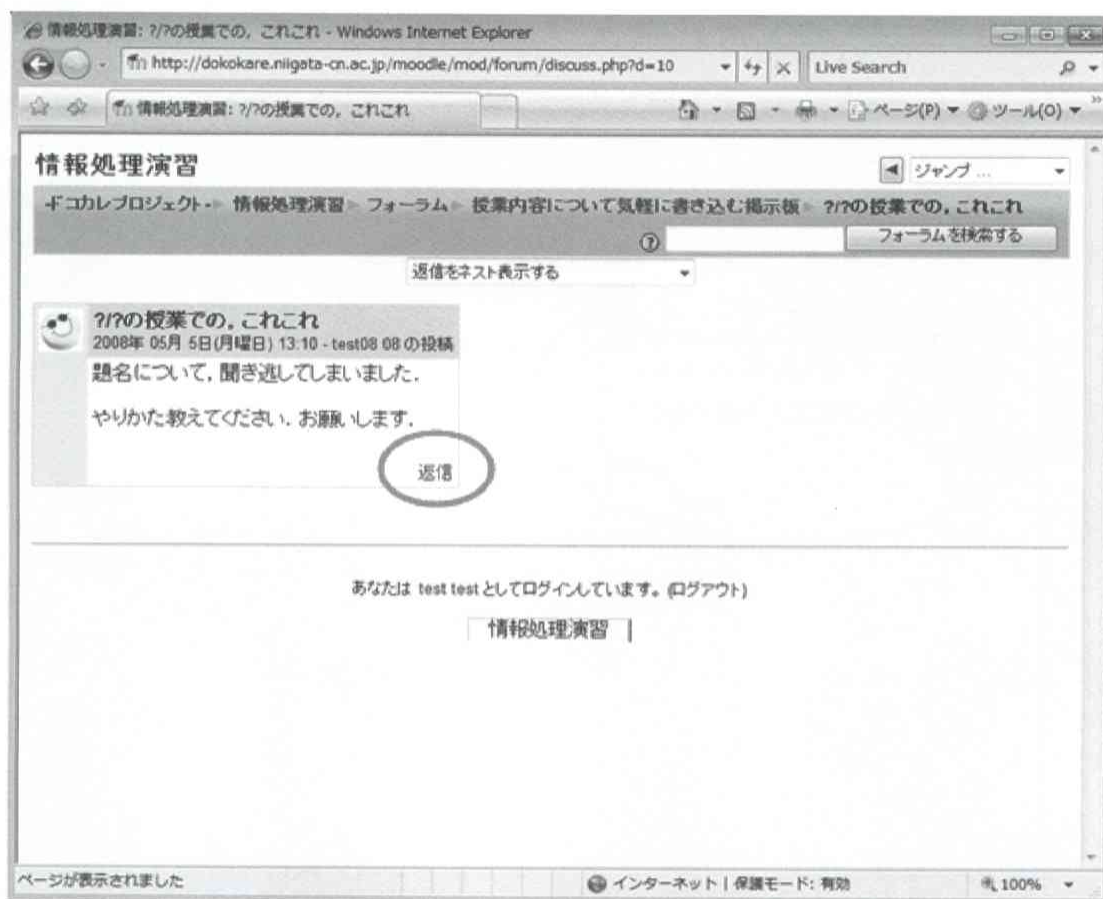


図 73 トピックへの返信

6. 返信する内容の編集画面に移りました. 図 74 のように, メッセージ欄に返信したい内容を記入してください. 編集が終わりましたら, 画面を下にスライドさせてください.

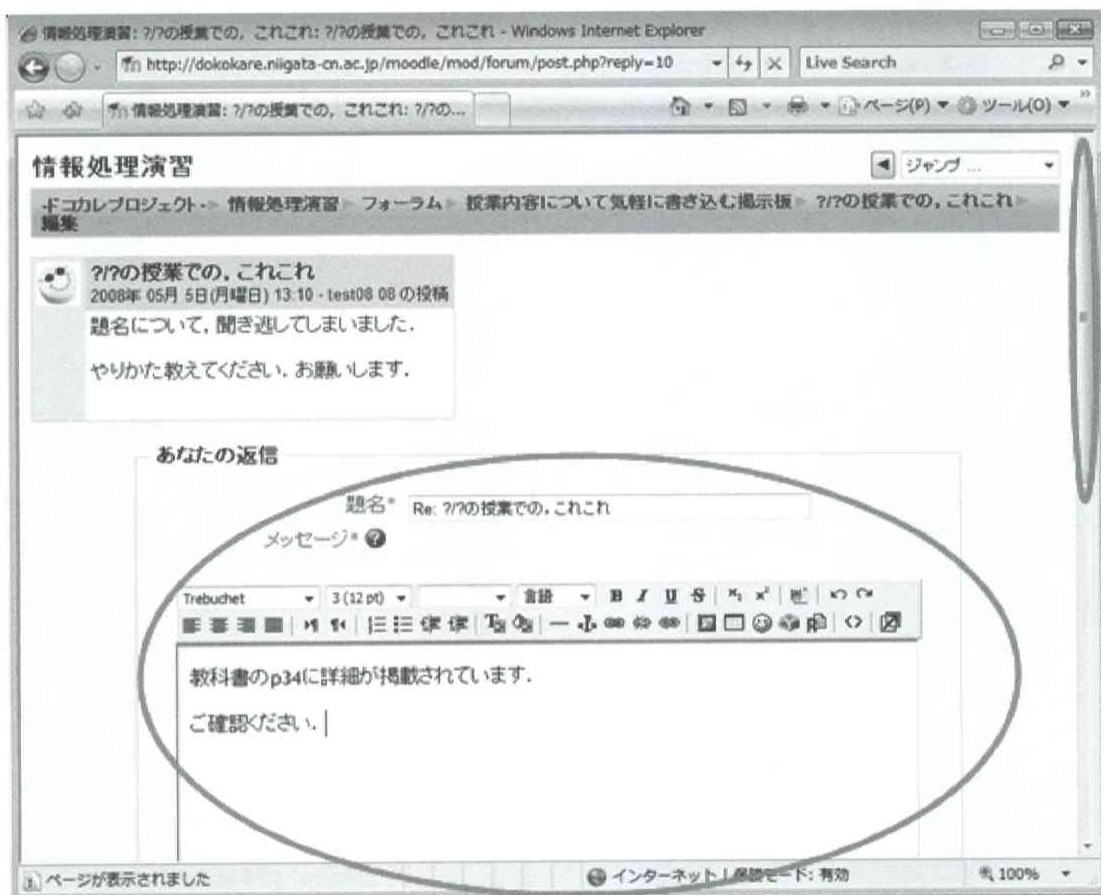


図 74 トピックへの返信内容の編集

返信内容の編集

7. 次に、図 75 のように、メール購読をするか否か決めます。「メール購読する」を選択すると、このコースに登録している利用者にメールで内容を知らせることができます。通常は、「メール購読する」を選択して問題ないでしょう。

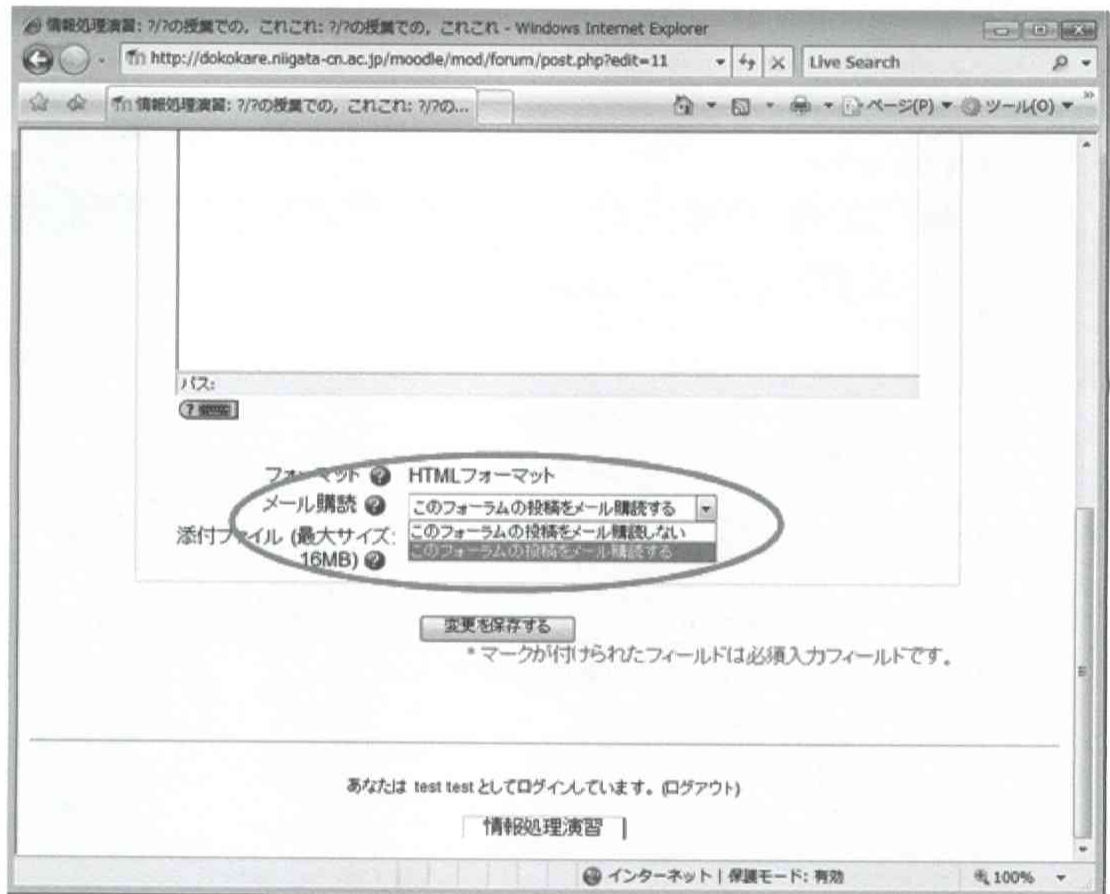


図 75 トピックの返信内容についてのメール購読

メール購読有無の選択

8. 最後に、図 76 に示す「フォーラムに投稿する」をクリックします。



図 76 トピックについての返信内容の投稿

9. 返信内容を確認します。再度編集を行いたい場合は、図 77 に示す、「編集」をクリックします。なお、投稿後 30 分まで編集ができます。「メール購読する」を選択している場合、30 分経過すると同時に、メールで内容が送信されます。

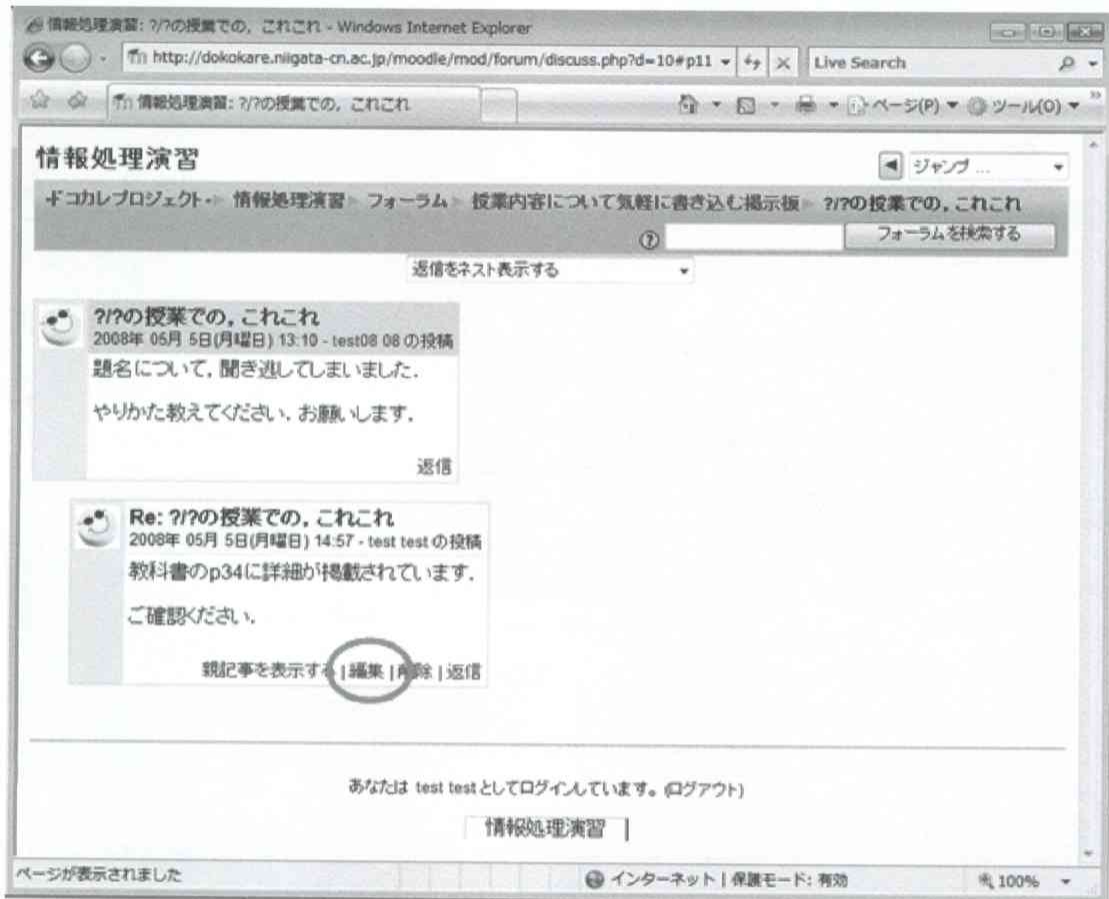


図 77 トピックについての返信内容の確認

10. また、手順3のディスカッショントピックの一覧画面を表示すると、新たにディスカッショントピックを作成することができます。図78に示す「ディスカッショントピックを追加する」をクリックしてください。



図 78 ディスカッショントピック一覧画面. ディスカッショントピックを追加

11. 図 79 に示す追加したトピックの「題名」を記入します。それ以降は、手順 6 以降と同様です。

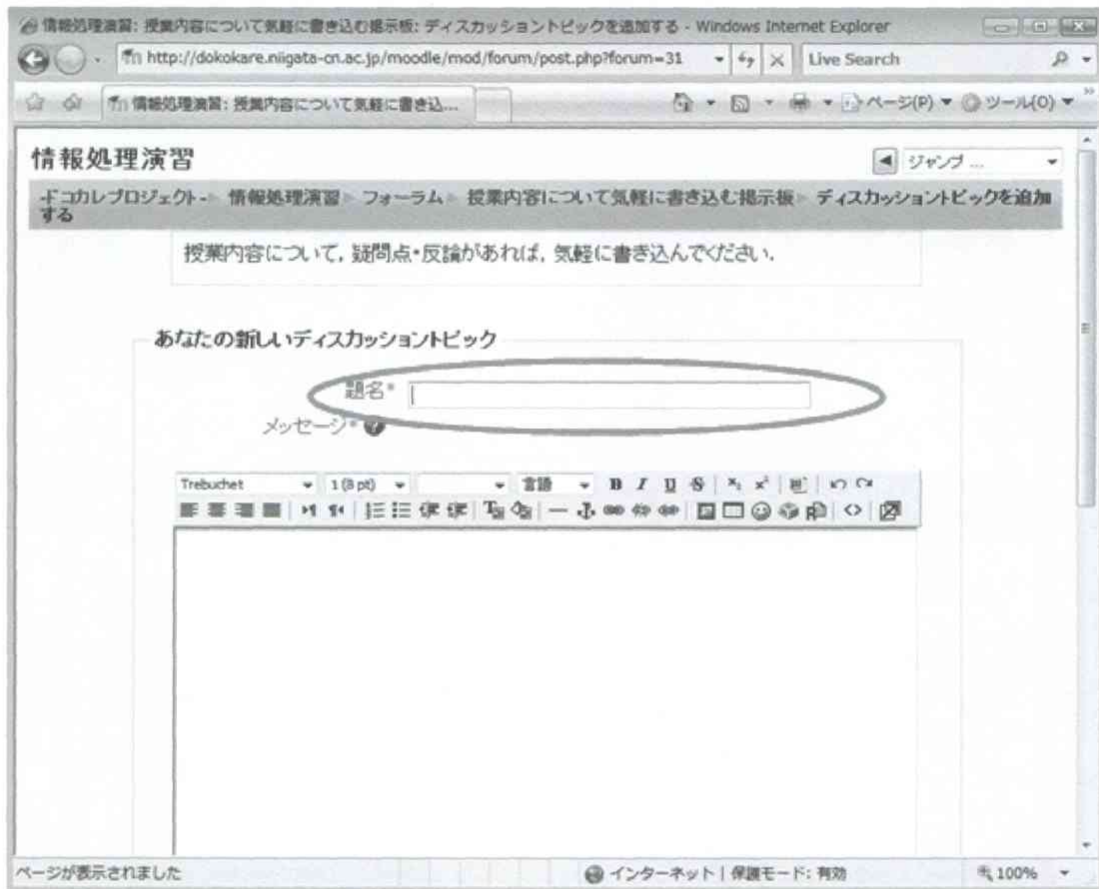


図 79 新しいディスカッショントピックの記入

ディスカッショントピックの題名を記入

編集後記

「いつでも夢を」

看護師のキャリアデザインがイメージしにくいのは、その職業がよく認知されている割には、いっこうに新しいヒーロー（ヒロイン）を身近に持つことができない職種であることにあります。もうその活躍した時代から 150 年余を経ているにもかかわらず、未だ「ナイチンゲール」なのです。

流行作家となった海堂尊がその出世第 2 作に「ナイチンゲールの沈黙」を書いて、殺人者となる天使のような歌姫看護師を登場させましたが、これらの登場人物は典型的なエンターテインメントの世界の話に留まっています。現れよ、新しい時代のヒロイン看護師よ、です。

昨年、メイトさん達が自己学習の効果を高めるためには「もっと自由に！」という観点から、逆説的な「学習棄却」(unlearning)が必須ということに触れました。人は、組織に帰属した行為とその成果との間にギャップがあった場合には、既存の知識を疑い、これを捨てて、新たな知識を獲得する必要があることを忘れてはならない、ということを書いたのです。

そして看護師の最も苦手とし、陥りやすい学習上の欠陥のもうひとつは、自己改革性の欠落であろう、と推定されています。なぜなら、臨床現場の豊富な経験値の蓄積が、ワンパターンの手技の安定性を増して現象の理解のしやすさを支持する反面、認識を根源から更新するための思考を停止させている可能性があるのです。これが我が国の社会に根強く残る「日本的集団主義」には極めてフィットした生き方であるため、いつのまにか自分の言葉と生き方を喪っていくのです。看護界の中にこのような「集団主義」の権化のような方がおられ、「看護師にもキャリアデザインを」等と言うとすれば、何をかいわんや、です。

では、どうしたら自己実現のための新たな「キャリアデザイン」を獲得することができるのでしょうか？人生に王道なし、と言いますが、これには、中立的で豊富な「オープン／バーチャル」な学習環境に身をおいて、徐々に自分のブラッシュ・アップを図るしか方法がない、と私達は思います。

私達のプロジェクトは、その意味でいつでも「いつでも夢を」を持つ人の良きパートナーとなりうるのではないかと考えております。

「ドコカレ」プロジェクト
編集担当者一同

付録

執筆者（順不同）：岡村典子，橋本明浩，永吉雅人，吉山直樹，
岡沢栄子，木村恵美子，深山真司

付録 A ドコカレ通信録

ドコカレプロジェクトの内容をメイトさん達にお伝えするため、「ドコカレ通信」の発行を始めました。内容として、「公開講座の情報」、「メイトさんの参加状況」、「大学食堂の紹介」など、多岐にわたる話題を提供し、メイトさんの動機づけをはかるよう工夫しました。

編集委員は、ドコカレ事務員の木村さん、岡沢さん、そして大学教員の吉山先生、岡村が担当しました。

2008年9月に第一号、2008年10月に第二号、第三号は2008年11月に作成し、メイトさんに郵送しています。

こうした通信が、メイトさんに情報を提供するだけの用紙ではなく、個人で取り組んでいる不安を払拭する一助となることを期待し、今後も継続していく予定です。

次頁より、通信第一号から第三号までを添付します。

第1号 2008/09/
ドコカレ通信

定期的にプロジェクトの内容を皆さまにお伝えするため、「ドコカレ通信」を発行することにしました。プロジェクト充実に向け、委員一同がんばっていきます！！（プロジェクトメンバー同）

今月の公開講座情報

9月20日（土）
「看護師の臨床の『知』と、看護師が経験を積むことの意味」
東京女子医大 教授 佐藤紀子氏
9月25日～26日（木金）
「看護情報処理セミナー」
新潟県立看護大学 准教授 橋本明浩氏

メイトさん参加状況

現在、メイトさんは
メイトA：2名・メイトB：21名
（市内：9名・市外：14名）

来月の公開講座予定

来月の公開講座予定
10月4日（土）
「感染制御に関する新しい動き」
東京医療保健大学 教授 大久保 憲氏

近況報告

バーチャルカレッジ(9/12現在)

臨床病理学（ビデオ+PDF 資料）
ドコカレ操作入門（PDF 資料）
医療情報システム（ビデオ+ PDF 資料）
医療安全セミナー（PDF 資料）
看護と栄養管理（近日公開予定）

お知らせ

メイトさんに WEB カメラの貸し出しをしています。必要な方はお申し出下さい。



大学学生食堂はどなたでもご利用できます。

大学教員のコメント

8月30日の「看護と栄養管理～高齢者への栄養ケア～」(講師：梶井文子先生)、内容がとても充実し、好評でした。ご参加の方から活発な質疑がありました。吉山

事務員のコメント

事務員は交流センターに1名・事務局に1名、8時半から16時までいます。土日祝はお休みです。木村

第2号 2008/10/
ドコカレ通信

定期的にプロジェクトの内容を皆さまにお伝えするため、「ドコカレ通信」を発行することにしました。プロジェクト充実に向け、委員一同がんばっていきます！！（プロジェクトメンバー一同）

今月の公開講座情報

10月2日～3日（木金）
「看護情報処理セミナー」
新潟県立看護大学 准教授 橋本明浩氏
10月4日（土）
「感染制御に関する新しい動き」
東京医療保健大学 教授 大久保 憲氏
～大好評に終わりました～

☆オープンカレッジ始まりました。
臨床病理学・老年看護学・基礎看護学
・成人看護学の公開授業です。

来月の公開講座予定

来月の公開講座予定

11月29日（土）
「看護と口腔ケア」
九州歯科大学 教授 柿木 保明
11月30日（日）
「高齢者の口腔ケア」
新潟県立看護大学 准教授 原 等子



お願い

- ◎ 臨床病理学・老年看護学・基礎看護学・成人看護学の授業を受講する場合、受講前に1階交流センターに寄り、出席票と名札をお持ちください。授業が終わりましたら、交流センターに返却をお願いします。事務員が不在の場合、ドアポストをご利用ください。
- ◎ アンケートのご返送をお願いいたします。
- ◎ 教科書についてですが、各授業によって違います。別紙をご覧ください。

近況報告

高田花ロードに本学の学生が出品しました。校章をあらわしています。



11月8日は大学祭の桜蓮祭が行われます。毎年、子供から年配の方までが見にいらっしやいます。

大学教員のコメント

皆さん、こんにちは。
ドコカレ通信を木村さん、岡沢さんと一緒に作成している岡村です。基礎看護技術を担当していますので、オープンカレッジで皆さまとお会いするかもしれません。ご参加お待ちしております♪ 岡村

事務員のコメント

公開講座の際に行われるオリエンテーションで、数分ですがメイトさんにお会いできることを楽しみにしております。岡沢

第3号 2008/11/
ドコカレ通信

11月になり、今年も残すところあと二ヶ月です!! よい年越しを迎えられるよう、インフルエンザ、ノロウイルスに気をつけて健康を維持しましょう♪♪ (プロジェクトメンバー同)

今月の公開講座情報

- 11月29日(土)
「看護と口腔ケア」
九州歯科大学 教授 柿木 保明
- 11月30日(日)
「高齢者の口腔ケア」演習
新潟県立看護大学 准教授 原 等子

☆公開講座のみなさまのご参加
お待ちしております。

来月の公開講座予定

来月の特別講演予定

- 12月16日(火)
「アメリカの医療現場から
概観した日本の看護」
米国・小児循環器専門医 津田
本学学生の成人看護学授業の一貫です。
メイトさんのご参加お待ちしております。



お知らせ

- ☆オープンカレッジ始まっています。
随時受講可能です。
臨床病理学・老年看護学
基礎看護学・成人看護学の公開授業です。
参加されているメイトさんから…

メイトの参加人数
が少なく、さみ
しいなあ・・・

☆ご都合のつくかたは、大学の授業に
是非参加してみてください♪

近況報告

11月8日は大学祭の桜蓮祭が行われました。
大盛況のうち終わりました。

大学教員のコメント

新潟県の看護教育の大学化は全国の中では随分遅く始まったのですが、今や4大学あり近県の中では数が多い県となっています。皆様の生涯学習ニーズをどんどん大学にお寄せいただき、大学を刺激して学生だけでなく活用できる大学にしようではありませんか。 堀 良子

事務員のコメント

今月で公開講座は一段落します。来月のドコカレ通信が届く頃には雪が降っているかもしれませんね。お足もとはご注意ください。木村

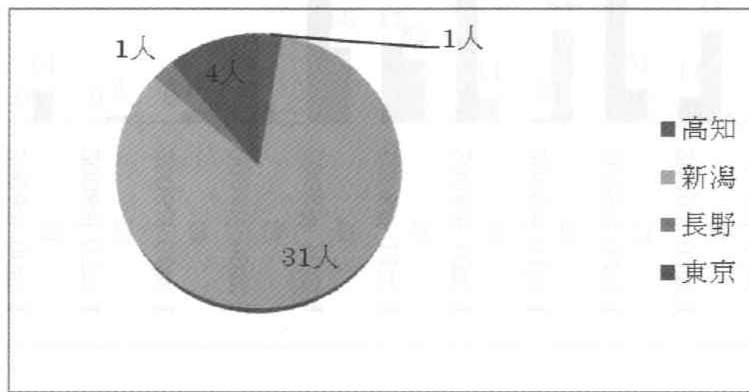
付録 B バーチャルカレッジの稼働集計報告

平成 21 年 3 月 25 日

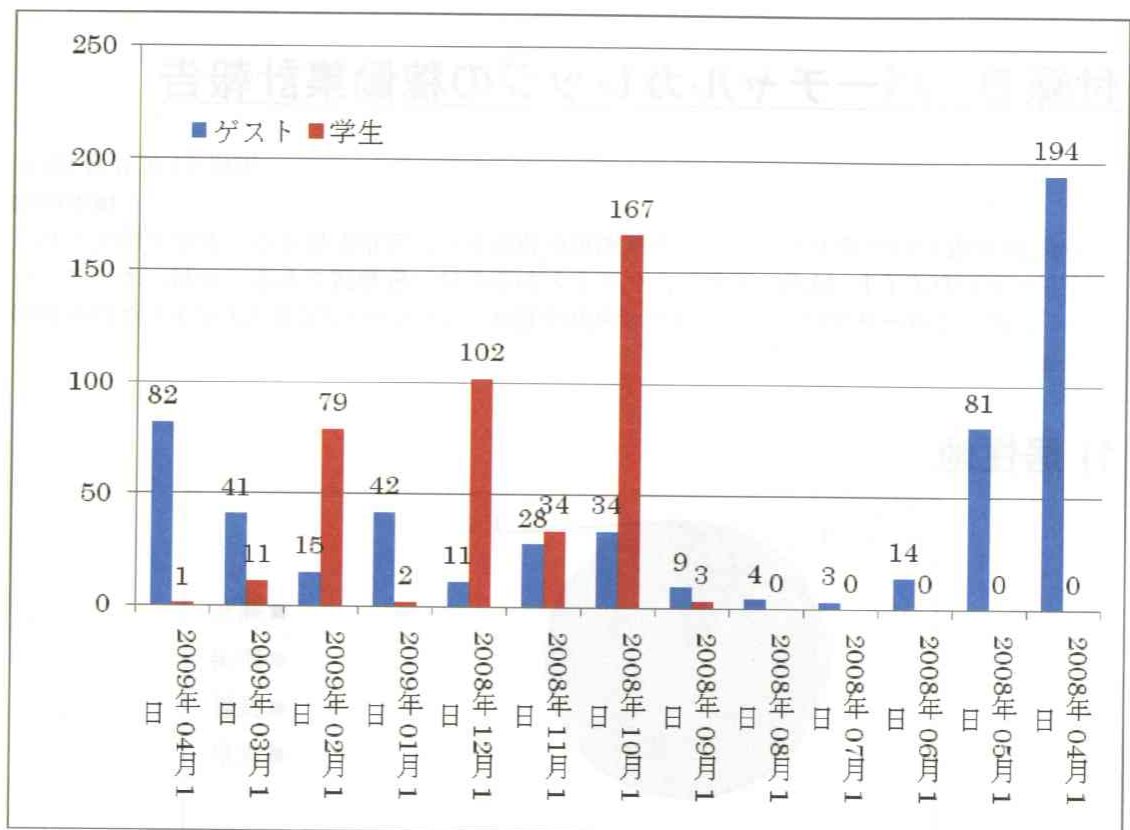
橋本明浩

平成 20 年度のバーチャルカレッジの稼働集計報告をし、考察を加える。表中で学生とあるのはドコカレのメイト (A,B) を示し、ゲストとあるのは一般聴講である。なお、オープンカレッジにおいてコースでは、ゲストユーザ利用を認めていないので学生 (メイト) だけの利用となる。

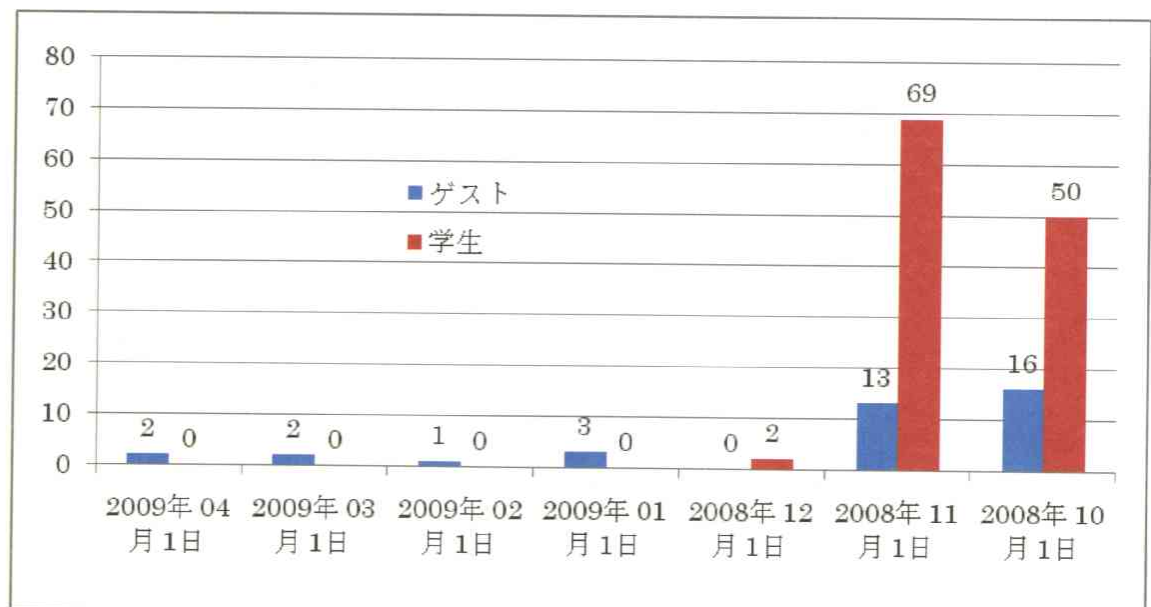
1) 居住地



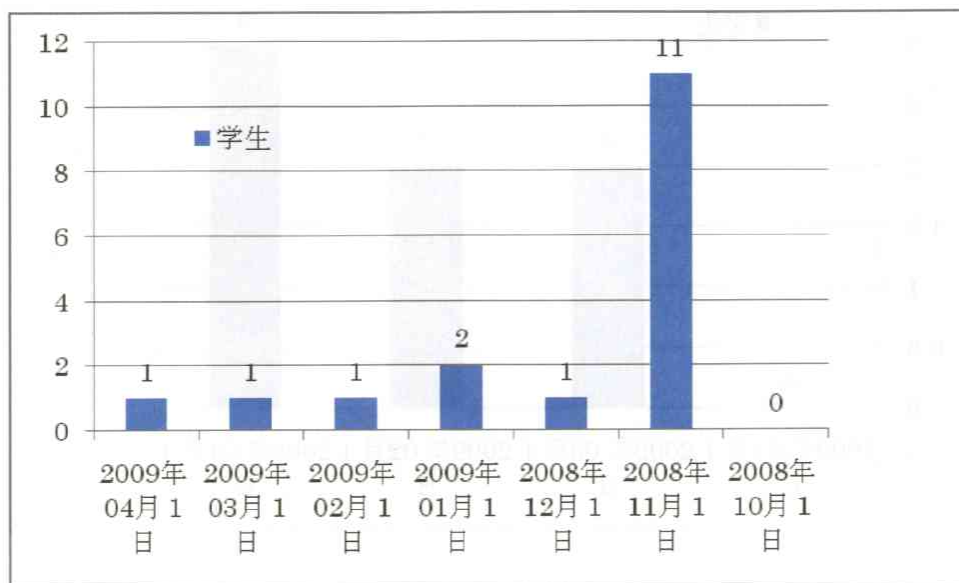
2) 臨床病理学



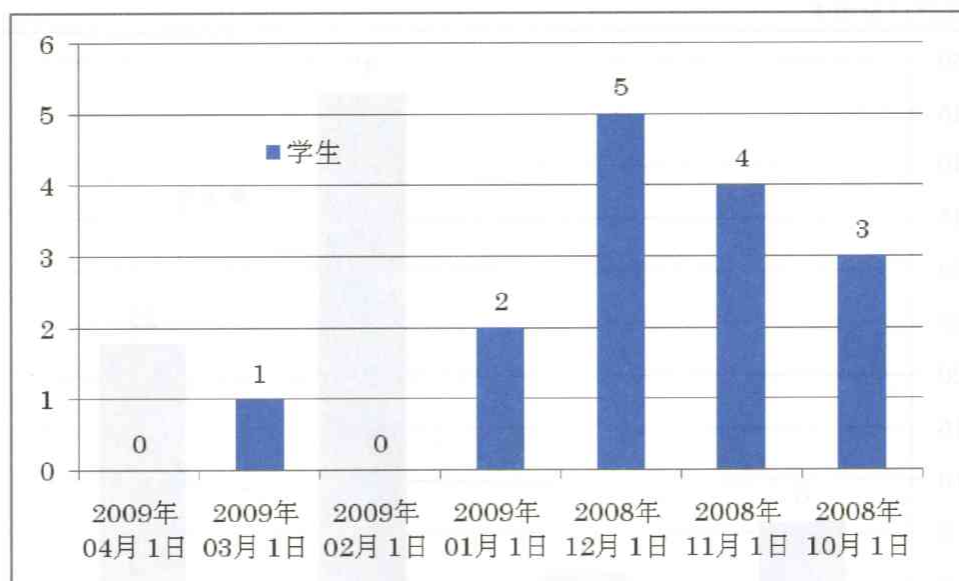
3) 看護情報処理セミナー



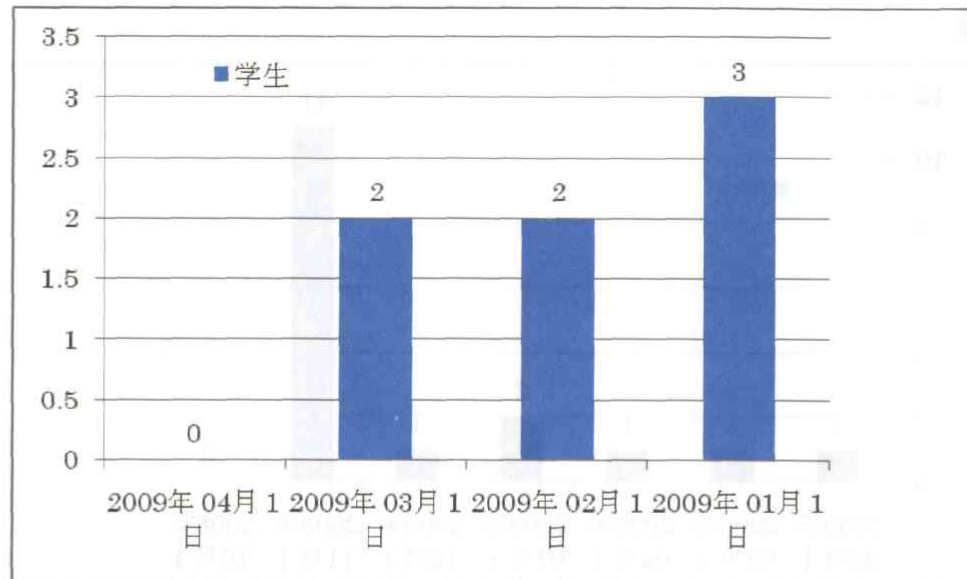
4) 看護師の臨床と『知』と、看護師が経験を積むことの意味



5) 看護と栄養管理

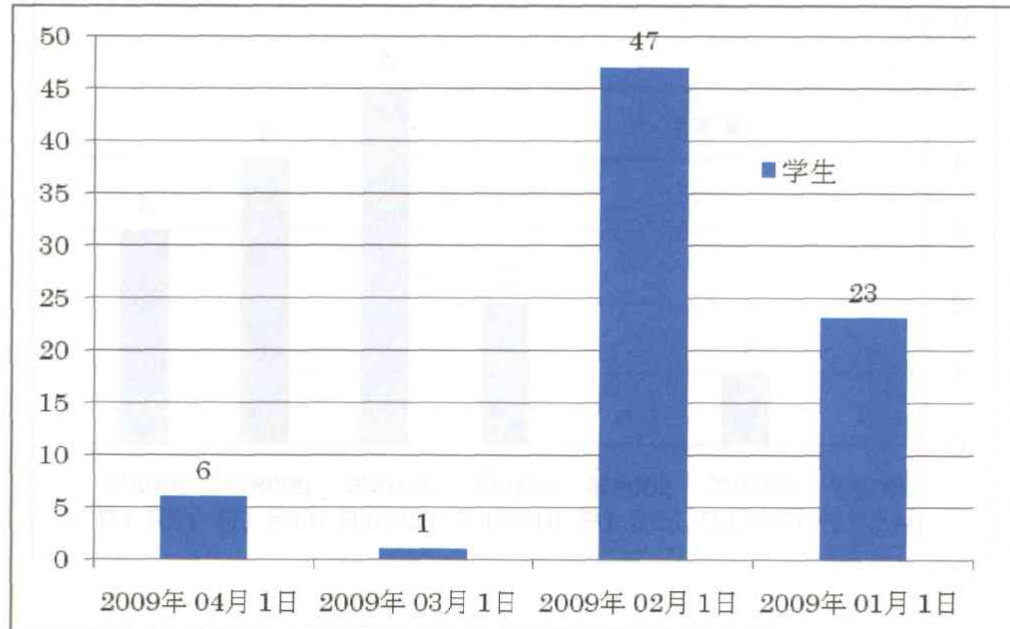


6) 看護と口腔ケア

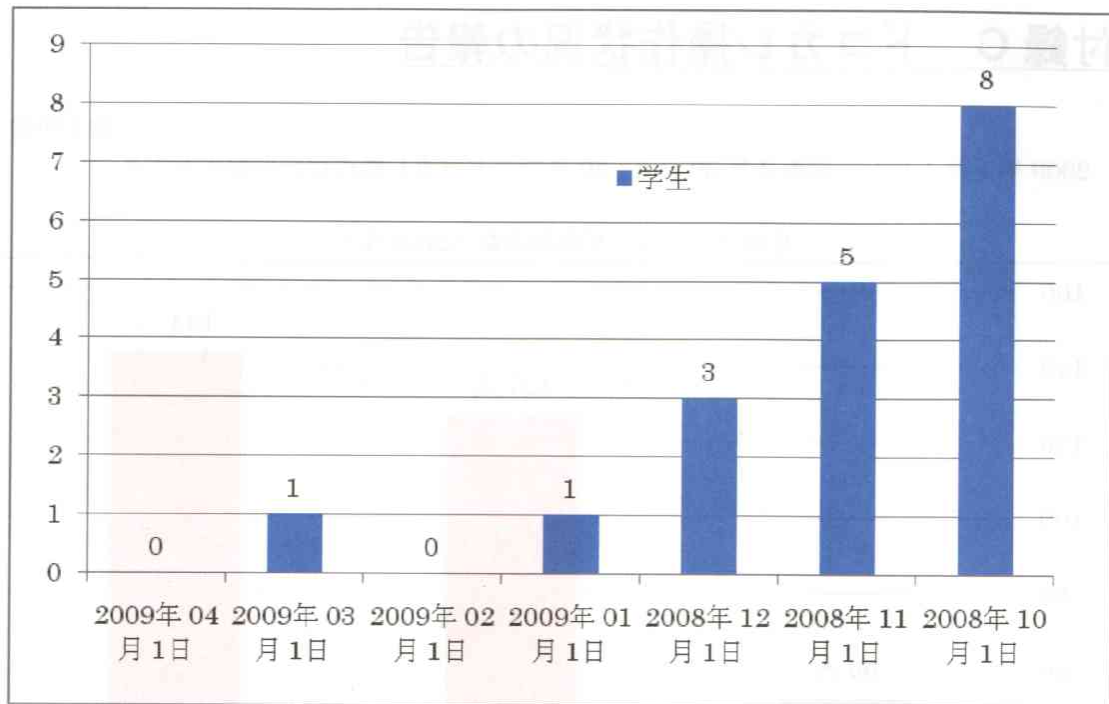


7) 注射法

注射法, 体位転換等のバーチャルカレッジコンテンツを作成したが, もっとも最初に作成した注射法だけを示す.



8) 医療安全セミナー



考察

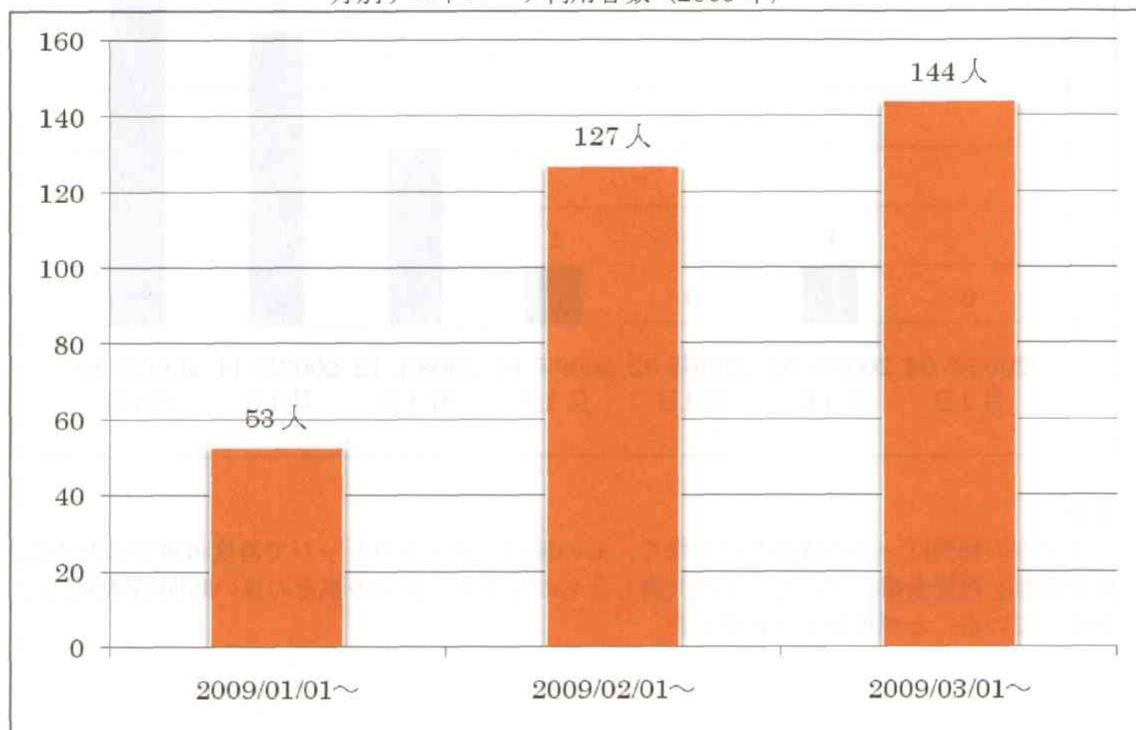
メイトの利用は一回の講義だけでなく、その後バーチャルカレッジで再度再復習のために、授業講義を再度受講している。また欠席したものなどが、自分の都合の良い時間(深夜)などに利用していることが集計より判明した。

付録 C ドコカレ操作状況の報告

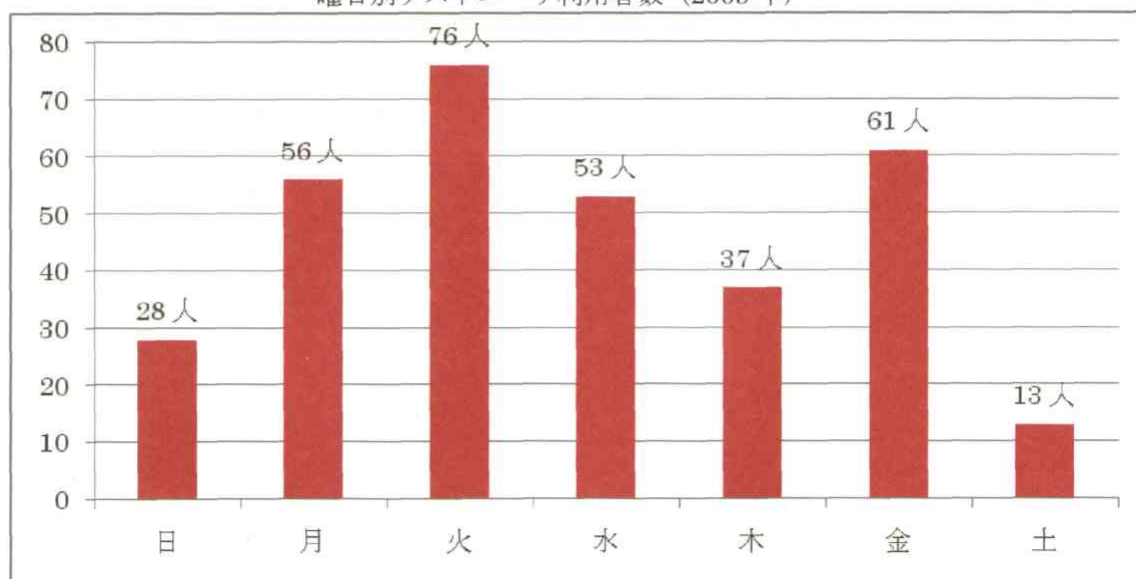
橋本明浩

2009年1月1日から同年3月30日8:30までのドコカレ操作状況の報告をする。

月別ゲストユーザ利用者数 (2009年)

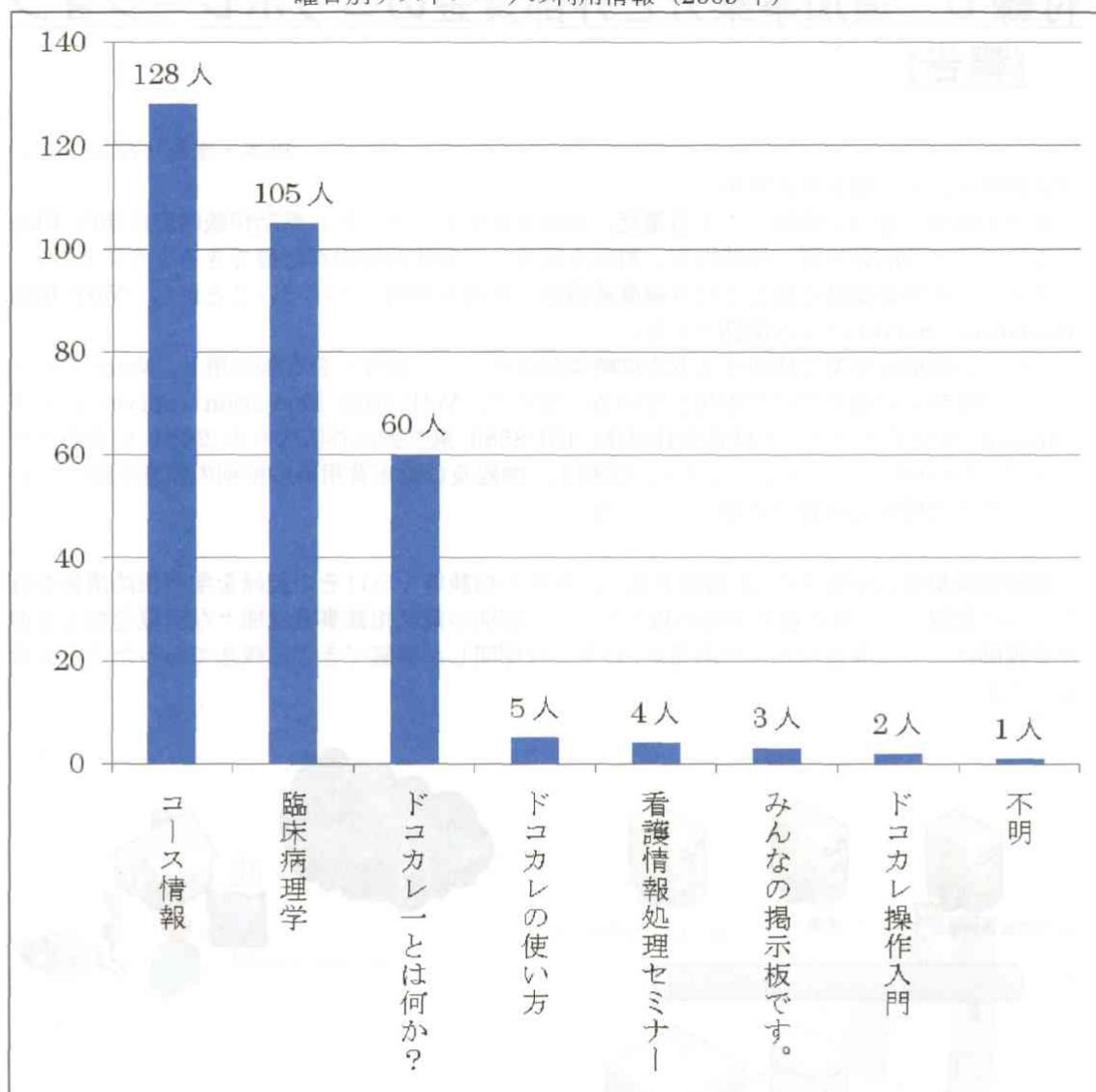


曜日別ゲストユーザ利用者数 (2009年)



2009年1月1日から2009年3月30日8:30まで

曜日別ゲストユーザの利用情報 (2009年)



対象はWEBでの事前了解の契約があるとみなすことができる匿名ゲストユーザである。

概要

- 1) 着実に月ごとにユーザが増加している,
- 2) 平日・夜間に見る人が多い,
- 3) コース概要をみてから→ドコカレとは→使用法→授業というような流れ,
であることがわかる.

付録 D 追加事業分と外部資金のコラボレーション (報告)

橋本・永吉・深山・吉山

非常勤職員による電話相談事業

非常勤職員（週 40 時間）による電話、相談事業をおこなった。電話相談内容は学内 Blog により、日々の活動状況、相談内容、対応を記述して全体的傾向が把握できるようにした。

本学では非常勤職員に関しては外線直通電話の利用を使用していないことから、VoIP 機能 Mediation Server による電話とした。

これらの機能は授業で使用する双方向映像配信サーバ（既存）を有効活用し、Voice ゲートウエイ（既存）の追加だけで実現している。加えて、VoIP 機能 Mediation Server および Gateway はマイクロソフト株式会社(本社 151-8583 東京都渋谷区代々木 2-2-1 小田急サザンタワー)のパイロットプロジェクトに応募し、機器及び設定費用等の格別の便宜を図っていただいたので特別な経費は必要としていない。

電話相談業務は年度末の 3 週間実施し、数件の相談等をうけその記録を学内相談情報共有サーバに記録し、今後の進め方等の糧としたい。個別の電話相談事業は様々な環境を抱える潜在看護師にとって有益なことであるが、わずかな期間しか実施できずに残念であったことも付記しておく。

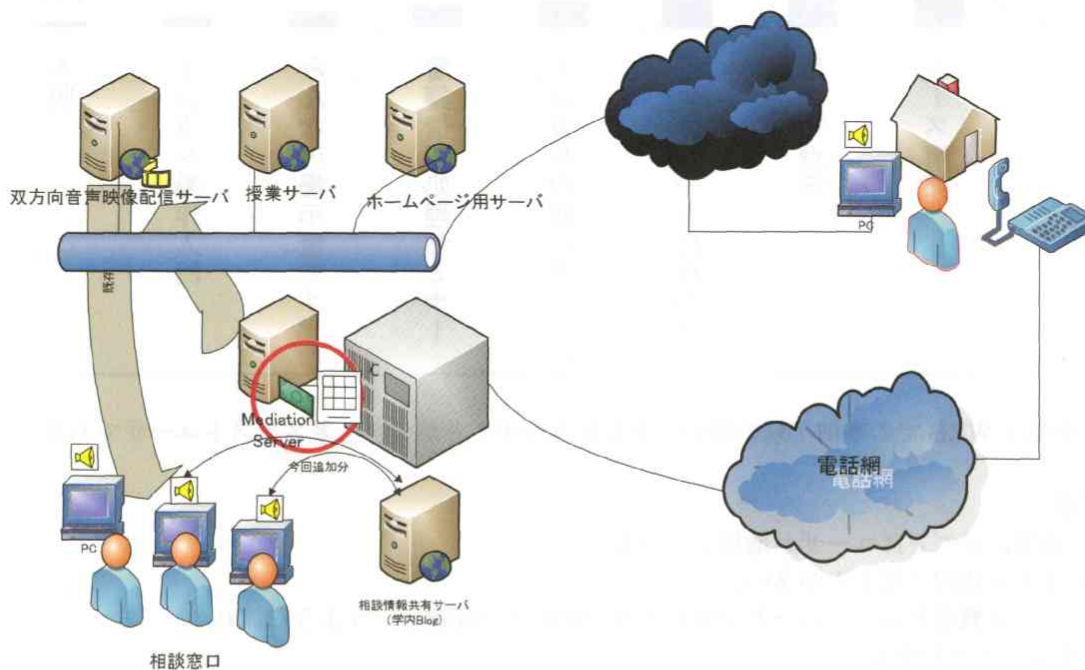


図 80 電話相談(追加事業分)の概念図

謝辞

本追加事業に対して、ご理解とご協力をいただいたマイクロソフト株式会社と文部科学省に深く感謝いたします。

付録 E インターネットを活用したネットワーク協調型 CBT の試作と問題点

橋本明浩¹, 永吉雅人¹, 深山真司¹, 吉山直樹¹

1) はじめに

本報告ではインターネットを基盤とした CBT (Computer Based Test, 以下 CBT) について報告する。CBT は本事業の一部をなす OSCE (Objective Structured Clinical Examination) とともに重要な看護・医学教育の両翼であるとも考えられている。そこで本事業で構築したバーチャルカレッジシステムの TEST 機能を活用しつつ、作業の合間の時間を有効活用して副産物的ではあるが、CBT の試作を行なったので、その手法と結果、問題点等を報告する。

2) 方法と意義

本事業ではバーチャルカレッジシステムを Moodle (Cole et al. [1]) で構築している。Moodle はネットワークを前提としたサーバクライアント型、ネットワーク協調方式の e-Learning System 構築ツールであり、わずかではあるが CMS (Course Management System) 機能までも含んでいる。Moodle の授業支援機能は豊富であり、教材作成、活動集計等多岐にわたる。その機能の中に標準的な SCORM/AICC (Sharable Content Object Reference Model/ Aviation Industry CBT Committee) 形式の教材のインポート・エクスポート機能、ネットワーク協調型がある。これらを使用すれば本事業で作成した教材・試験などを多くの大学で、そのまま利用可能である(すなわち、CBT に必要不可欠な数十万題にもおよぶ膨大な問題数を共有できるという大きなアドバンテージである)。

CBT の問題として、潜在看護師が過去 10 年前後までに受験した看護師国家試験問題、助産師国家試験問題等を採用した。作成した問題はその他関連国家試験問題等を含めてのべ約 10000 問となった。米国の看護師用 CBT の数十万問には遠く及ばないが、無作為抽出の対象とした問題数としては十分な大きさであると考えられる。なお、現場に遠ざかっている看護師にとって、これら問題に触れることは、試験に遠ざかっていた者に看護関連の記憶を呼び戻す効果があるとも期待される。

3) 作成問題(成果)

表 3 に作成した試験問題とその実施年等を示す。

4) 問題点

今回の試作で以下の点の問題点が明らかになった。

1. 法律等の改正・変更による正答・誤答の変移

看護・医療は法律、政令、通達等と密接な関係があり、それらは社会の事情などにより頻繁に改正される。それらを基盤とした問題は改正等により正答誤答の変移が発生した。

¹新潟県立看護大学

本事業は文部科学省「社会人学びなおしニーズ対応教育推進事業 看護師の学び直しを支援する地域指向型オープン/バーチャル・カレッジの試み」の事業で行なっている。

2. 学術的な進展による正答・誤答の変移

厚生労働省からの「医薬品・医療機器等安全性情報」はもとより、学術的な新たな発見などにより従前は、最適であったと考えられていた介入が、最適ではありえない場合があり、正答・誤答の変移が発生した。

3. 同時利用ユーザ数による制限

CBT システムでは、散発的な利用を前提に設計されており、主メモリ2GB、XEON 5400 シングル CPU 程度のシステムでは、同時 100 人の回答でも齟齬をきたしたが発生した。これは 10 万人単位の CBT では、高速なネットワークと大規模なコンピュータシステムでも深刻な問題を発生させる可能性があることを示唆している。

表 3 作成した CBT の試験名と実施年一覧

試験名	概要および実施年月等
第 91 回助産師国家試験	平成 20 年 2 月実施
第 90 回助産師国家試験	平成 19 年 2 月実施
第 89 回助産師国家試験	平成 18 年 2 月実施
第 88 回助産師国家試験	平成 17 年 2 月実施
第 87 回助産師国家試験	平成 16 年 2 月実施
第 97 回看護師国家試験	平成 20 年 2 月実施
第 96 回看護師国家試験	平成 19 年 2 月実施
第 95 回看護師国家試験	平成 18 年 2 月実施
第 94 回看護師国家試験	平成 17 年 2 月実施
第 93 回看護師国家試験	平成 16 年 2 月実施
第 94 回保健師国家試験	平成 20 年 2 月実施
第 93 回保健師国家試験	平成 19 年 2 月実施
第 92 回保健師国家試験	平成 18 年 2 月実施
第 91 回保健師国家試験	平成 17 年 2 月実施
第 90 回保健師国家試験	平成 16 年 2 月実施
その他	その他

5) 結論と今後の課題

わが国においても CBT の進展が望まれ、CBT に必要な膨大な問題作成の重要性は認識されている。しかし、看護医療のように発展・変化がめまぐるしく起きる分野では、膨大な問題の中から、正答・誤答の変移を的確に把握する必要性が明白となった。具体的には法令等を根拠とする問題には、タグまたはフィールドを設け、法律等の改正時には、確認・修正を行なう必要があると考えられる。

学術的な成果に伴う問題についても、分野等のフィールドを設け、新たな学術的な成果を取り入れる必要がある場合は、前述と同様に専門家による確認・修正を行なう必要があるだろう。

加えて、ハードウェア・ネットワークに関しても、同時利用による不具合が発生しないようなシステム設計が必要であることも見出せた。

様々な問題が前述以外に発見されたが、紙面の都合から別の機会に発表する予定である。

6) 謝辞

本学、入試委員長水口陽子准教授、また多くの試験問題の入力等に多大なご尽力をいただいた岡沢栄子氏、鴨井尚子氏、森田広美、野口公子、山口恵理子氏に深く感謝します。また関連

する多くの方々の支援によって成り立っていることを記し、関係の方々のご協力支援に深謝いたします。

7) 参考文献

1. Cole and et al.: *Using Moodle 2ed*, Teaching with the Popular Open Source Course Management System, O'Reilly 2007.
2. 西川 浩昭: 看護師等国家試験の CBT(Computer-Based Testing)化と CBT の解説, 日本赤十字豊田看護大学紀要, 3(1), 13-19. 2007
3. 西堀 好恵, 他:看護教育研究 自己学修および CBT をイメージしたコンピュータプログラム—利用者学生および MCQ 作成委員の意見を反映した改良, 看護教育, 47(6), pp.534-539. 2006.
4. 隆 朋也他:看護教育のセルフラーニングを支援するコンピュータプログラムの開発—CBT をイメージした MCQ, 看護教育研究, 44(12), pp.1089-1094. 2003.

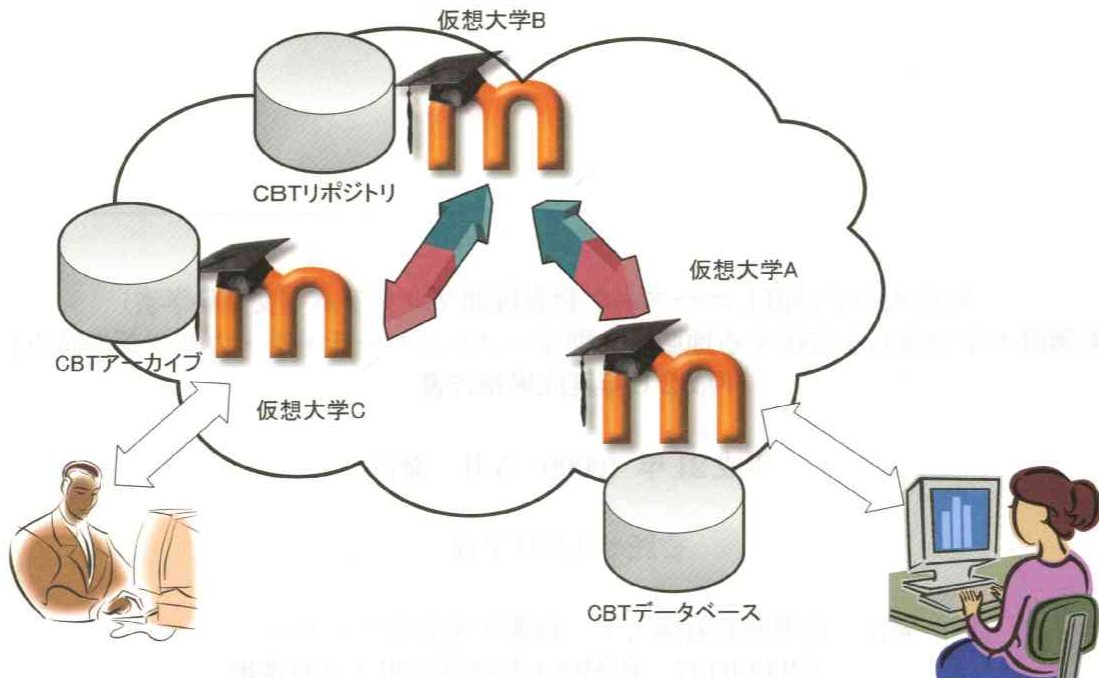


図 81 Moodle ネットワーク図